



名張市における 平成31年度全国学力・学習状況調査 結果・分析と今後の取組

令和元年 9 月
名張市教育委員会

なお、数値のみで対象児童生徒の学力が評価される、また、数値のみによりランク付けがなされる傾向にも、一定歯止めがかかる現状に鑑み、平成28年度より、本市全体の正答率等の状況を数値により公表しています。

中学校（全3年生 5中学校）：国語 589名、数学 590名、英語 590名、質問紙 590名

平成31年度	小学校		中学校			
調査項目 ※1	国語	算数	国語	数学	英語①	英語②
名張市 ※2	65	66	75	62	58	提供なし
全国比(%) ※3	101.9	99.1	103.0	103.7	103.6	—
H30との比較 ※4	+8.1	+8.8	+2.6	+1.1	—	—
三重県	64.2	66.7	71.7	60.3	56.0	提供なし
全 国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0	30.8

全国・三重県> 名張市

※4 H30との比較・・・平成30年度のA問題とB問題の平均をとり算出

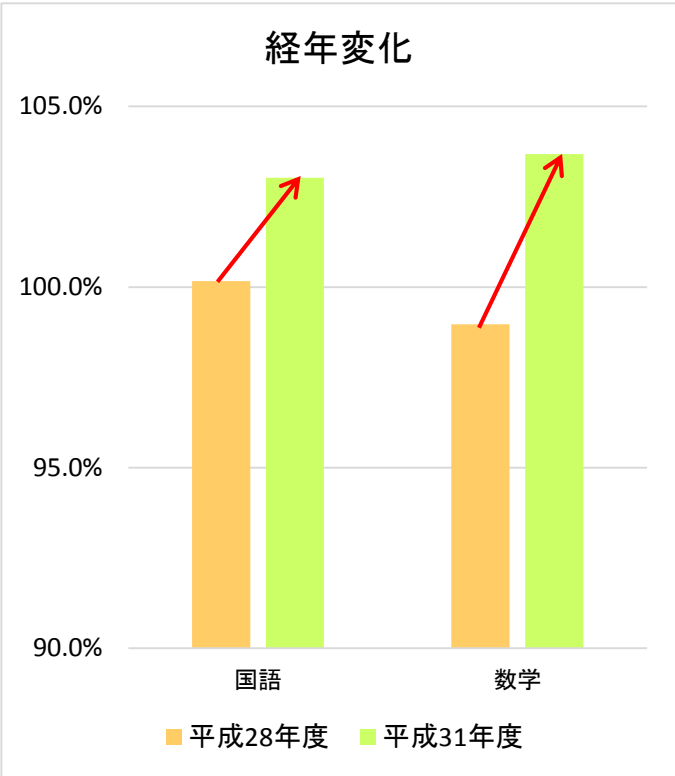
また、前年度全国比との比較では、国語、数学ともにプラスとなりました。

＜現中学校 3 年生生徒の小学校 6 年生時との比較＞

現中学校 3 年生の調査対象生徒の 3 年前（小学校 6 年生時）の全国比を比較すると、国語、算数・数学ともに 3 年前より伸びており、このよい傾向は、ここ数年続いています。

本年度 (平成31年度) 中学3年生	調査項目	国語		数学	
	名張市平均	75		62	
	全国比(%)	103.0		103.7	
	3年前との比較 ※1	+2.9		+4.7	
3年前 (平成28年度) 小学6年生時	全国比(%)	100.1		99.0	
		98.1	102.2	100.9	97.0
	調査項目	国語A	国語B	算数A	算数B

※ 1 3 年前との比較・・・平成28年度の A 問題と B 問題の平均をとり算出

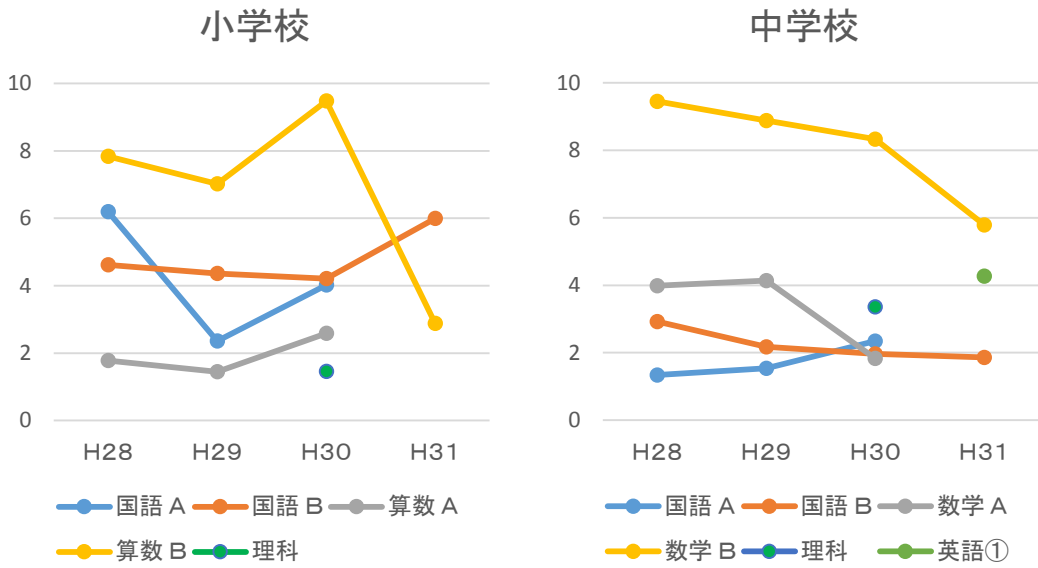


＜無解答率の状況＞（経年変化）

無解答率と平均正答率には強い相関関係があります。

本年度、小学校では、国語で無解答率が全国平均より低くなりましたが、算数は依然として全国平均より高くなっています。

中学校では、毎年すべての調査項目で無解答率が全国平均より低い、よい傾向が続いています。



※A・Bが統合された国語、算数・数学は、B問題としてグラフ化

	年度	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		年度
	調査項目	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	調査項目
小学校	国語A	6.19	5.29	2.36	2.77	4.02	3.51	5.99	6.21	国語
	国語B	4.62	4.62	4.36	4.31	4.21	3.76			
	算数A	1.78	1.79	1.45	1.59	2.59	2.48	5.47	2.66	算数
	算数B	7.84	7.37	7.02	6.42	9.48	7.93			
	理科	—	—	—	—	1.46	1.21	—	—	理科
中学校	国語A	1.34	2.05	1.54	2.43	2.34	3.15	1.86	2.64	国語
	国語B	2.92	4.39	2.17	3.80	1.96	3.01			
	数学A	3.99	6.30	4.14	6.25	1.83	3.28	5.79	7.31	数学
	数学B	9.45	14.69	8.88	11.71	8.33	12.61			
	理科	—	—	—	—	3.36	5.04	—	—	理科
	英語①	—	—	—	—	—	—	4.27	5.99	英語①

無解答率が全国と同じか低い

無解答率が全国より高い

2 各調査項目の結果概要

平均正答率・・・全国より良い傾向を(+)、そうでない傾向を(-)
無解答率・・・全国より良い傾向を(-)、そうでない傾向を(+)で表しています

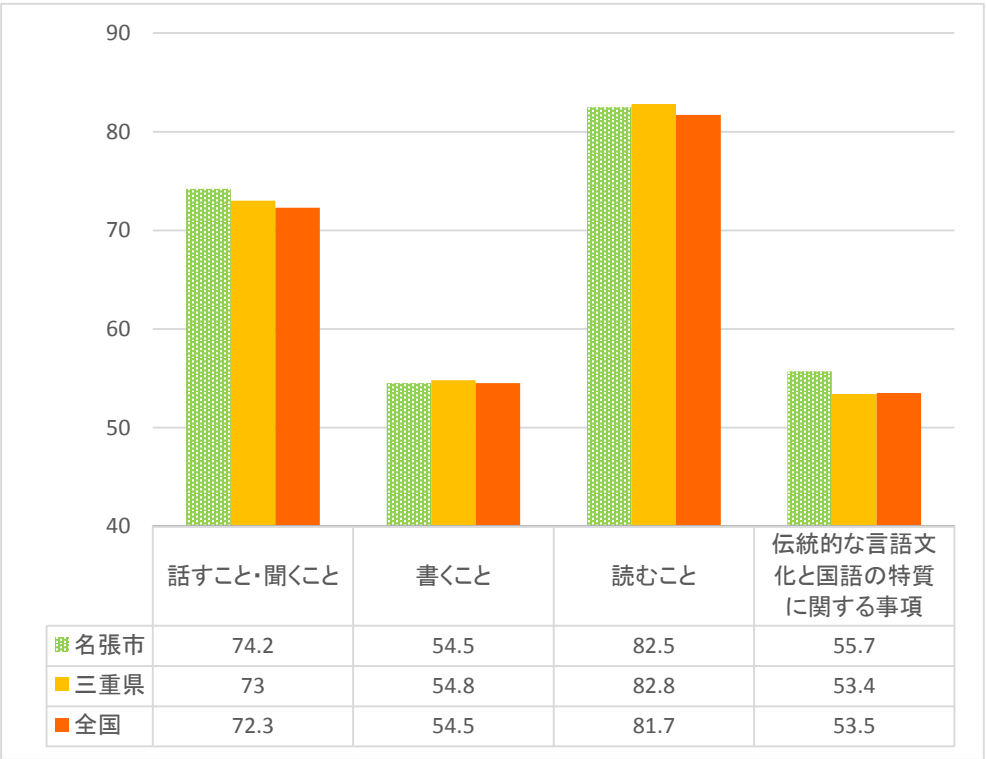
小学校	国語		
	名張市	全国	差
平均正答率	65	63.8	+1.2
無解答率	5.99	6.21	-0.22

＜平均正答数＞



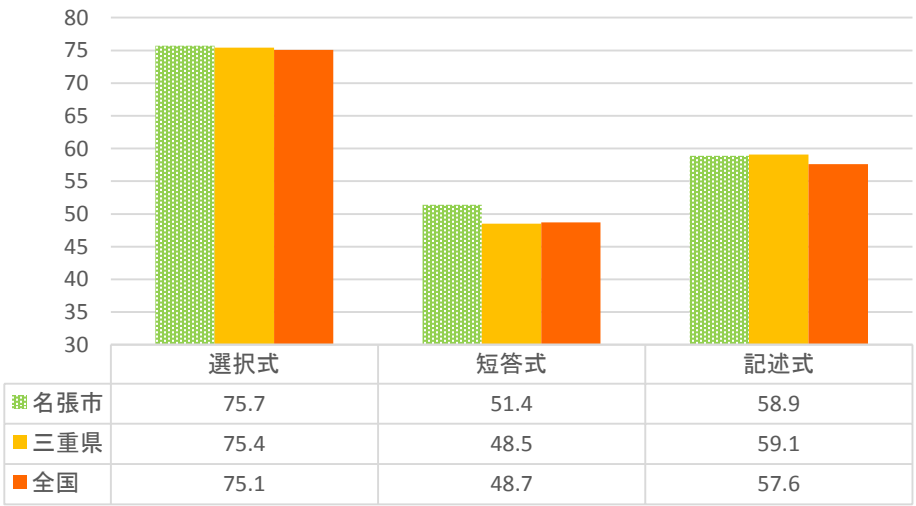
	名張市	三重県	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問	▲12.0問
第2四分位	◇10.0問	9.0問	◆10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問	▼7.0問

＜領域別／平均正答率＞



★領域別で見ると、名張市では「読むこと」が一番高く、次いで「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「書くこと」の順に低くなっている。

＜問題形式別／平均正答率＞



＜正答率が低かった問題の概要＞

- 1 三 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く 31.1% [記述式]
- 1 四(1)ウ 漢字を文の中で正しく使う (かんしんをもつ) 36.0% [短答式]
- 1 四(2) 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く 47.0% [短答式]
- 1 四(1)ア 漢字を文の中で正しく使う (調査のたいしょう) 48.3% [短答式]

＜無解答率が高かった問題の概要＞

- 3 三 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする 14.9% [記述式]
- 1 四(1)イ 漢字を文の中で正しく使う (友達にかぎらず) 12.8% [短答式]
- 1 四(2) 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く 12.6% [短答式]

＜学習指導に当たって＞

- 自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切である。その際、文章の種類や特徴を踏まえて書くことが重要である。(1 三)
- 漢字の学習指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切である。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、本問のように自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。(1 四(1)アイウ)
- 文章を書く様々な機会を捉えて、文脈に沿って接続語の役割を理解するとともに、接続語を使って文を分けて書く指導を工夫することが大切である。(1 四(2))
- 自分の考えをまとめるためには、相手からどのような情報を聞き出し、その情報をどのように活用するのかのように、インタビューの目的を明確にもって聞くことが重要である。(3 三)

特
に、

◆

30字

60字

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

- 【インタビュアーの様子】 の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
- インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること。
- 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

〈条件〉

三 岸さんは、インタビュ어의最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。【インタビュ어의様子】の **イ** に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうたわけではないと考えました。

なぜなら、◆

70字

40字

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

◆の印から書きましょう。どちらゆいで行を変えないで、続けて書きましょう。

- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

〈条件〉

三 高橋さんは「3 調査の結果をもとに考えたこと」の に「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) で分かったことをまとめて書いています。 に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

問題の趣旨

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

正 答 率 68.7%
無解答率 14.9%
※7人中1人の割合で無解答でした。

問題の趣旨

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる。

正 答 率 3 1 . 1 %
無解答率 4 . 2 %
※ 3 人 中 2 人 の 割 合 で 誤 答 で し た 。



書く字数に制限があるものの、60～70字以内とそれほど多くはない。しかし、複数の条件に合わせて書くことに課題がある。

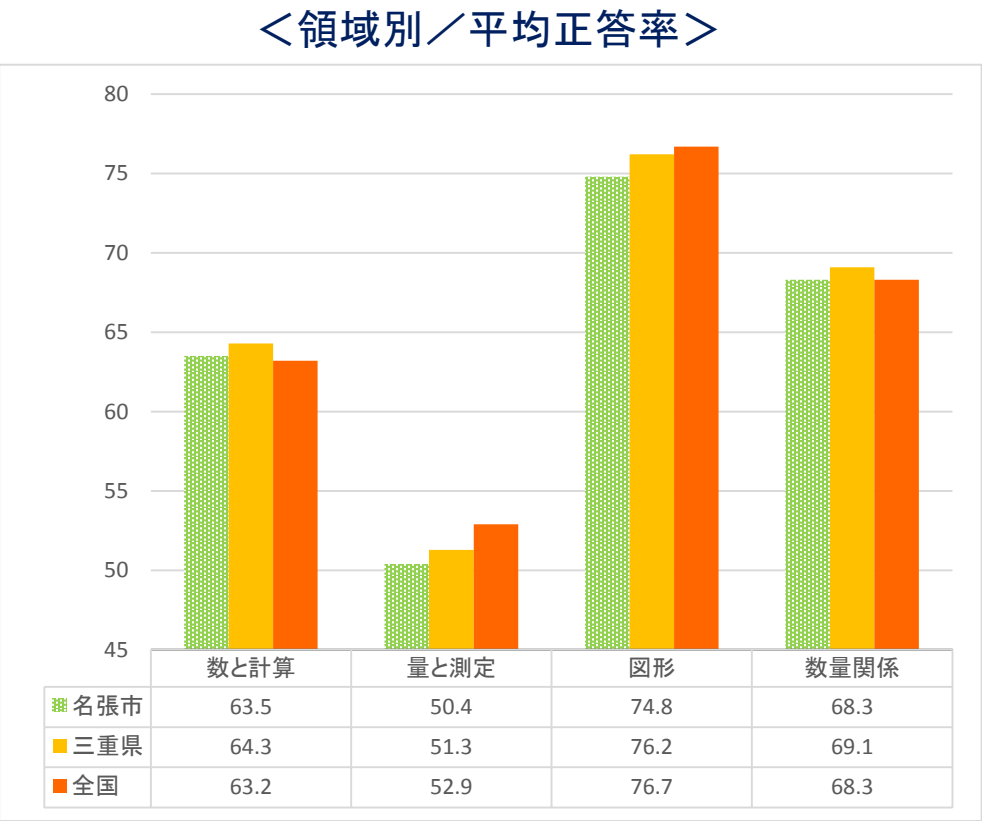
右の問題では、満たすべき3つの条件が示されている。中でも1つ目の条件からは、(1)と(2)の両方から、言葉や文を取り上げて、という2つのメッセージを読み取る必要がある。実際、本文中の(1)と(2)のいずれかのみしか取り上げていない誤答は、30.9%を占めている。また、(1)と(2)の文章中の分かったことについて注目すべきところを、それ以外の内容を取り上げている誤答も、9.4%である。問題文をしっかりと読み取り、本文のどの部分を読み返せばいいのか判断すること、理由や根拠を明確にして書くこと等が課題と考えられる。

ただ単に書かせる機会を増やすだけではなく、条件を与えて書かせる等、指導の工夫とともに、きちんと書けているかを評価し、書く力をつけるための学習指導を積み重ねていく必要がある。

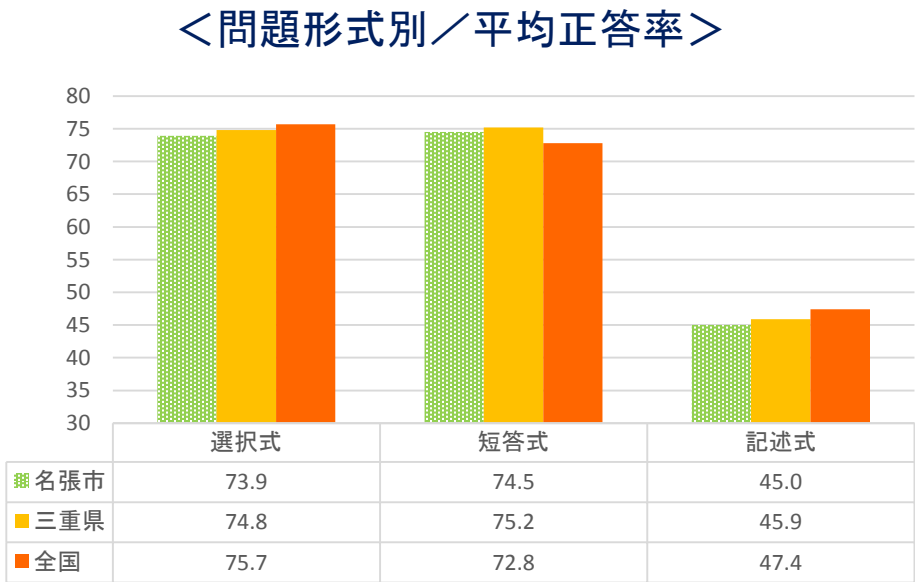
小学校	算数		
	名張市	全国	差
平均正答率	66	66.6	-0.6
無解答率	5.47	2.66	+2.81



	名張市	三重県	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問	▲12.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問	◆10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問	▼7.0問



★領域別で見ると、名張市では「図形」が一番高く、次いで「数量関係」、「数と計算」、「量と測定」の順に低くなっている。



＜正答率が低かった問題の概要＞

- 3(2) 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなになるのかを書く 28.7% [記述式]
- 1(3) 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く 39.3% [記述式]
- 3(4) 1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ 42.9% [選択式]
- 2(3) 2つの棒グラフから、1人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く 52.3% [記述式]

＜無解答率が高かった問題の概要＞

- 3(2) 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなになるのかを書く 13.3% [記述式]
- 1(3) 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く 8.4% [記述式]

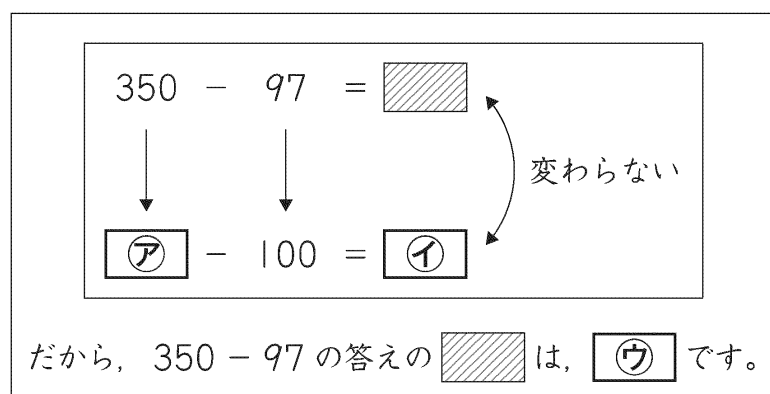
＜学習指導に当たって＞

- 図形の合成や分解などの図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにすることが重要である。（1(3)）
- 目的に応じて、必要な資料を収集し、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄について判断することができるようにすることが重要である。（2(3)）
- 適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにすることが重要である。（3(2)）
- 問題を解決する過程で、演算を決定し立式した後、答えを求めるために計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫すると、計算を能率的にすることができることがある。その際、必要に応じて、それぞれの式が何を表しているのかを振り返ることで、式の意味についての理解を深めることができるようにすることが重要である。（3(4)）

平成31年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

算数③ 計算の仕方の解釈と発展的な考察（計算の工夫）

- (1) 【ともやさんの計算の仕方】をもとに、 $350 - 97$ について、計算しやすいようにひく数の 97 を 100 にした式で考えます。



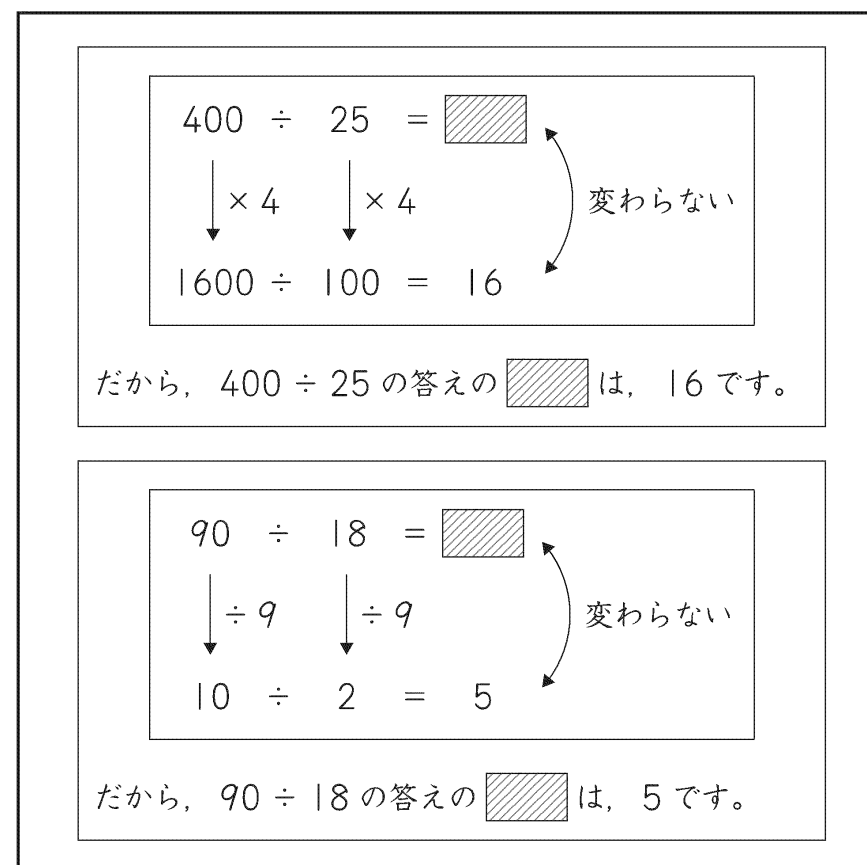
上のア、イ、ウに入る数を書きましょう。

正答率 83.4%
無解答率 1.0%
※高い正答率でした。

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

【ことねさんの計算の仕方】



- (2) ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の [] の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

問題の趣旨

示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

＜正答例＞ わられる数とわる数に同じ数をかけても、
わられる数とわる数を同じ数でわっても、
商は変わりません。

正答率 28.7%
無解答率 13.3%
※4人中3人の割合で誤答でした。



(1)、(2)の問題だけで4ページにも渡って記載されているため、文章や図を読み取り、何を問われているか、どのページのどの部分をヒントに考えればよいかを判断することが重要になってくる。

同じ数をかける場合と同じ数でわる場合の両方が書けていない誤答が5.4%、両方書けているが商という言葉を使って結論を書けていない誤答が12.0%である。

計算問題を何問も解いて計算の技能を高めるだけでなく、計算の工夫として、除法に関して成り立つ性質を見だし、どんな数でも成り立つことを確認し、成り立つ性質を算数の用語を用いて表現する活動を取り入れていく必要がある。その中で、工夫して計算することのよさを実感させ、さまざまな場面で活用できるようにさせたい。

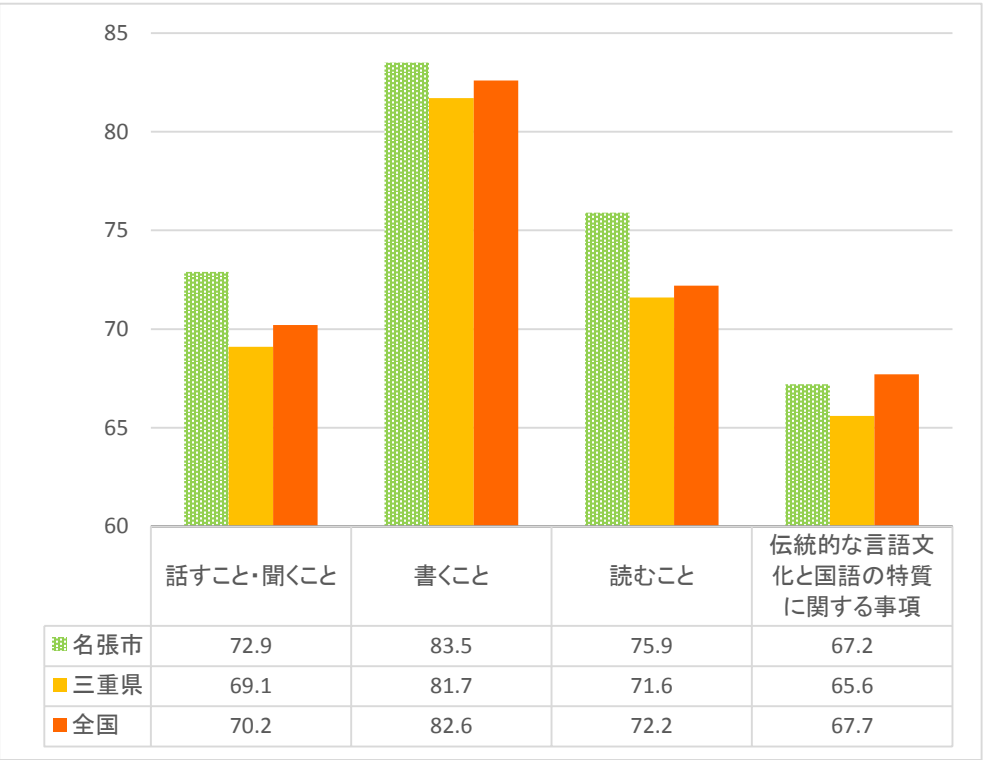
中学校	国語		
	名張市	全国	差
平均正答率	75	72.8	+2.2
無解答率	1.86	2.64	-0.78

＜平均正答数＞



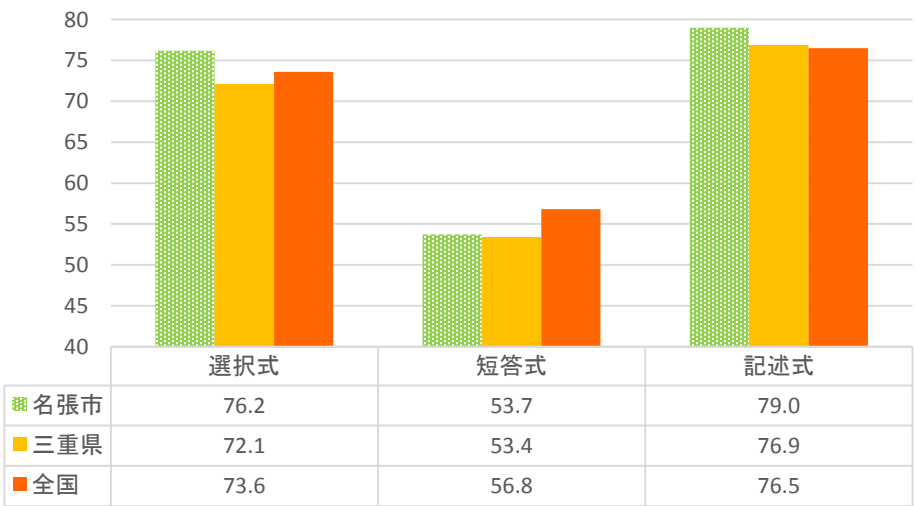
	名張市	三重県	全国
第3四分位	△ 9.0問	9.0問	▲ 9.0問
第2四分位	◇ 8.0問	8.0問	◆ 8.0問
第1四分位	▽ 6.0問	6.0問	▼ 6.0問

＜領域別／平均正答率＞



★領域別で見ると、名張市では「書くこと」が一番高く、次いで「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の順に低くなっている。

＜問題形式別／平均正答率＞



＜正答率が低かった問題の概要＞

- 1 四 「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く
53.7% [短答式]

■ 投稿先
〒100-6543 東京都千代田区中央3
全国中学生新聞「声の広場」係
FAX 000-123-xxxx
メール zenkoku@xxx.xx.xx

条件1
縦書きで書くこと
条件2
「様」ではなく
「御中」と書くこと



＜無解答率が高かった問題の概要＞

- 2 三 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く
6.3% [記述式]

＜学習指導に当たって＞

- 手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むために重要である。その際、相手の名前を他の文字より大きく書くことなど、手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせることが大切である。（1 四）
- 話合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導することが大切である。その際、必要に応じて話合いの話題について確認したり、話合いの経過を捉えたりすることができるように指導することも重要である。（2 三）

平成31年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

三
場面③のAで山下さんは、「どうするか決まっていらないこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていらないこと」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていらないこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--

四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。【全国中学生新聞】に示されている投稿先の名前と住所を次の条件1と条件2にしたがって、楷書でいねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。

条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

1 0 0 6 5 4 3

原稿在中

問題の趣旨

話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

正答率 63.5%
無解答率 6.3%
※3人中1人の割合で誤答でした。

問題の趣旨

封筒の書き方を理解して書くことができるかどうかをみる。

正答率 53.7%
無解答率 4.2%
※2人中1人の割合で誤答でした。



書く字数の制限はなく、限られたスペースにどのように書くか、その内容が問われている。しかし、複数の条件や問題文の指示(楷書でいいいに、実際に話すように等)に合わせて書くことに課題がある。

右の問題では、満たすべき2つの条件が示されている。解答を詳しく分析してみると、パーフェクトの解答は12.9%と低く、（正答扱いだが）名前と住所の大きさが異なる解答が38.4%、名前と住所を書く位置が大きく偏っている解答が2.4%である。

表書きの宛て名や住所を正しく書けるかどうかは、手紙を書いた経験があるかが大きく影響する。携帯電話等の普及により、実際に手紙のやりとりをする機会が減りつつある中、実際に手紙のやりとりを行わせる等の学習が必要である。

<正答例>

1006543

東京都千代田区中央三

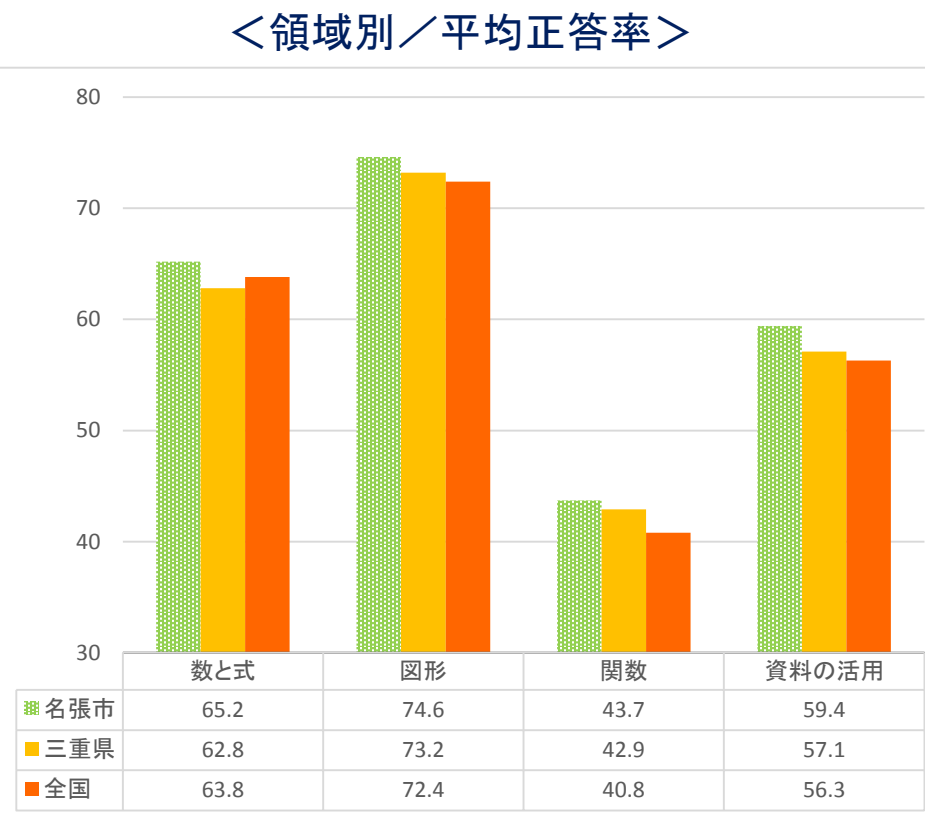
全国中学生新聞「声の広場」係御中

原稿在中

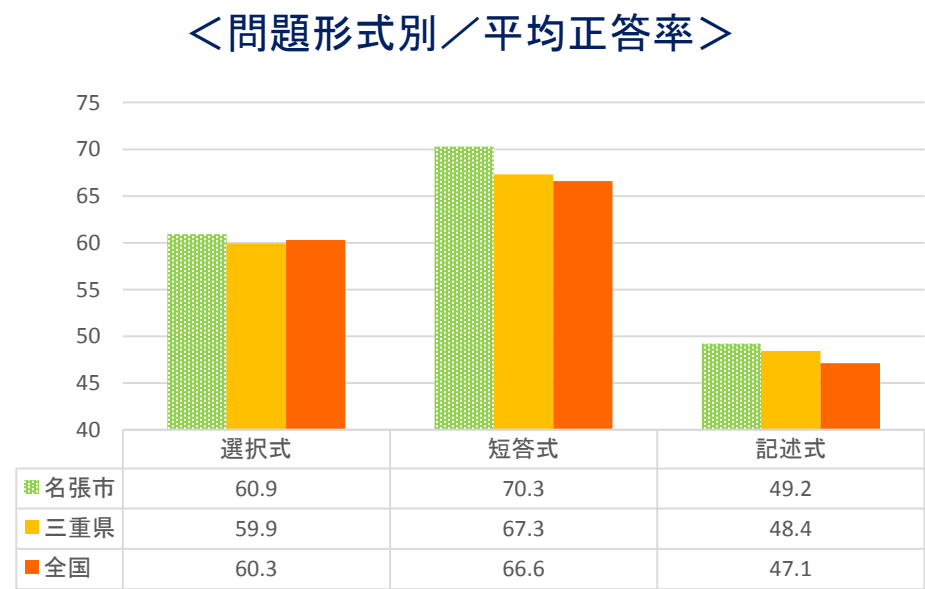
中学校	数学		
	名張市	全国	差
平均正答率	62	59.8	+2.2
無解答率	5.79	7.31	-1.52



	名張市	三重県	全国
第3四分位	△13.0問	13.0問	▲13.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問	◆10.0問
第1四分位	▽7.0問	6.0問	▼6.0問



★領域別で見ると、名張市では「図形」が一番高く、次いで「数と式」、「資料の活用」、「関数」の順に低くなっている。



＜正答率が低かった問題の概要＞

- 6(2) 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。 34.9% [記述式]
- 6(1) 冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ。 42.0% [選択式]
- 8(2) 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。 42.5% [記述式]

＜無解答率が高かった問題の概要＞

- 8(2) 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。 18.8% [記述式]
- 7(3) 四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する。 14.6% [記述式]
- 9(2) 連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。 13.6% [記述式]

＜学習指導に当たって＞

- 問題解決において用いたグラフ上の2点のy座標の差を事象に即して解釈する活動を取り入れることで、グラフを事象に即して解釈できるように指導することが大切である。（6(1)）
- 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるように指導することが大切である。（6(2)）
- 与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。（7(3)）
- 代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、批判的に考察し判断できるように指導することが大切である。（8(2)）
- 事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導することが必要である。（9(2)）

数学4 比例，反比例

4 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6		-6	-3	-2	...

問題の趣旨

関数を用いて事象を捉え考察する場面において必要となる、次のことができるかどうかをみる。

- ・事象に即して解釈したことを数学的に表現すること
- ・反比例の表から、 x と y の関係を式で表すこと

正答率 54.1%
無解答率 7.3%
※2人中1人の割合で誤答でした。



対応表をもとに反比例の関係式を作るという基本的な技能が身についていない。比例、反比例のみならず、2つの数量の変化や対応の様子に着目して関係を自ら見だし、式、グラフで表現する学習を積み上げる必要がある。

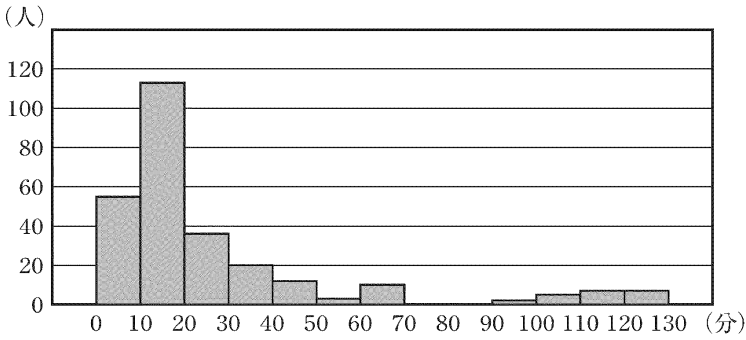
数学8 分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断すること（図書日より）

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間（分）	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」
桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

問題の趣旨

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

正答率 42.5%
無解答率 18.8%
※5人中4人の割合で無解答でした。



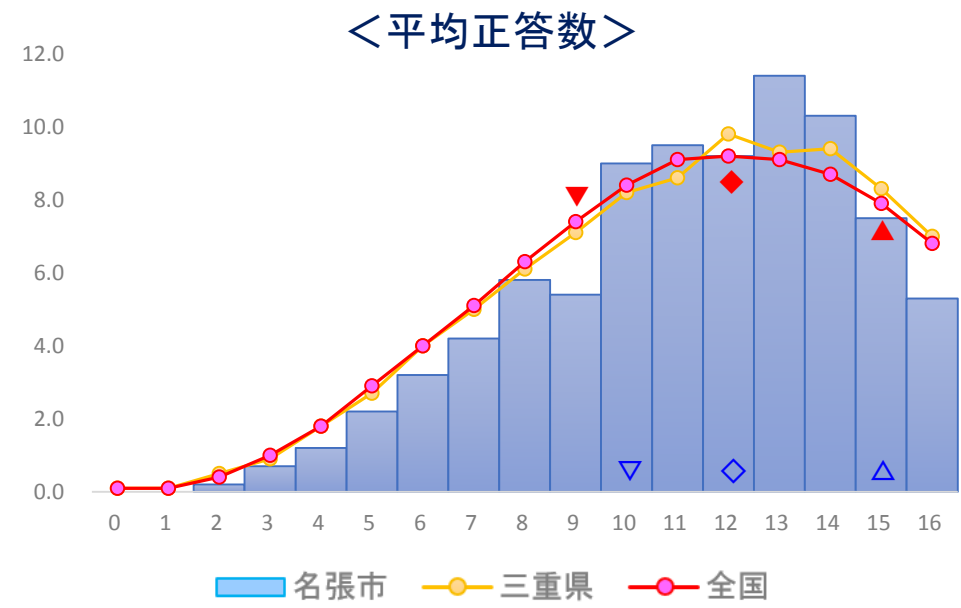
平均値の意味やヒストグラムの特徴が理解できていないと考えられる。

収集したデータを度数分布表やヒストグラムに整理する活動だけでなく、代表値や資料の散らばりに注目して、その資料の傾向を考察する活動が大切である。

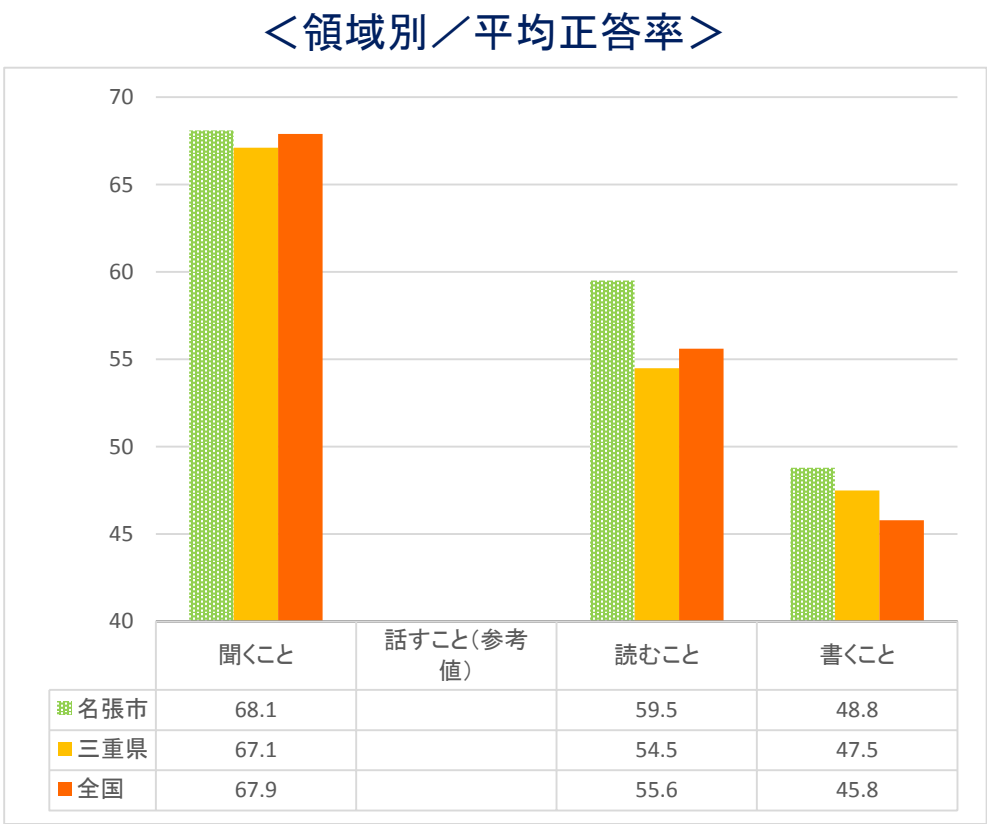
代表値についても、言葉の意味はもちろんのこと、平均値、中央値、最頻値を用途によって使い分け、度数分布表やヒストグラムのどこに表れるかを確かめる活動等を通して、理解を深めさせたい。

なお、新学習指導要領の実施に伴い、平均値、中央値、最頻値の学習は、小学校6年生に移行される。

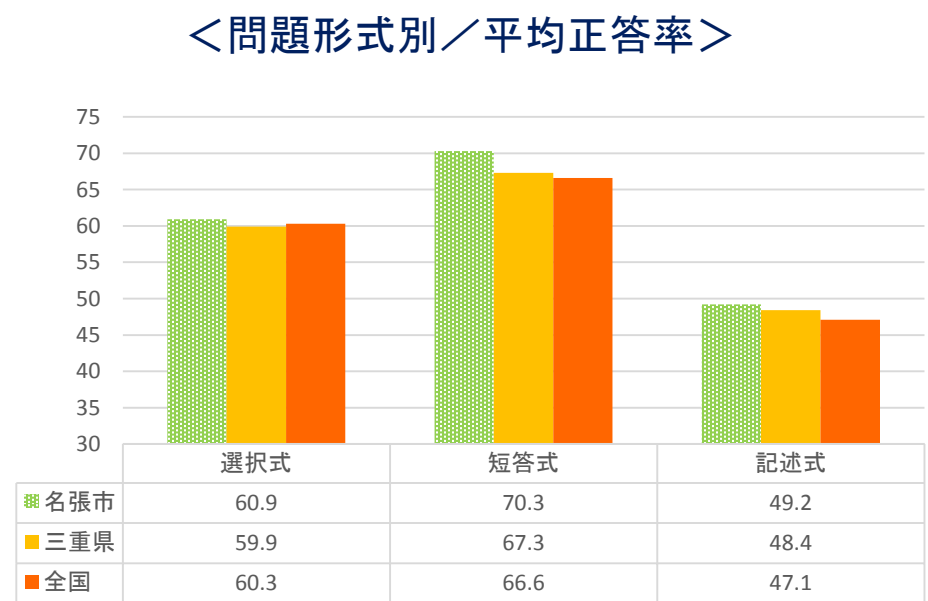
中学校	英語 (聞くこと・読むこと・書くこと)		
	名張市	全国	差
平均正答率	58	56.0	+2.0
無解答率	4.27	5.99	-1.72



	名張市	三重県	全国
第3四分位	△15.0問	15.0問	▲15.0問
第2四分位	◇12.0問	12.0問	◆12.0問
第1四分位	▽10.0問	9.0問	▼9.0問



★領域別で見ると、名張市では「読むこと」が一番高く、次いで「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「書くこと」の順に低くなっている。



＜正答率が低かった問題の概要＞

- 10 学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く。 2.0%〔記述式〕
- 4 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く。 9.3%〔記述式〕
- 8 食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く。 14.4%〔記述式〕
- 9(2)② 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く。 30.7%〔短答式〕
- 7 チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する。 32.2%〔選択式〕

＜無解答率が高かった問題の概要＞

- 4 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く。 33.7%〔記述式〕
- 8 食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く。 20.5%〔記述式〕

＜学習指導に当たって＞

- 場面などの設定を工夫しながら、話し手がどのような人で、何を求めているか、この場面においてどのような応答がふさわしいのか考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させることが重要である。また、日頃から生徒と英語でのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせていくことも必要である。（4）
- 読んだことについて、自分の考えを述べる際には、単に内容を理解するだけでなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切である。（8）
- 文を正しく書くためには、言語材料の定着が必要である。コミュニケーションにおいて時制や人称は大事な事柄であり、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。（9(2)②）
- 与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く際には、まずはテーマについての自分の考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書き表す必要がある。（10）

平成31年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

英語4 聞いた内容について適切に応じる

問題の趣旨

聞いて把握した内容について、適切に応じることができるかどうかをみる。

4 英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。解答時間は1分30秒です。それでは始めます。

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

正答率 9.3%
無解答率 33.7%
※10人中9人の割合で誤答でした。
3人中2人の割合で無解答でした。

1回しか読み上げられない放送を聞いて把握した内容について、限られた解答時間（1分30秒）の中で適切に応じることに課題がある。

英語8 読んだ内容について適切に応じる

8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

問題の趣旨

書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるかどうかをみる。

正答率 14.4%
無解答率 20.5%
※7人中6人の割合で誤答でした。
5人中4人の割合で無解答でした。

書かれた内容（食糧問題）に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や問いかけ、書き手の意見などをとらえることに課題がある。

英語10 まとまりのある文章を書く

問題の趣旨

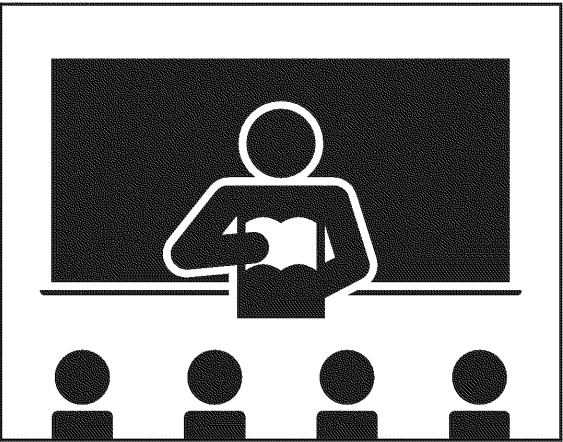
与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

正答率 2.0%
無解答率 5.1%
※全国的にもかなり低い正答率でした。

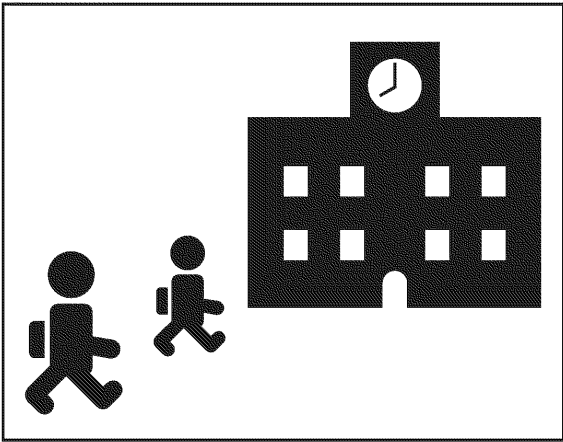
与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題がある。

10 海外のある町が、外国人旅行客にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【A】



【B】



3－① 児童生徒質問紙調査結果

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。
ここでは、名張市平均を平成30年度（質問が削除されていた場合は平成29年度）と比較したときの増減を矢印で、全国平均と比較したときの差を数値で示しています。

小学校

※数字は、質問のあとに記載の（ ）内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	H30	増減	H31
学習習慣等	家で自分で計画を立てて、勉強をしていますか(当てはまる)	名張市	29.6	↗	30.0
		全国	30.7		33.1
		全国との差	-1.1		-3.1
	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む(2時間以上勉強する)	名張市	22.6	↘	21.7
		全国	29.3		29.3
		全国との差	-6.7		-7.6
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか(当てはまる)	名張市	56.6 (H29)	↗	65.7
		全国	50.5 (H29)		59.5
		全国との差	+6.1		+6.2
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	30.6 (H29)	↘	25.3
		全国	25.5 (H29)		26.5
		全国との差	+5.1		-1.2
	国語の勉強は大切だと思いますか(当てはまる)	名張市	68.9 (H29)	↘	68.5
		全国	65.7 (H29)		68.6
		全国との差	+3.2		-0.1
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	47.7 (H29)	↗	49.5
		全国	38.9 (H29)		41.2
		全国との差	+8.8		+8.3
算数	算数の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	26.8	↗	34.4
		全国	33.9		40.6
		全国との差	-7.1		-6.2
	算数の勉強は大切だと思いますか(当てはまる)	名張市	61.5	↗	73.5
		全国	67.3		75.6
		全国との差	-5.8		-2.1
	算数の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	48.1	↗	53.6
		全国	42.1		49.3
		全国との差	+6.0		+4.3
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか(当てはまる)	名張市	40.3 (H29)	↗	45.3
		全国	37.2 (H29)		42.1
		全国との差	+3.1		+3.2
ICT	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	H31から新設	—	37.6
		全国			30.6
		全国との差			+7.0
	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか(当てはまる)	名張市	H31から新設	—	65.7
		全国			60.8
		全国との差			+4.9

	質問事項	年度	H30	増減	H31
学習習慣等	家で自分で計画を立てて、勉強をしていますか(当てはまる)	名張市	21.2	↘	15.4
		全国	16.6		14.9
		全国との差	+4.6		+0.5
	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む(2時間以上勉強する)	名張市	32.7	↘	28.2
		全国	36.4		35.5
		全国との差	-3.7		-7.3
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか(当てはまる)	名張市	35.3(H29)	↗	45.3
		全国	30.1(H29)		37.3
		全国との差	+5.2		+8.0
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	20.3(H29)	→	20.3
		全国	23.8(H29)		24.6
		全国との差	-3.5		-4.3
	国語の勉強は大切だと思いますか(当てはまる)	名張市	56.7(H29)	↗	56.8
		全国	56.1(H29)		59.0
		全国との差	+0.6		-2.2
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	30.3(H29)	↗	33.4
		全国	26.8(H29)		28.4
		全国との差	+3.5		+5.0
数学	数学の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	34.3	↗	35.8
		全国	25.7		30.7
		全国との差	+8.6		+5.1
	数学の勉強は大切だと思いますか(当てはまる)	名張市	53.8	↗	53.9
		全国	45.9		49.8
		全国との差	+7.9		+4.1
	数学の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	44.6	↗	45.8
		全国	28.2		34.8
		全国との差	+16.4		+11.0
英語	英語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	H31から新設	—	32.0
		全国			29.0
		全国との差			+3.0
	英語の勉強は大切だと思いますか(当てはまる)	名張市	H31から新設	—	65.3
		全国			58.9
		全国との差			+6.4
	英語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	H31から新設	—	40.0
		全国			29.5
		全国との差			+10.5
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか(当てはまる)	名張市	36.6	↗	38.6
		全国	33.2		34.0
		全国との差	+3.4		+4.6
ICT	1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	H31から新設	—	12.1
		全国			30.6
		全国との差			-18.5
	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか(当てはまる)	名張市	H31から新設	—	46.6
		全国			48.0
		全国との差			-1.4

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	H30	増減	H31
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	82.0	↗	86.4
		全国	84.8		86.7
		全国との差	-2.8		-0.3
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	38.1	↘	33.8
		全国	41.4		38.9
		全国との差	-3.3		-5.1
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	60.1	↘	55.2
		全国	59.9		58.7
		全国との差	+0.2		-3.5
自己有用感等	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	40.1	↘	37.2
		全国	41.2		38.8
		全国との差	-1.1		-1.6
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか(当てはまる)	名張市	48.5	↗	49.4
		全国	42.5		43.1
		全国との差	+6.0		+6.3
	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	67.0	↘	62.5
		全国	68.2		65.9
		全国との差	-1.2		-3.4
規範意識	学校のきまりを守っていますか(当てはまる)	名張市	35.0	↗	41.9
		全国	43.8		46.7
		全国との差	-8.8		-4.8
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(当てはまる)	名張市	86.1	↗	86.9
		全国	85.9		85.0
		全国との差	+0.2		+1.9
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	73.5	↘	71.9
		全国	74.2		74.7
		全国との差	-0.7		-2.8
地域貢献	今住んでいる地域の行事に参加していますか(当てはまる)	名張市	36.5	↘	30.8
		全国	35.9		37.2
		全国との差	+0.6		-6.4
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(当てはまる)	名張市	15.3	↘	13.5
		全国	17.3		18.9
		全国との差	-2.0		-5.4
読書習慣	学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか ※教科書参考書、漫画雑誌除く(30分以上)	名張市	36.4	↗	37.1
		全国	41.1		39.8
		全国との差	-4.7		-2.7
	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするため、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか(週に1～3回程度以上)	名張市	9.2(H29)	↗	15.8
		全国	15.6(H29)		17.2
		全国との差	-6.4		-1.4
	読書は好きですか(当てはまる)	名張市	47.8(H29)	↘	45.1
		全国	49.0(H29)		44.3
		全国との差	-1.2		+0.8

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	H30	増減	H31
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	81.6	↗	85.9
		全国	79.7		82.3
		全国との差	+1.9		+3.6
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	38.9	↘	34.1
		全国	35.6		33.6
		全国との差	+3.3		+0.5
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	59.5	↘	54.4
		全国	55.9		57.0
		全国との差	+3.6		-2.6
自己有用感等	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	33.4	↘	31.2
		全国	33.7		29.0
		全国との差	-0.3		+2.2
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか(当てはまる)	名張市	37.8	↘	34.9
		全国	32.5		31.3
		全国との差	+5.3		+3.6
	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	47.5	↘	45.1
		全国	45.3		44.9
		全国との差	+2.2		+0.2
規範意識	学校の規則を守っていますか(当てはまる)	名張市	68.7	↗	72.4
		全国	63.4		66.8
		全国との差	+5.3		+5.6
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(当てはまる)	名張市	86.9	↘	79.8
		全国	80.7		78.3
		全国との差	+6.2		+1.5
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	77.5	↘	74.7
		全国	70.7		71.1
		全国との差	+6.8		+3.6
地域貢献	今住んでいる地域の行事に参加していますか(当てはまる)	名張市	16.5	↘	15.1
		全国	18.6		21.0
		全国との差	-2.1		-5.9
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(当てはまる)	名張市	8.9	↗	11.2
		全国	10.6		11.5
		全国との差	-1.7		-0.3
読書習慣	学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか ※教科書参考書、漫画雑誌除く(30分以上)	名張市	29.4	↘	26.2
		全国	30.9		27.0
		全国との差	-1.5		-0.8
	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするため、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか(週に1～3回程度以上)	名張市	4.6(H29)	↘	1.5
		全国	8.1(H29)		2.1
		全国との差	-3.5		-0.6
	読書は好きですか(当てはまる)	名張市	44.7(H29)	↘	39.7
		全国	46.1(H29)		38.9
		全国との差	-1.4		+0.8

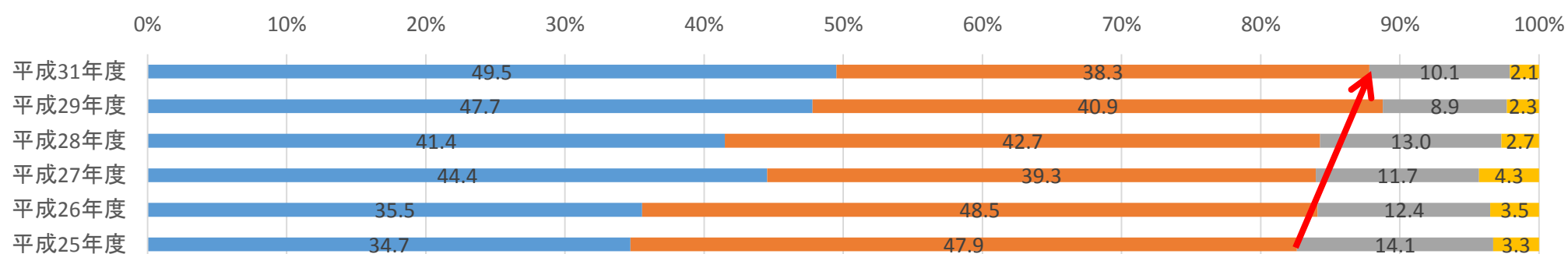
学校では

わかる授業のための授業改善に取り組んでいます。

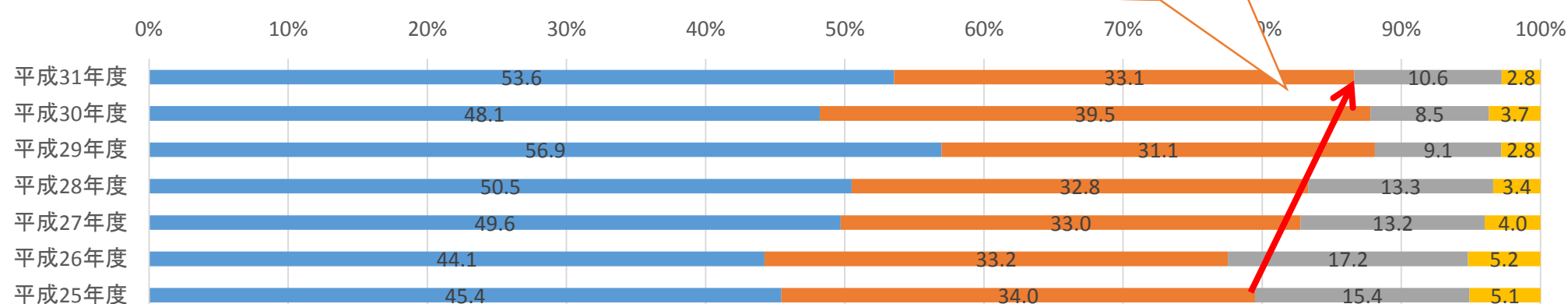
質問項目: 授業の内容はよく分かりますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる
■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

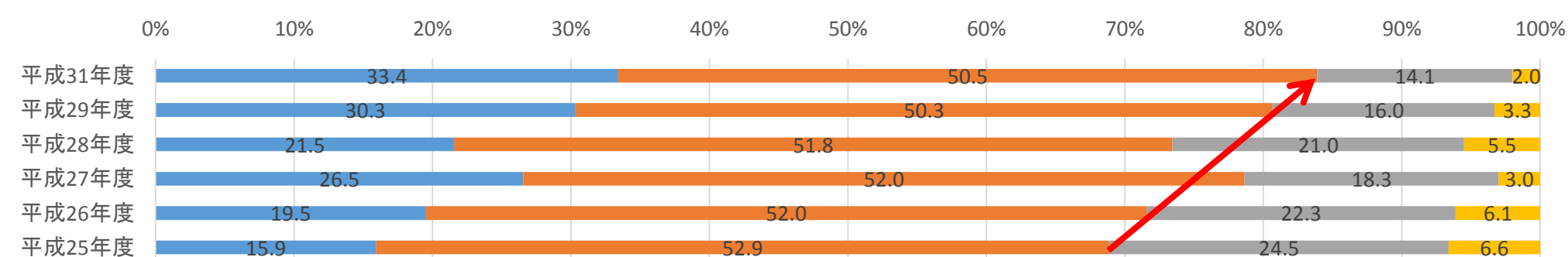
小学校国語



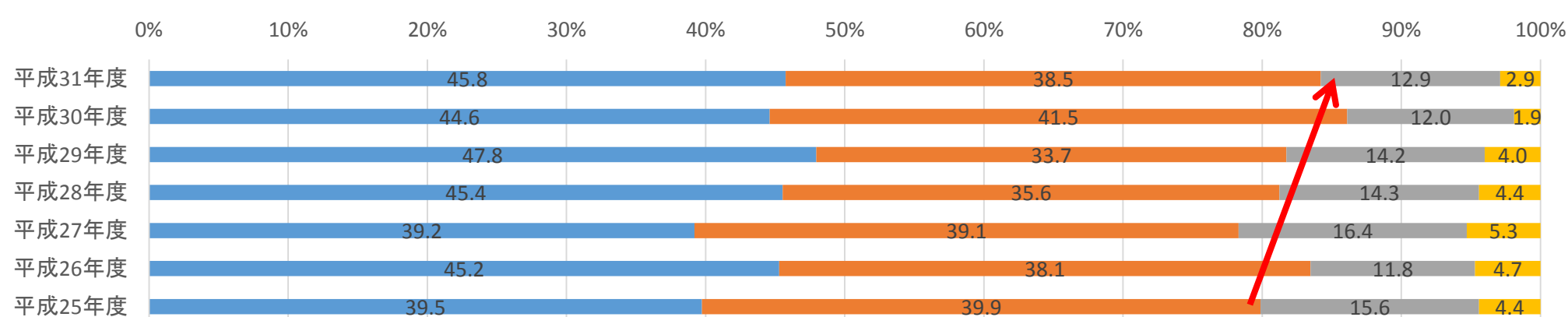
小学校算数



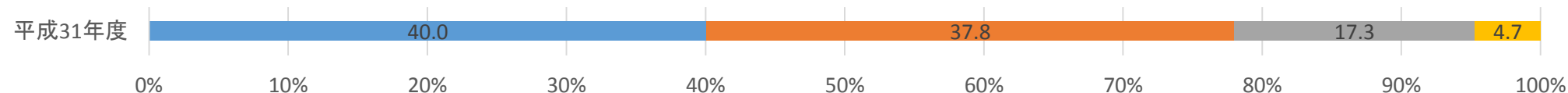
中学校国語



中学校数学



中学校英語



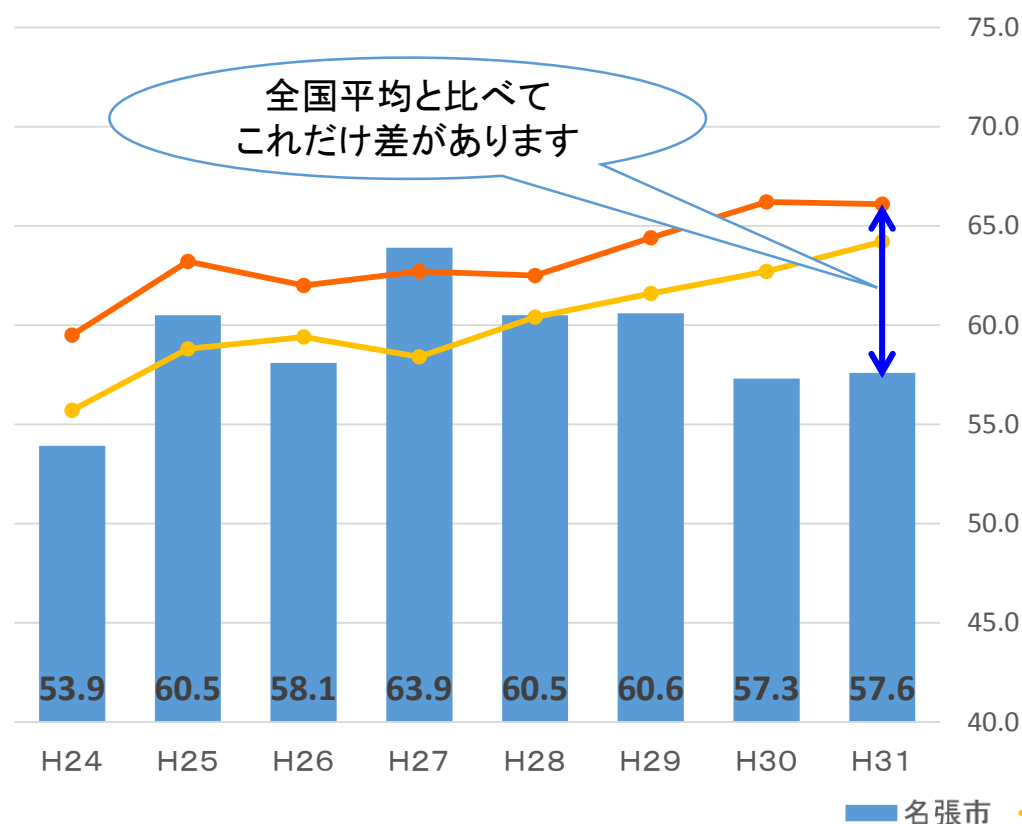
肯定的な回答割合が、どの教科も増加傾向にあり、小学校算数、中学校英語以外は80%を越えています。また、当てはまらなと回答した児童生徒の割合が、どの教科も減少する傾向が見られます。今後も、子どもたちが“わかる”と実感できる授業づくりに努め、意欲的に学習に取り組ませ、学力向上につなげます。

家庭では

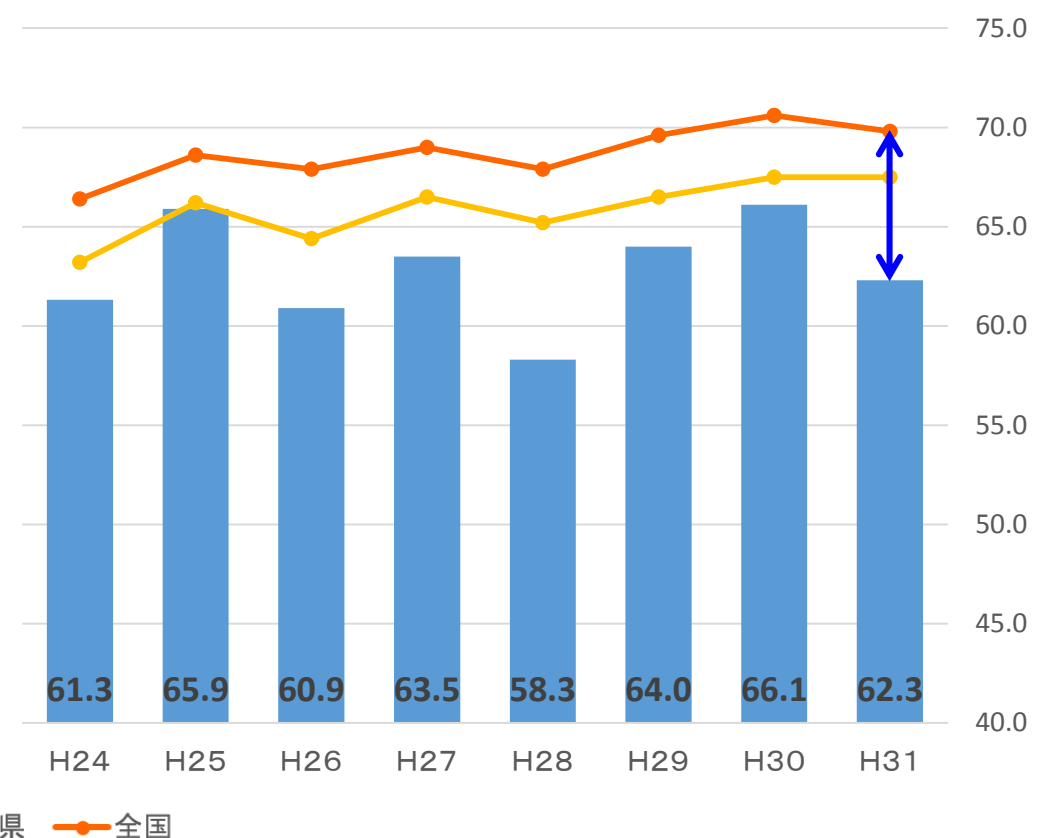
家庭学習や読書の習慣化に努める必要があります。

質問項目：1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（1時間以上）※学習塾、家庭教師含む

小学校 平日勉強

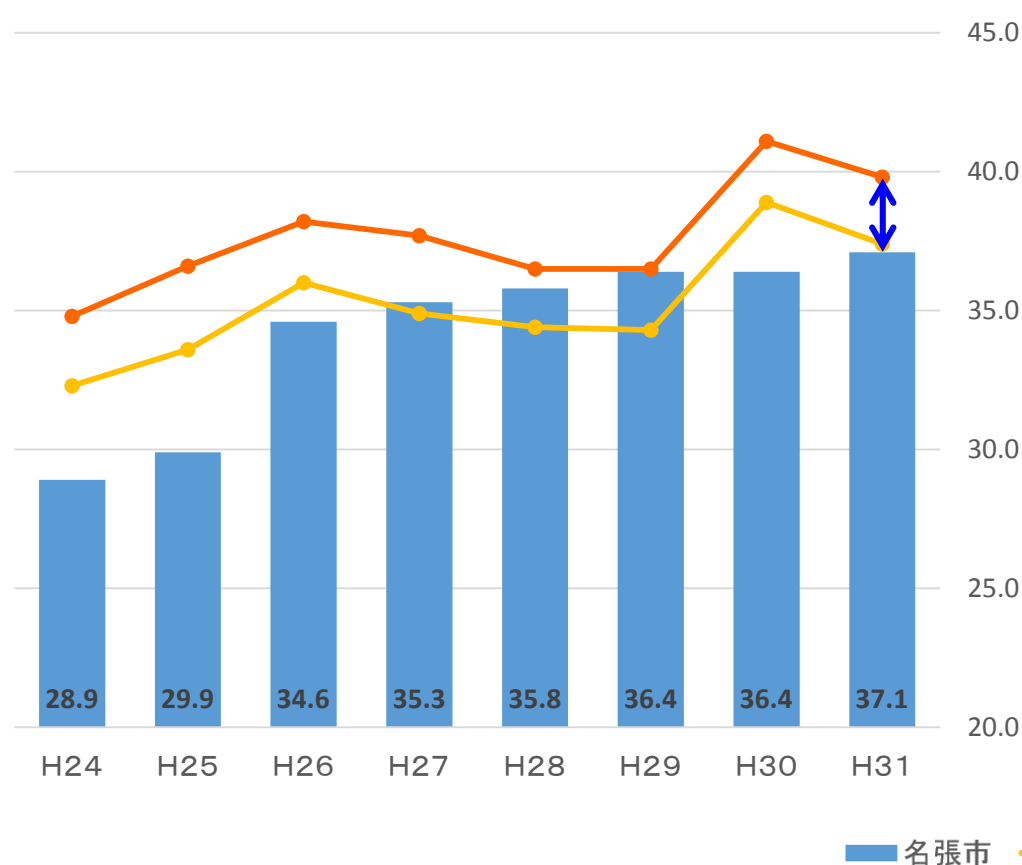


中学校 平日勉強

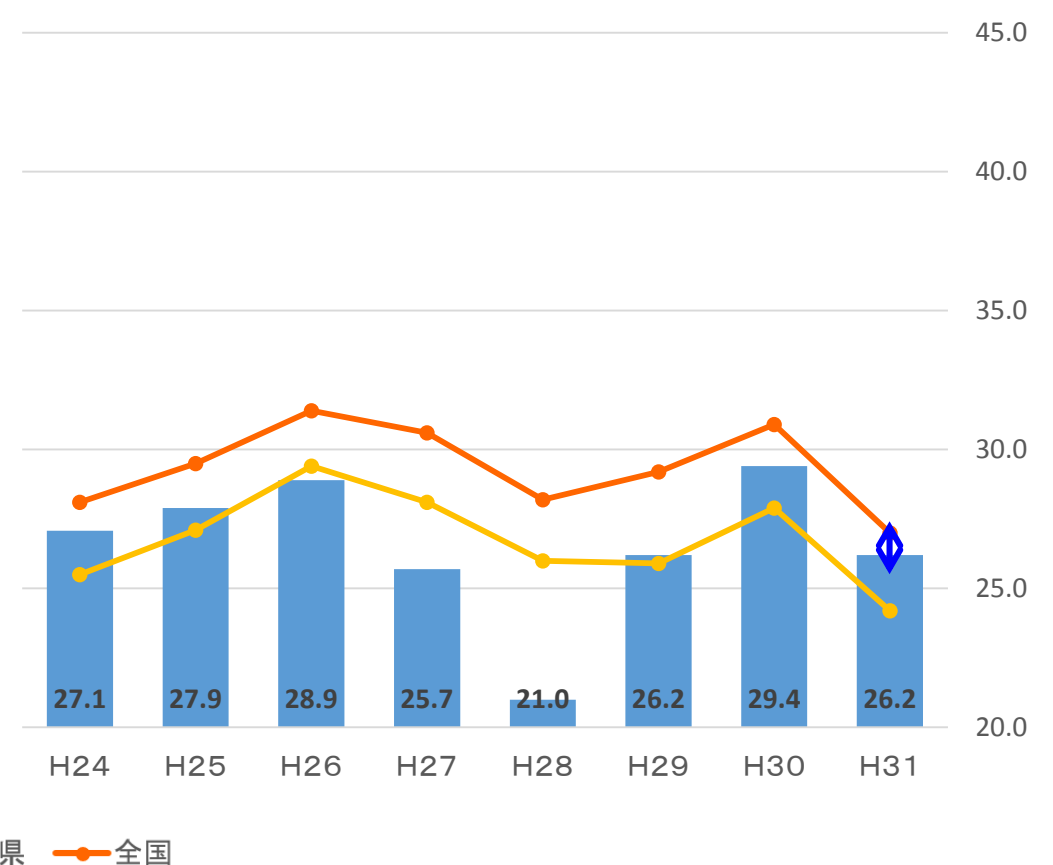


質問項目：1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。（30分以上）※教科書、参考書、漫画、雑誌除く

小学校 平日読書



中学校 平日読書



家庭学習が1時間以上と回答した児童生徒の割合が全国平均より低い傾向が続いています。学校での学習内容を定着させるために、家庭学習は重要な意味をもちます。学校の宿題だけではなく、自主学習にも意欲的かつ継続的に取り組めるよう、学校と家庭が連携しながら取り組んでいく必要があります。

また、読書時間が30分以上の割合も同様に低い結果となっています。活字離れが進んでいる昨今、語彙力を増やし、読み書きの力をつけるために読書はとても有効です。朝読書に取り組んでいる学校も多いですので、学校図書館等を利用し、家庭でも読書に取り組む機会が増えてくることを期待しています。

3－② 児童生徒質問紙調査結果と教科の平均正答率との関係＜クロス集計＞

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。
ここでは、「児童生徒質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

グラフの見方

＜例示＞

質問事項

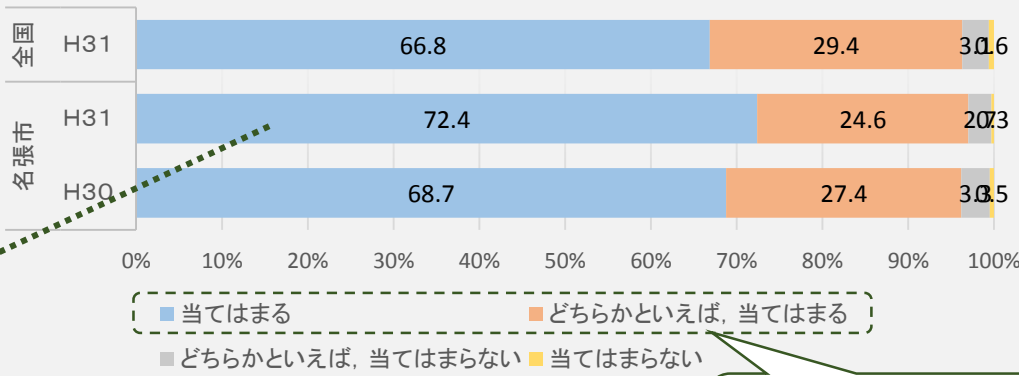
○学校の規則を守っていますか。

＜グラフ内の数値は(%)です＞

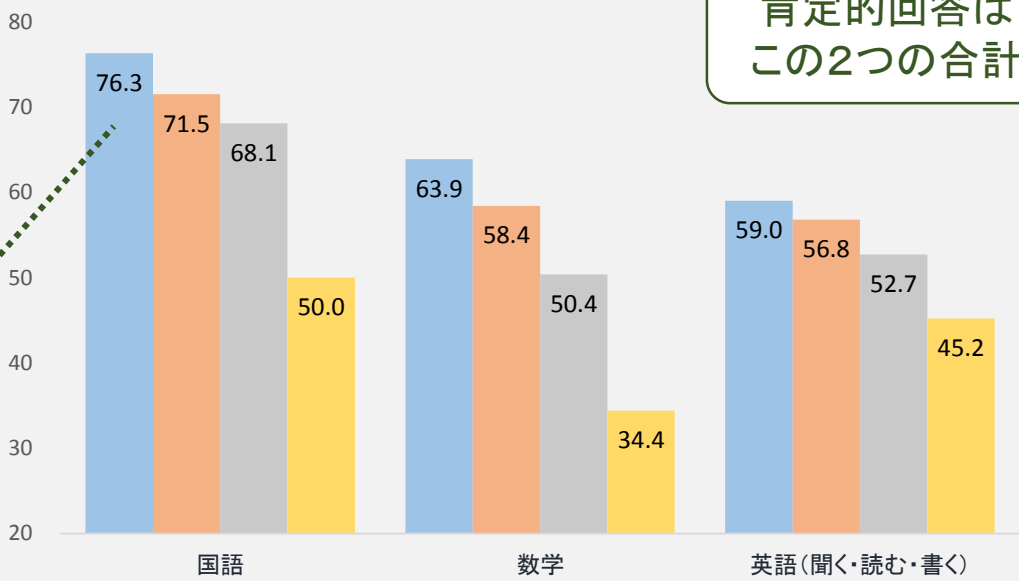
同じ質問に対し、
ページの左半分は小学校
右半分は中学校のグラフです。

中学校

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢別の割合を、そのまま表しています。
H31名張市平均（中段）を、全国平均（上段）、H30名張市平均（下段）とそれぞれ比較することができます。
「学校の規則を守っていますか」（当てはまる）と回答した児童は、
名張市で 72.4%
全国で 66.8%です。



このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢と、平均正答率との関係を、クロス集計しています。
左のグラフで、「当てはまる」と回答した児童の、国語の平均正答率は、
名張市で 76.3%です。



肯定的回答はこの2つの合計

「学校の規則を守っていますか」という質問に対して、「国語」で見ると、
「当てはまる」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、76.3%、
「当てはまらない」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、50.0%で
26.3%の開きがあり、
「学校の規則を守っている」と回答している生徒ほど、
「国語」の調査問題の正答率も高いということがわかります。

同様に他の調査問題も見ると、「数学」では、29.5%、
「英語」(聞くこと・読むこと・書くこと)では、13.8%の開きがあり、
「肯定的な回答をしている生徒ほど、平均正答率が高い」という傾向が、顕著に表れています。

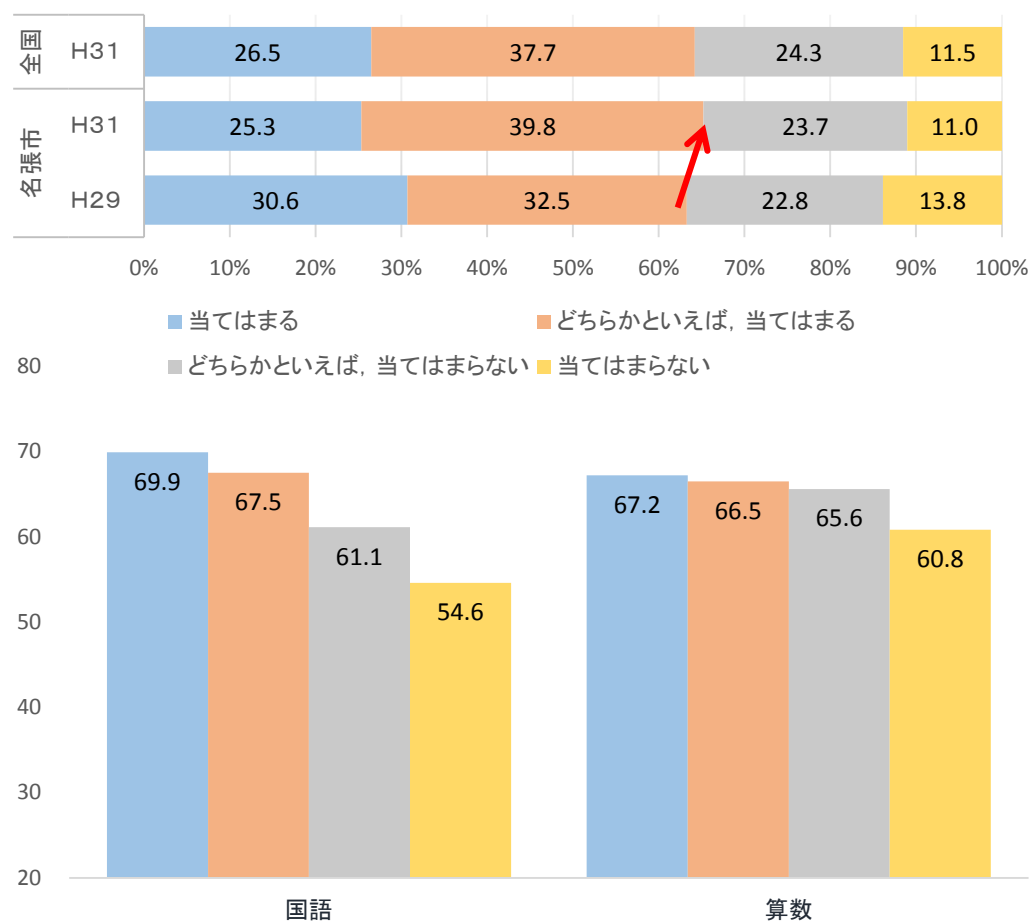
※いずれのグラフにも無回答率は掲載していません。
また、質問によっては、回答項目(時間帯等)が多いため、傾向がわかる回答項目(時間帯)に関してのみ、掲載しています。そのため、合計数値が100%になっていない場合があります。

(1) 学校教育に関すること

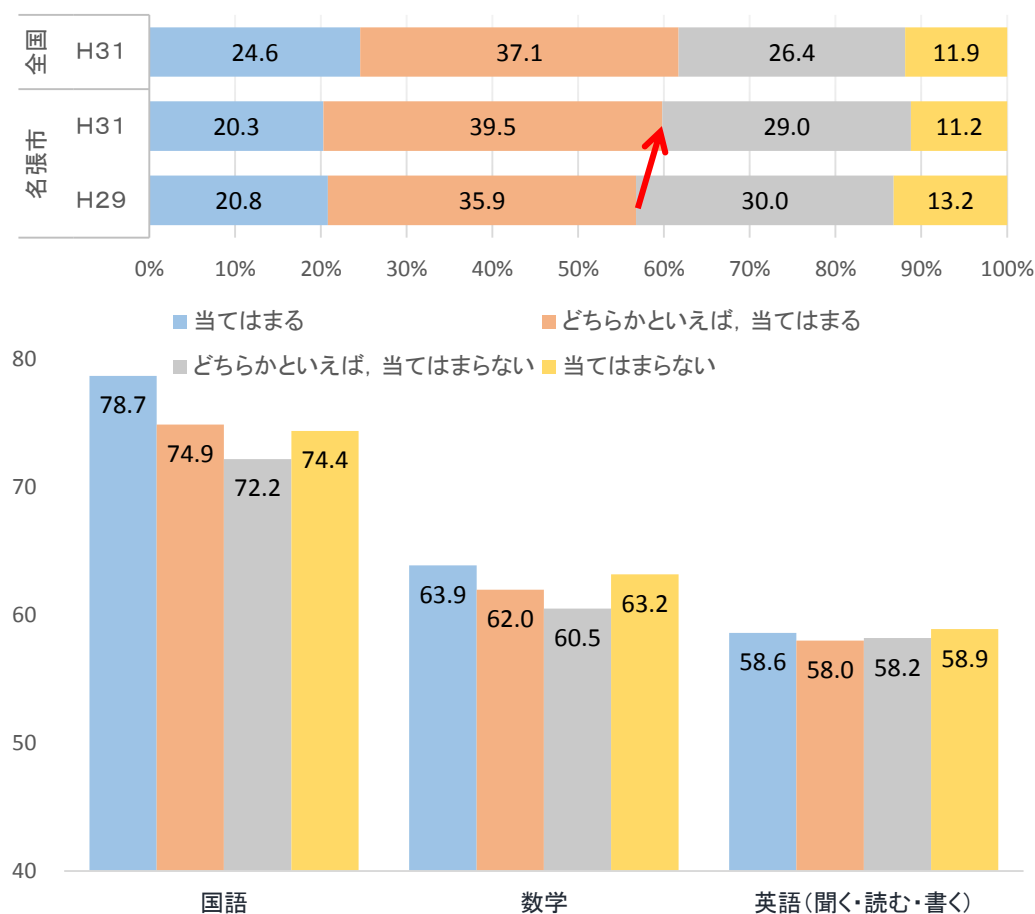
①国語の勉強は好きですか。

※国語に関する質問は平成30年度になかったため、平成29年度と比較しています。

小学校



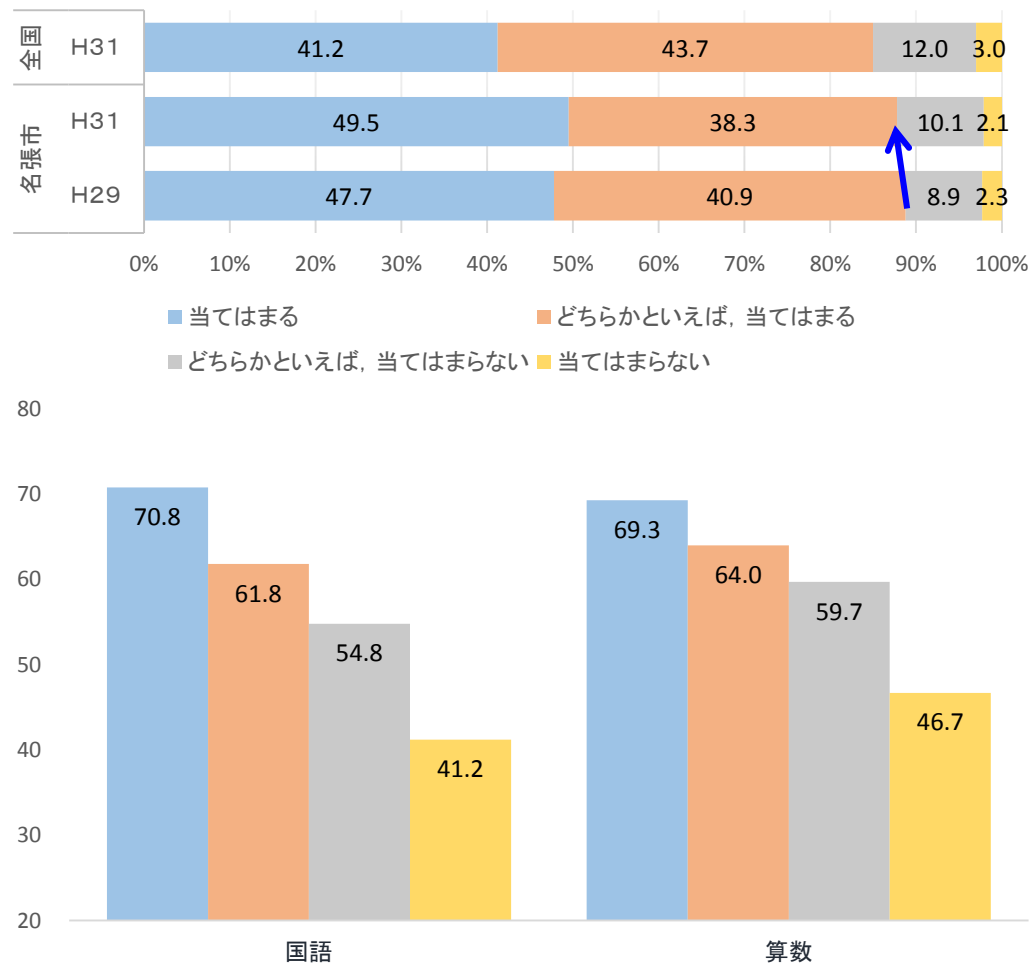
中学校



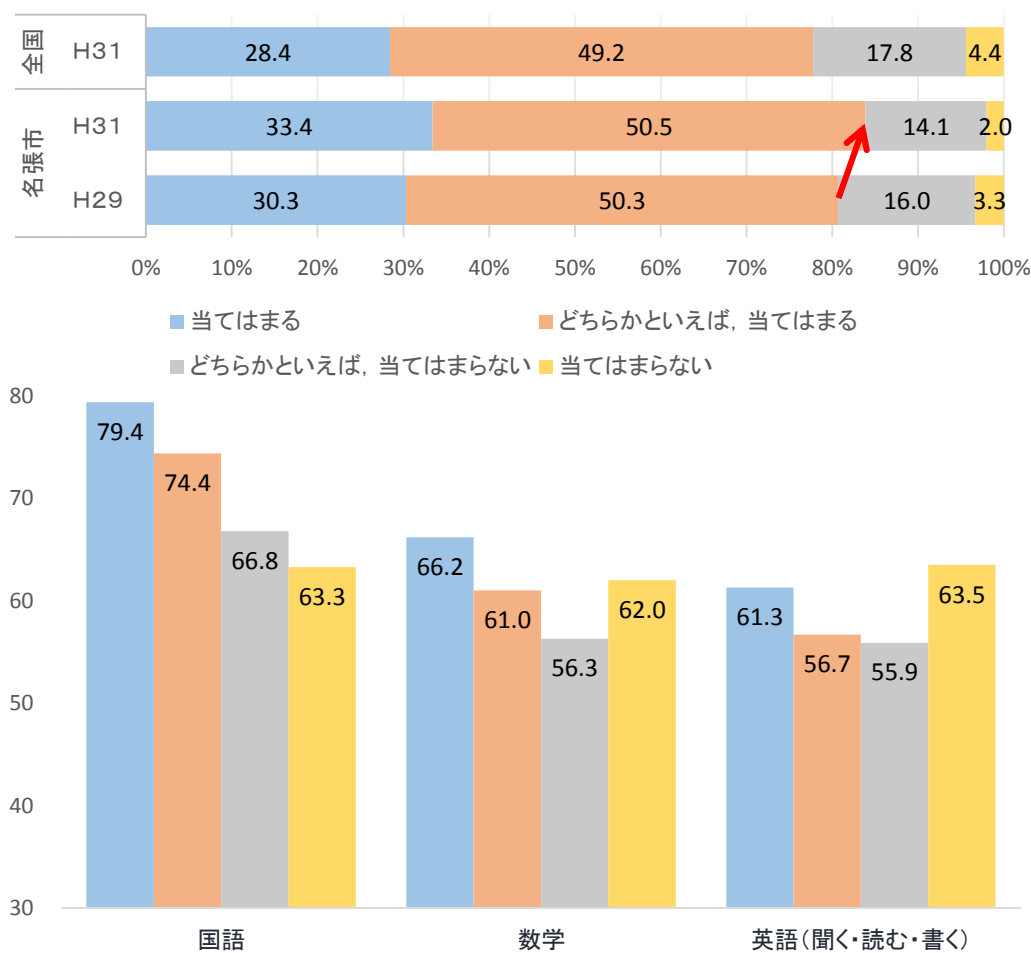
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度より増加し、小学校では全国よりやや高い結果となりました。

②国語の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



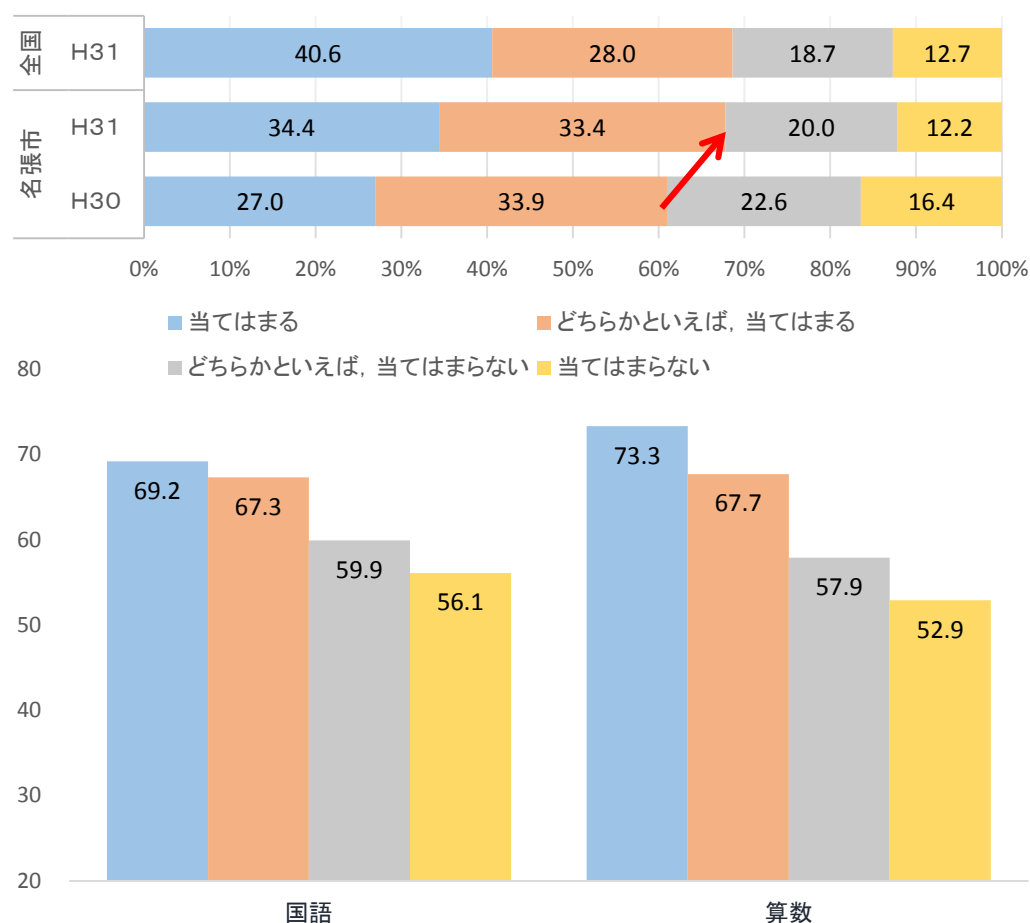
中学校



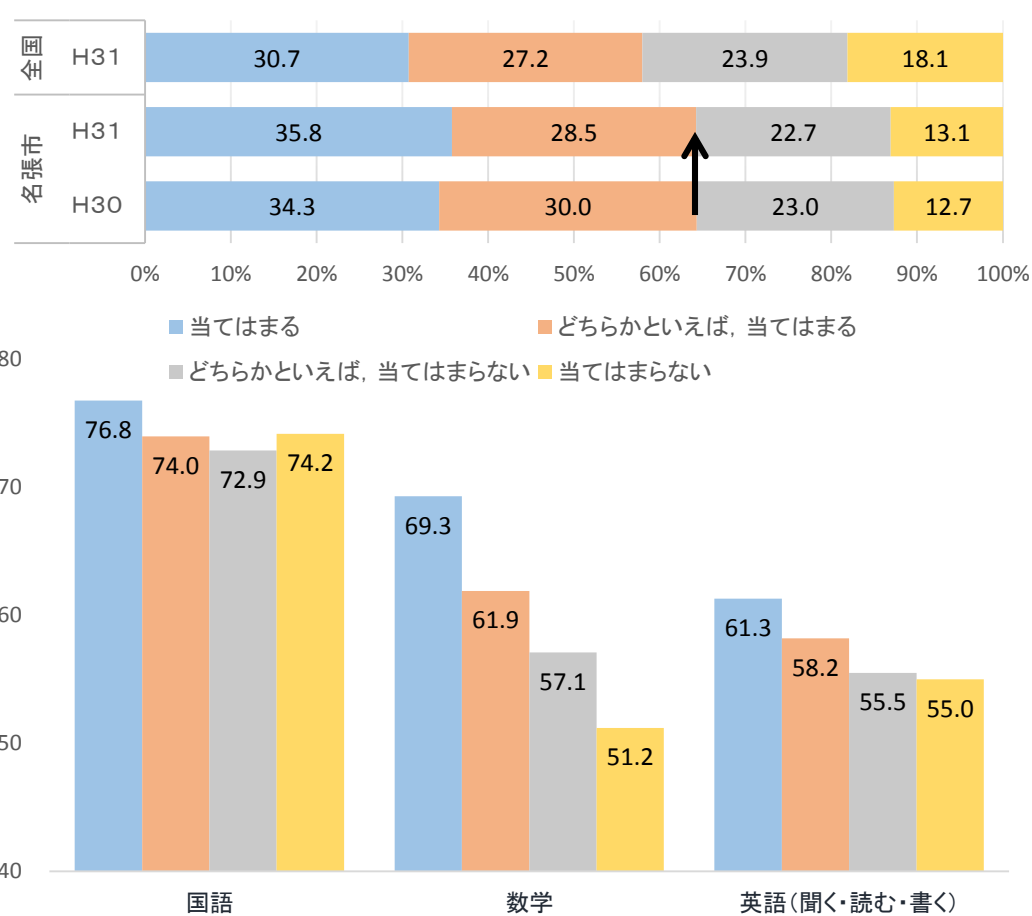
肯定的回答が、小・中学校ともに全国より高い、よい傾向が続いています。昨年度と比べると、中学校で増加しました。

①算数・数学の勉強は好きですか。

小学校



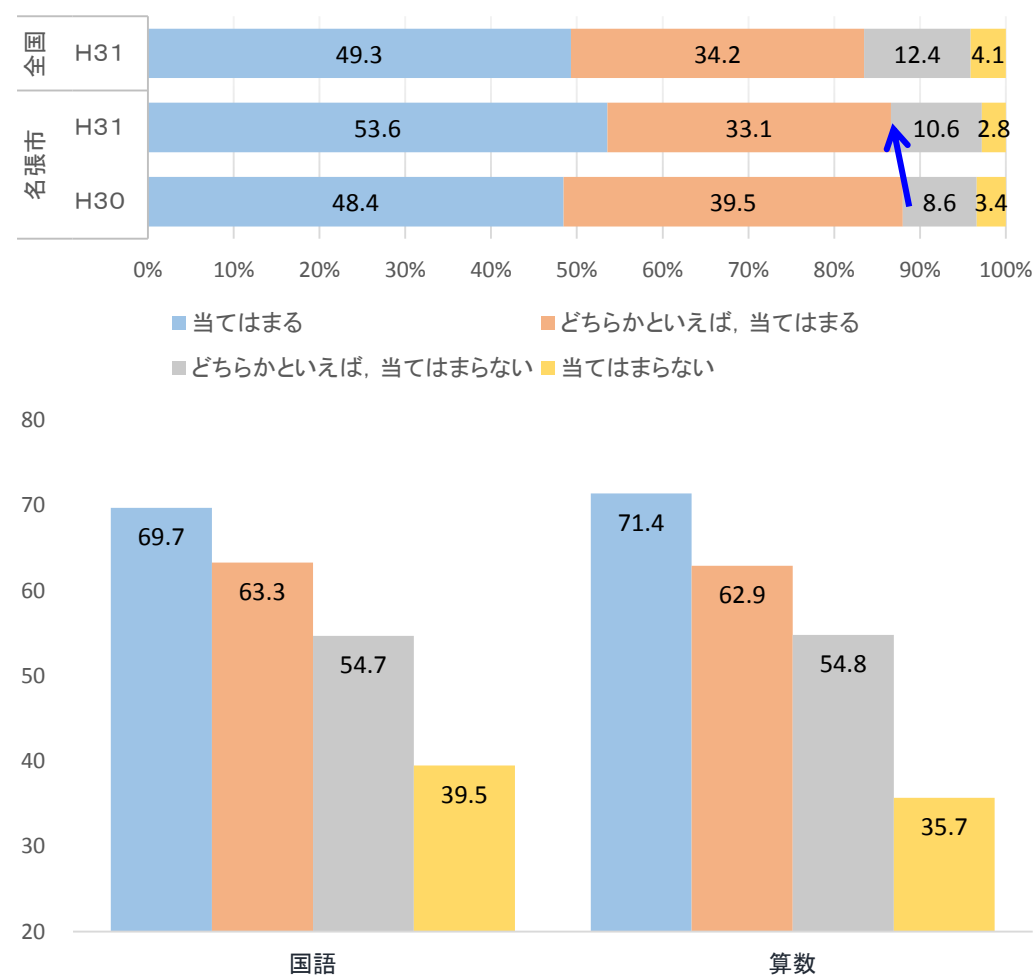
中学校



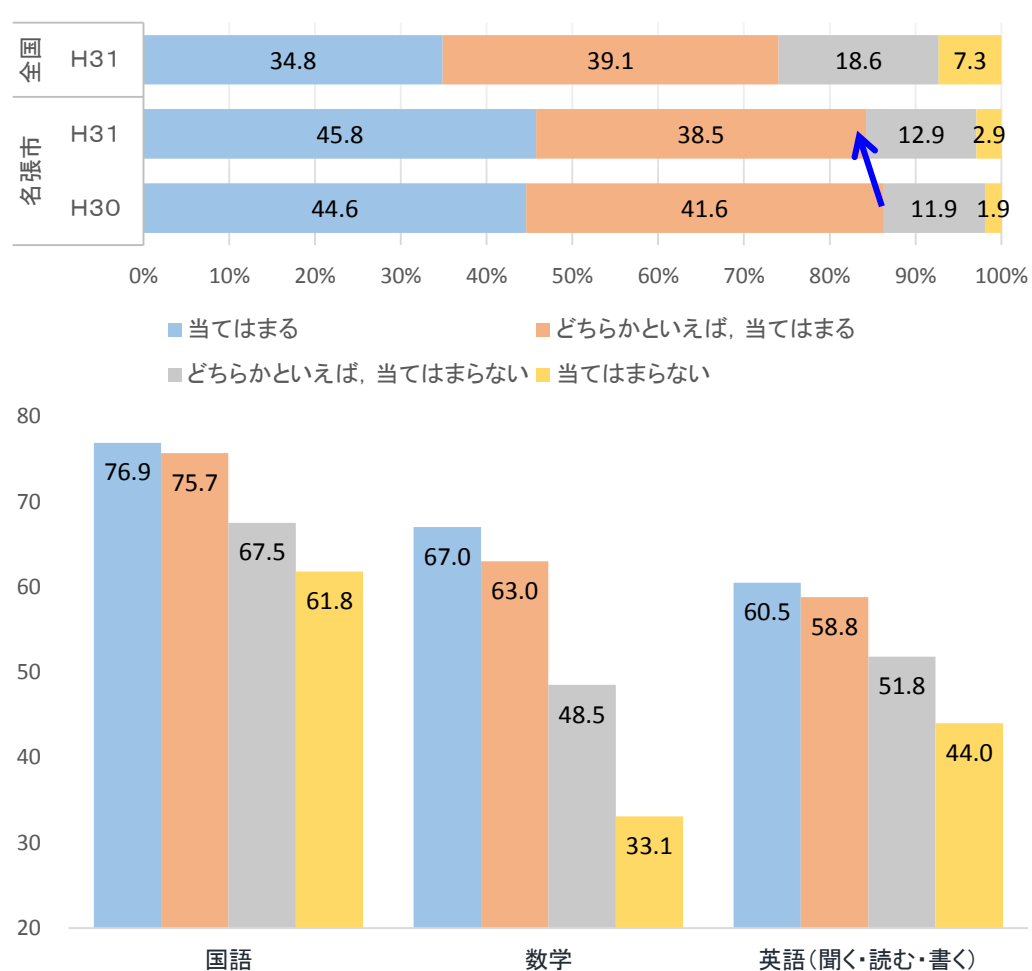
肯定的回答が、小学校では全国よりやや低く、中学校では全国より高い結果です。昨年度と比べると、小学校で増加しました。

②算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



中学校



肯定的回答が、小・中学校ともに全国より高い、よい傾向が続いています。昨年度と比べると、小・中学校ともにやや減少しました。

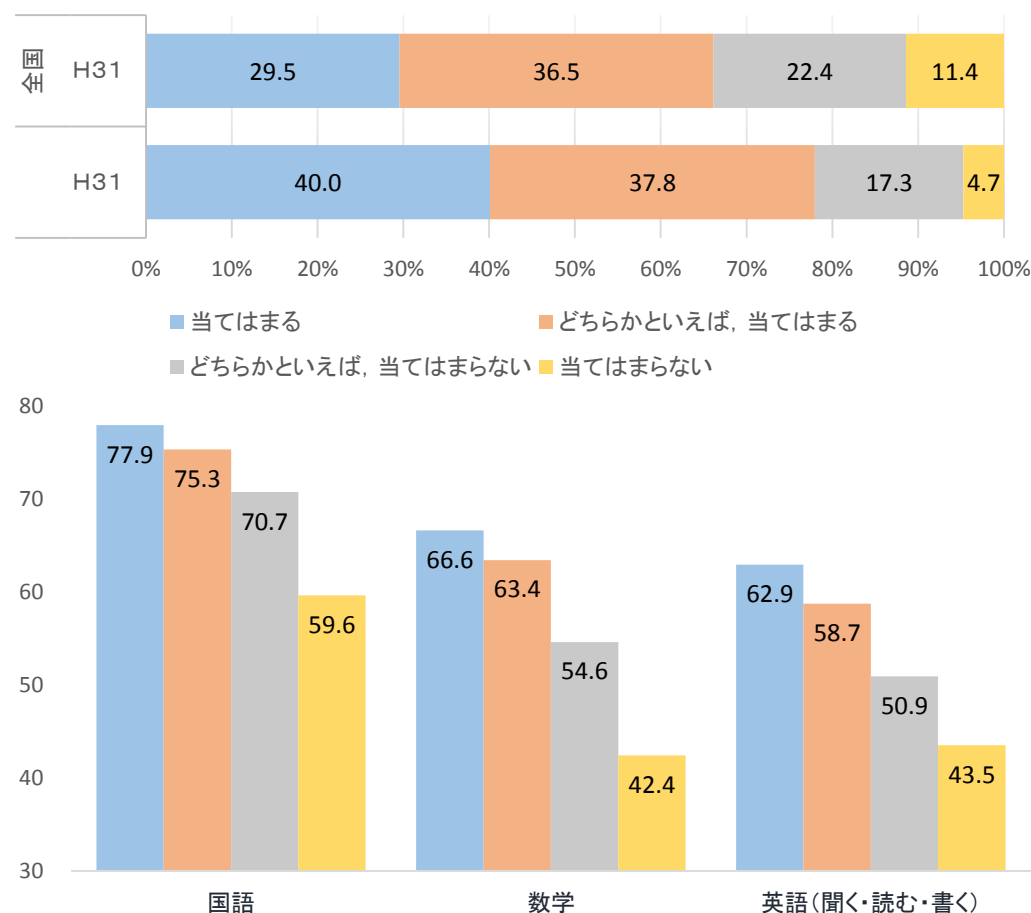
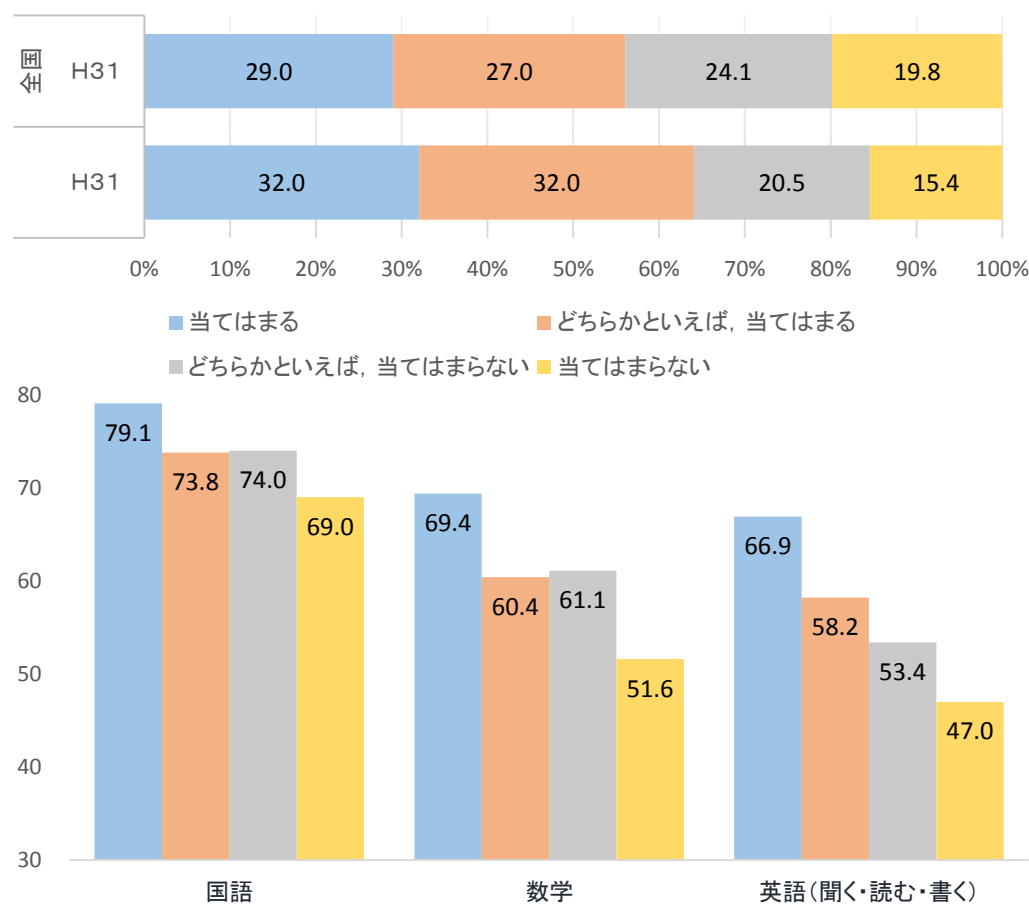
③英語の勉強は好きですか。

④英語の授業の内容はよく分かりますか。

中学校

※英語に関する質問は、平成31年度に新設されました。

中学校



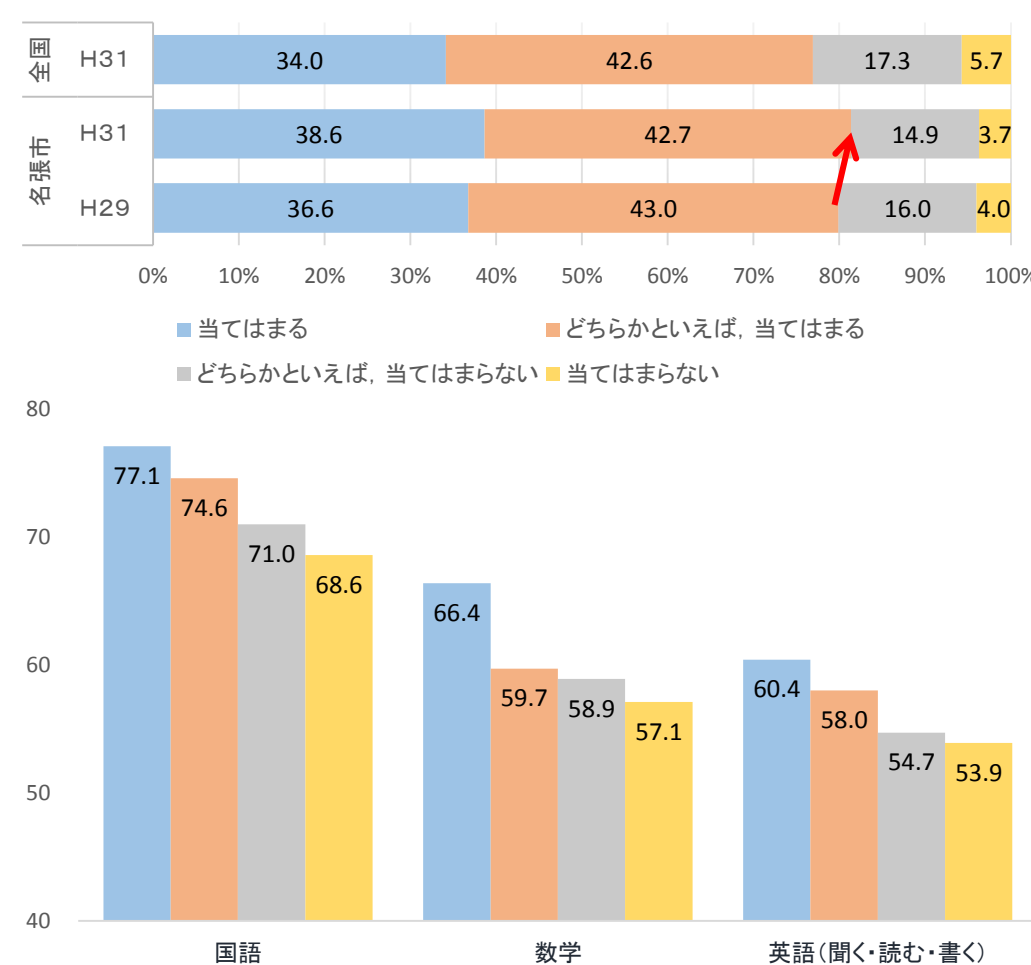
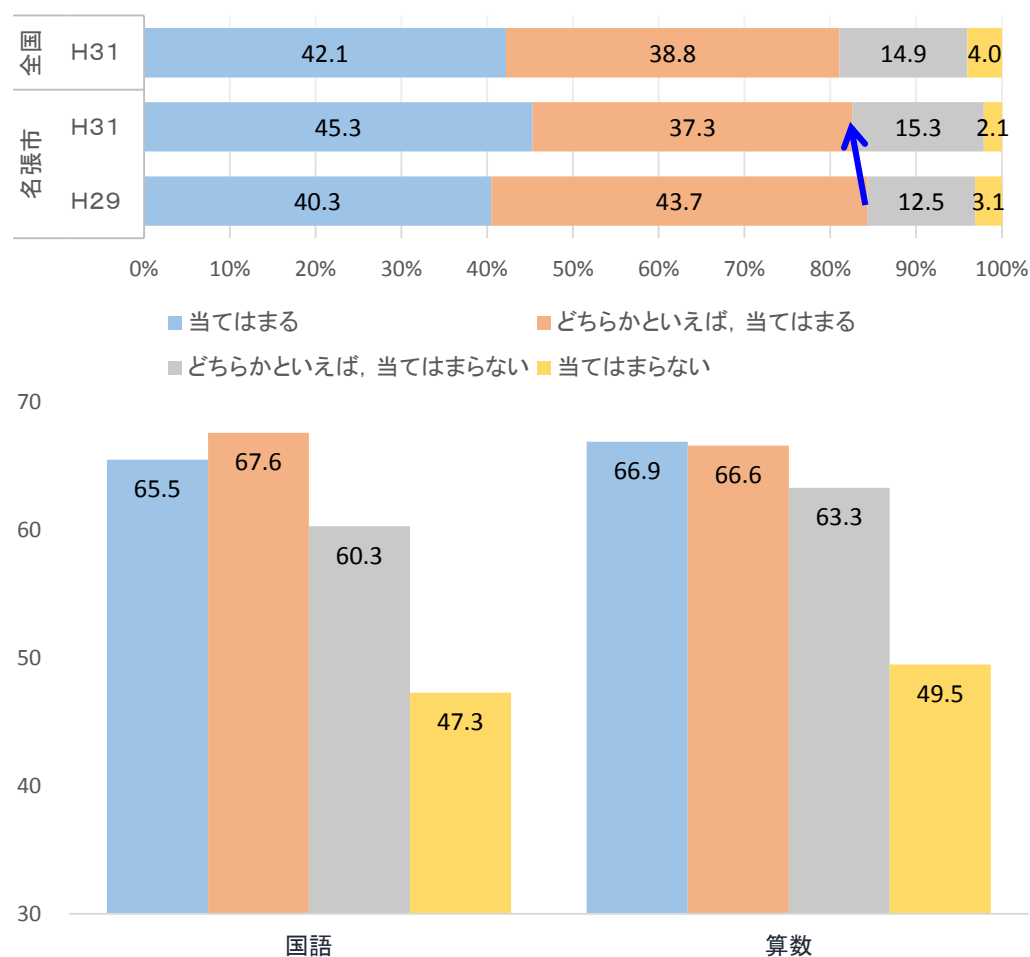
👉 本年度から新設された質問ですが、肯定的回答が全国より高く、「好き」、「よく分かる」と回答した生徒ほど、正答率も高い傾向が見られます。

⑤道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。（中学校は、1、2年のとき、取り組んでいたと思いますか。）

※この質問は平成30年度になかったため、平成29年度と比較しています。

小学校

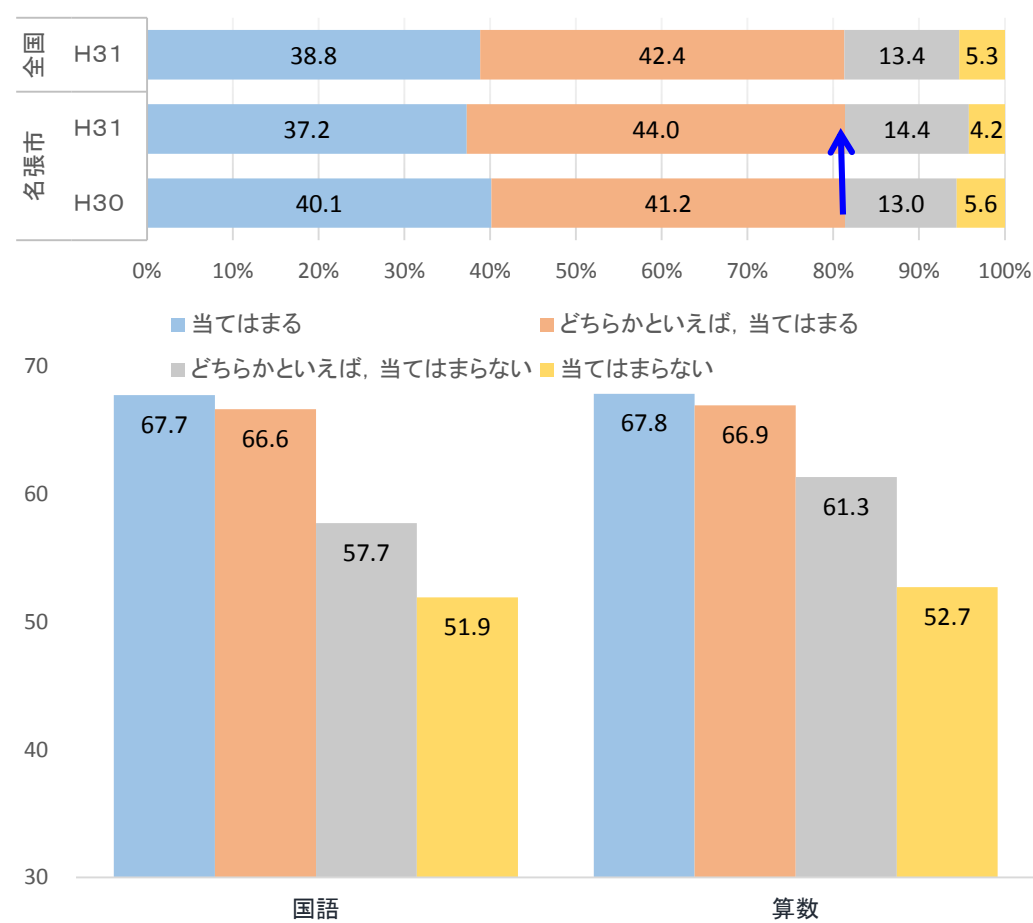
中学校



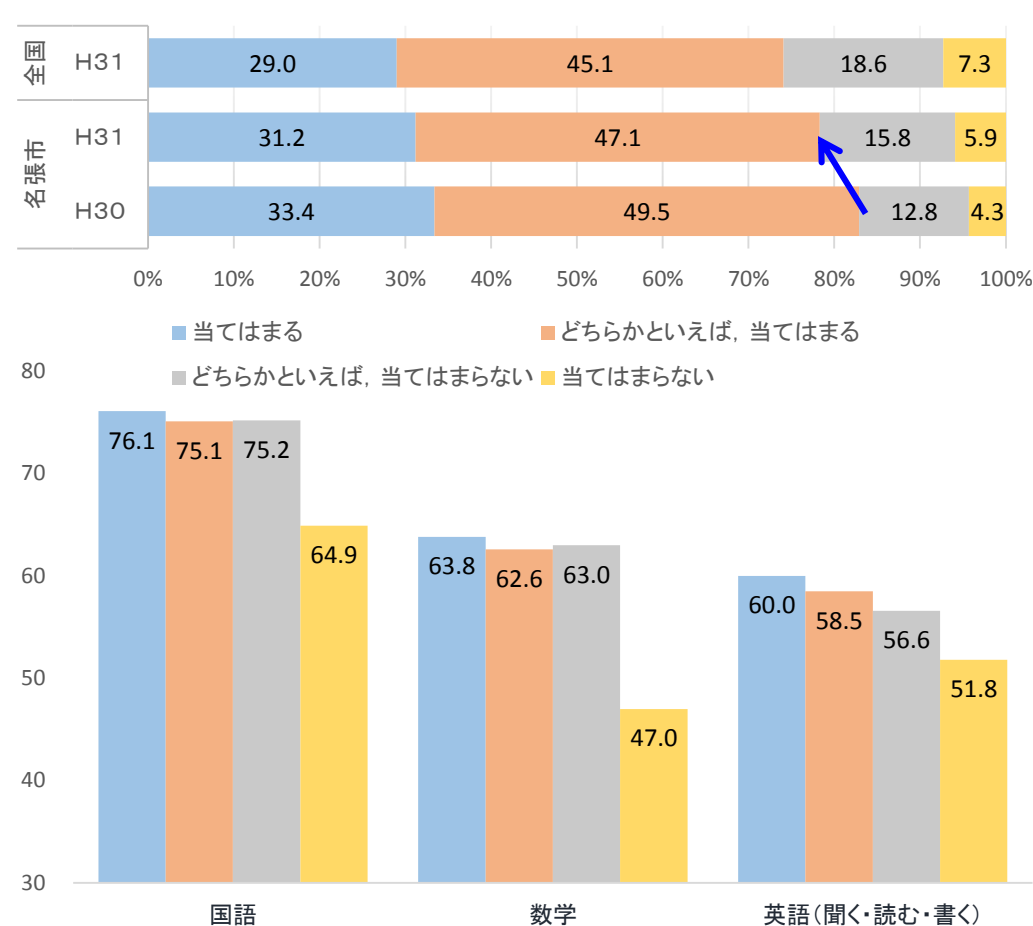
👉 肯定的回答が、小・中学校ともに全国より高く、前回調査（平成29年度）と比べると、中学校で増加しました。

⑥自分には、よいところがあると思いますか。

小学校



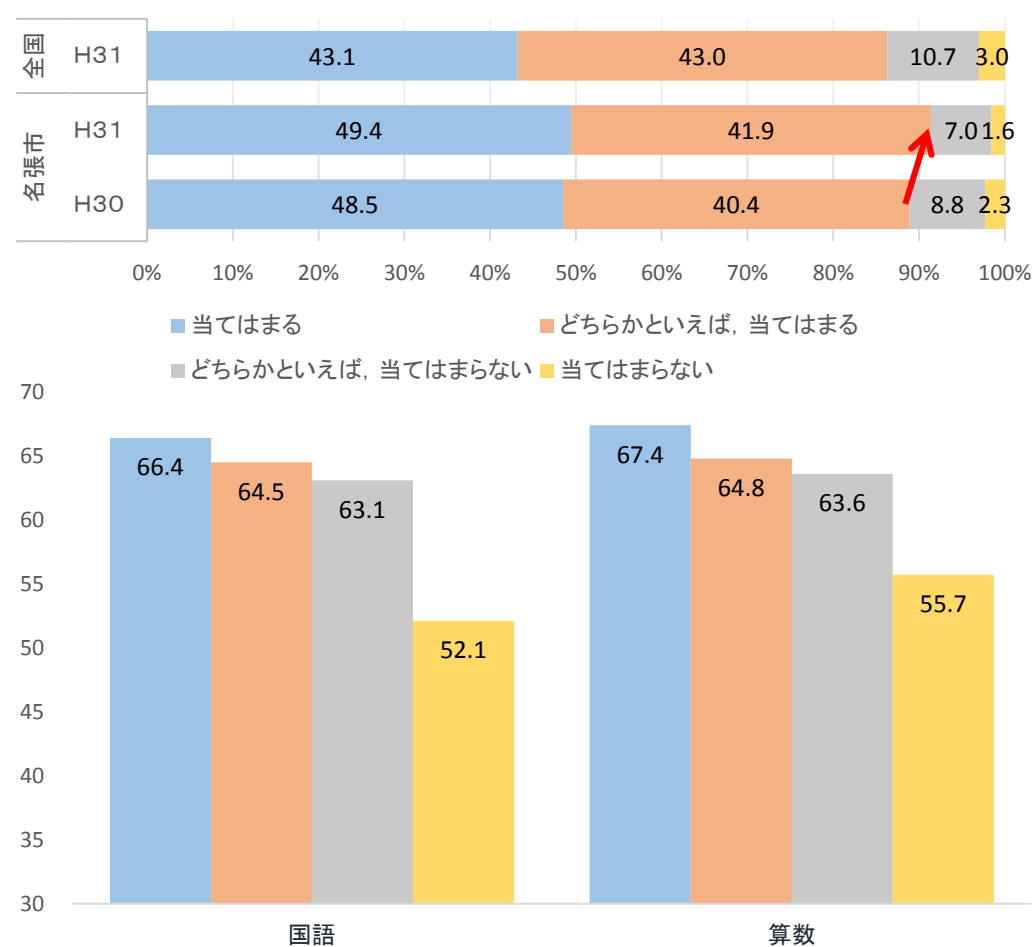
中学校



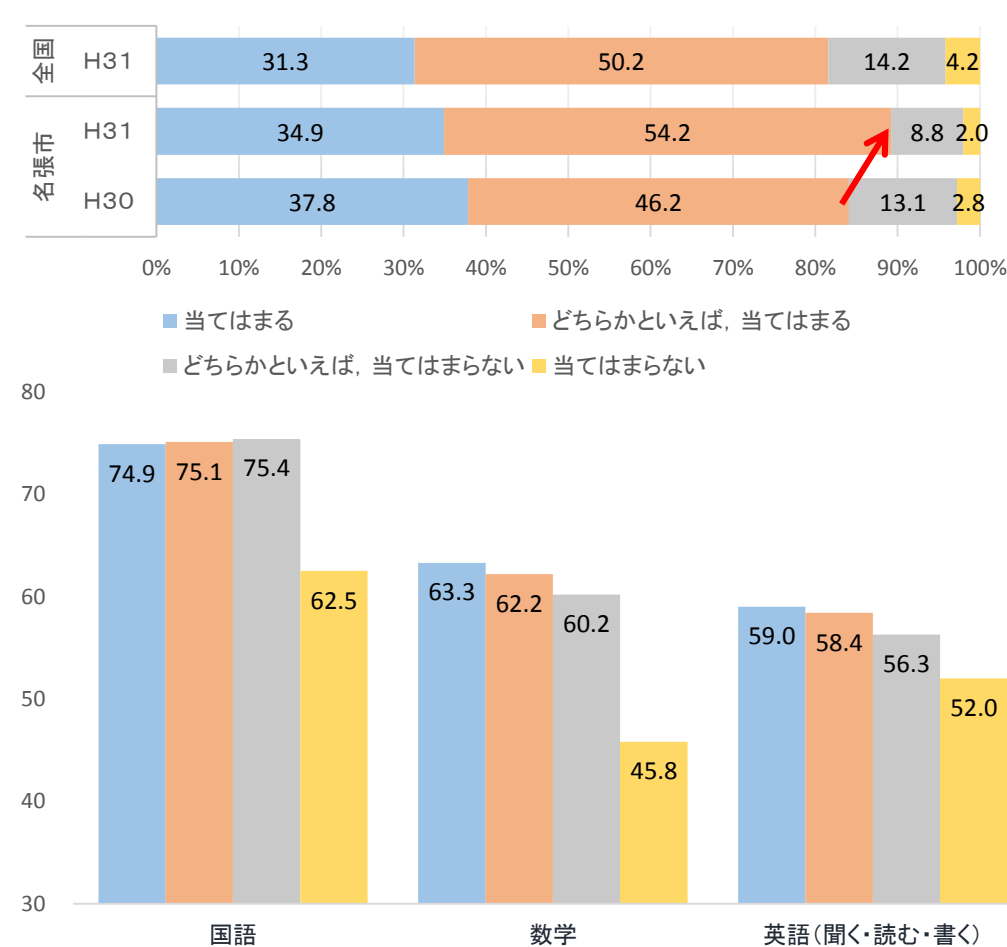
中学校は、肯定的回答が昨年度より減少しましたが、全国より高くなっています。自己肯定感も正答率と相関があります。

⑦先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

小学校



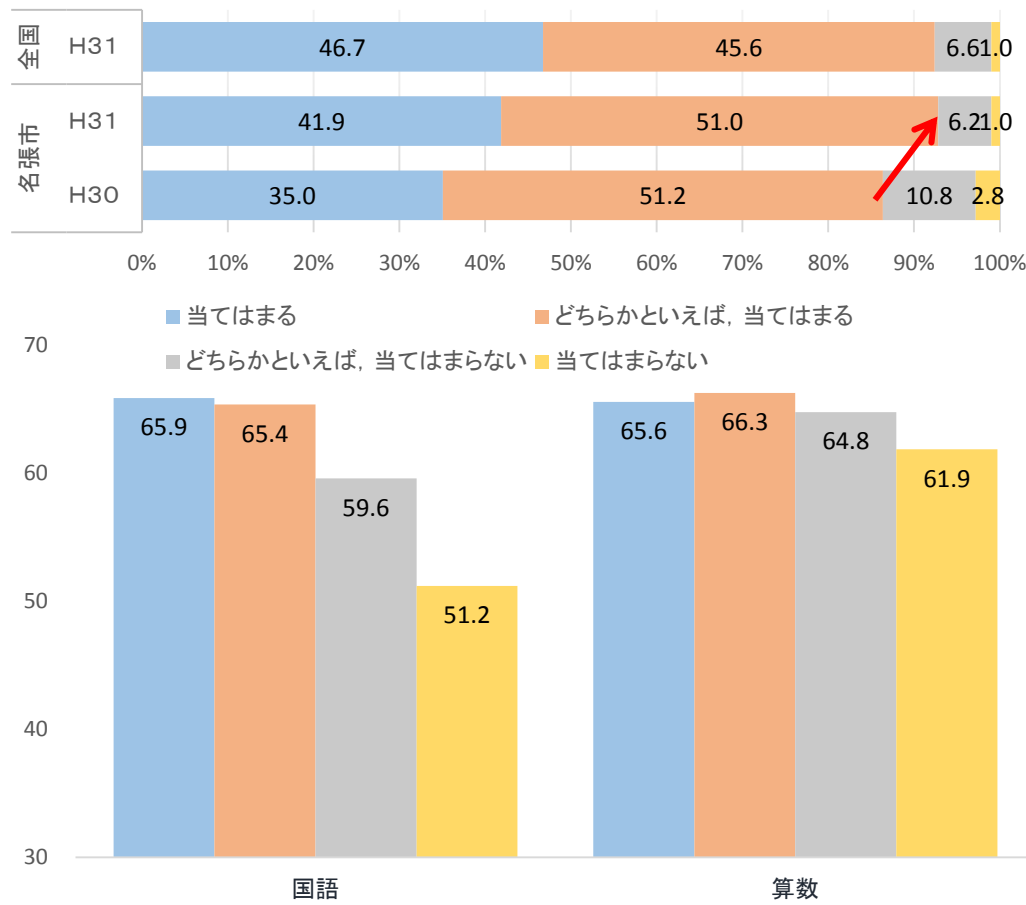
中学校



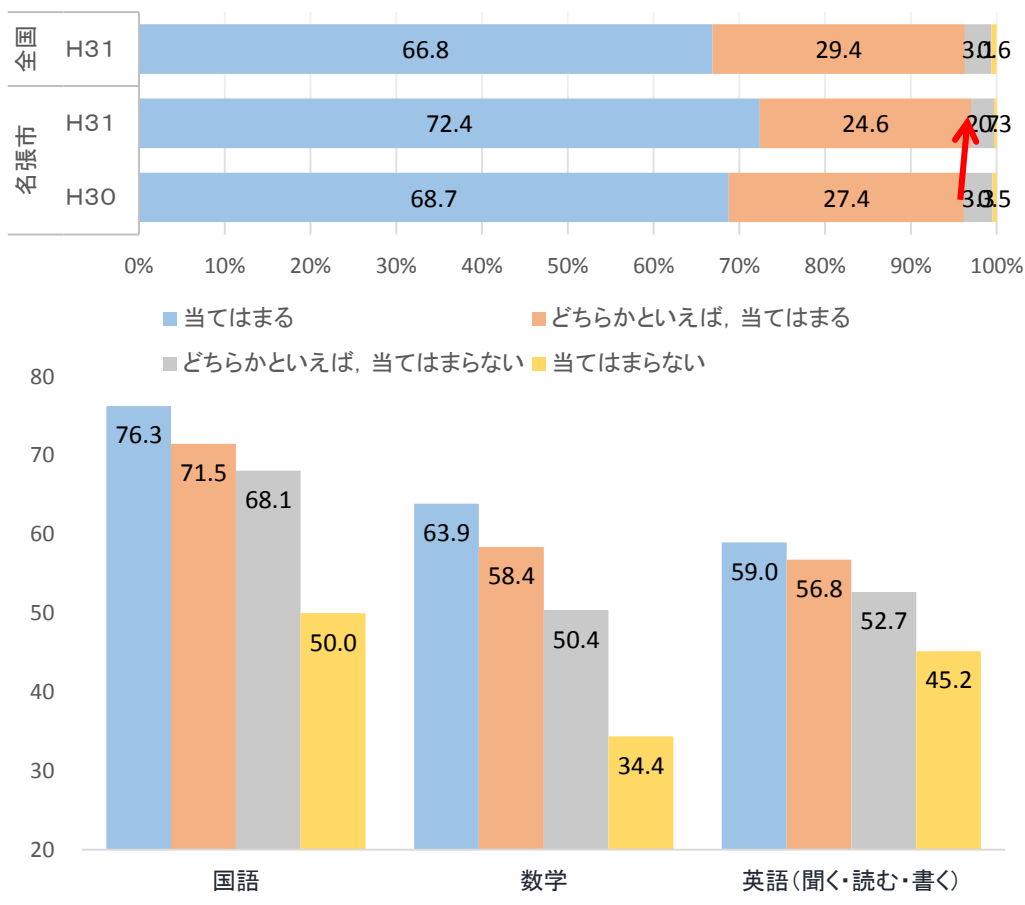
小・中学校ともに、昨年度より増加し、教職員からの承認感が全国より高い、よい傾向が続いています。

⑧学校のきまり（規則）を守っていますか。

小学校



中学校



肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度より増加し、全国よりやや高い結果となりました。規範意識についても、正答率との相関があります。

【学校教育に関する特徴的なこと】

- ・国語、算数・数学に関しては、「勉強は好きですか。」の質問は、小学校国語、中学校数学で、肯定的な回答割合が全国平均よりやや高い。「授業の内容はよく分かりますか。」の質問に対して、小・中学校とも、全校平均より高い、よい傾向が続いている。
- ・英語に関しては、「勉強が好きですか。」「授業の内容はよく分かりますか。」の質問とも、肯定的な回答割合が全国平均よりかなり高い。
- ・道徳に関しては、自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいるか。」の質問に対して、肯定的な回答割合が全国平均より高い。
- ・「自分にはよいところがある」と感じている児童生徒の割合が、小・中学校とも昨年度よりやや減少したものの、中学校では全国より高く、自己肯定感の高い、よい傾向が続いている。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に対して、肯定的な回答割合が、小・中学校とも昨年度より増加し、全国平均より高い。
- ・「学校のきまり（規則）を守っている」と回答した割合が肯定的な回答割合が、小・中学校とも昨年度より増加し、全国平均より高い。

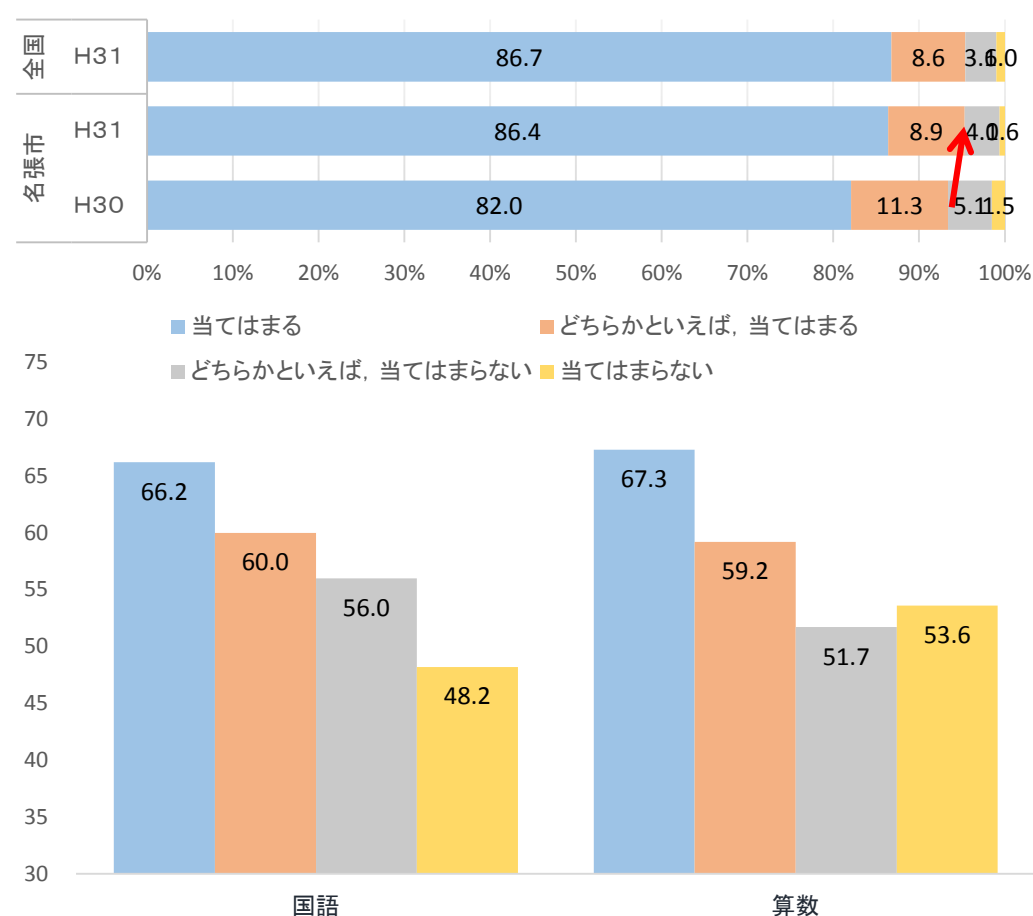
各教科について、「好きですか」、「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対する回答と、各調査項目の平均正答率との間には相関関係があります。しかし、本市の調査結果からは、「好きだ」「よく分かる」という答えが全国を上回っていても、平均正答率は全国より低い調査項目もありました。このことから、今後は、児童生徒の習熟度に応じた指導方法、学習内容の定着に結びつく指導方法の研究や授業で取り扱う学習内容の吟味等をすすめ、さらなる学力の向上を目指していく必要があります。

また、教師の「よいところを認めていく姿勢」は全国より高い傾向が見られ、そのことが子どもたちの自己肯定感や規範意識にも好結果として現れており、今後さらに伸ばしていきたいところです。

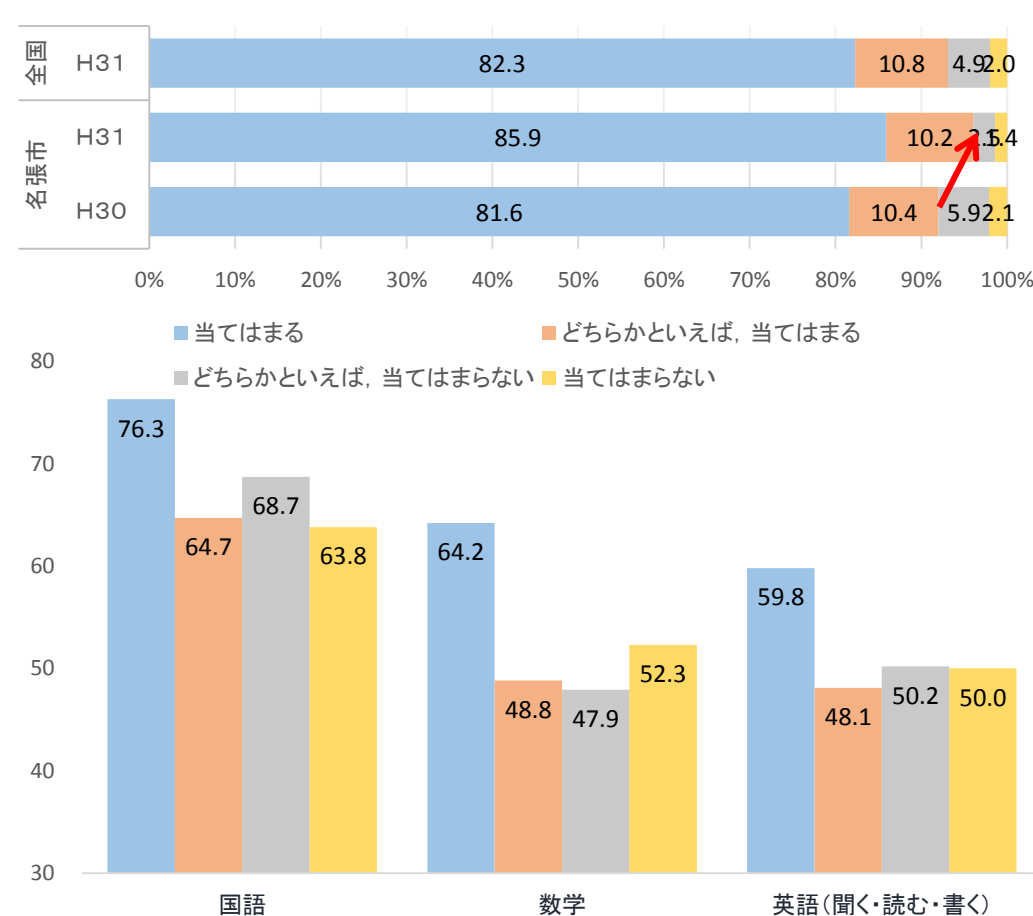
(2) 生活習慣に関すること

①朝食を毎日食べていますか。

小学校



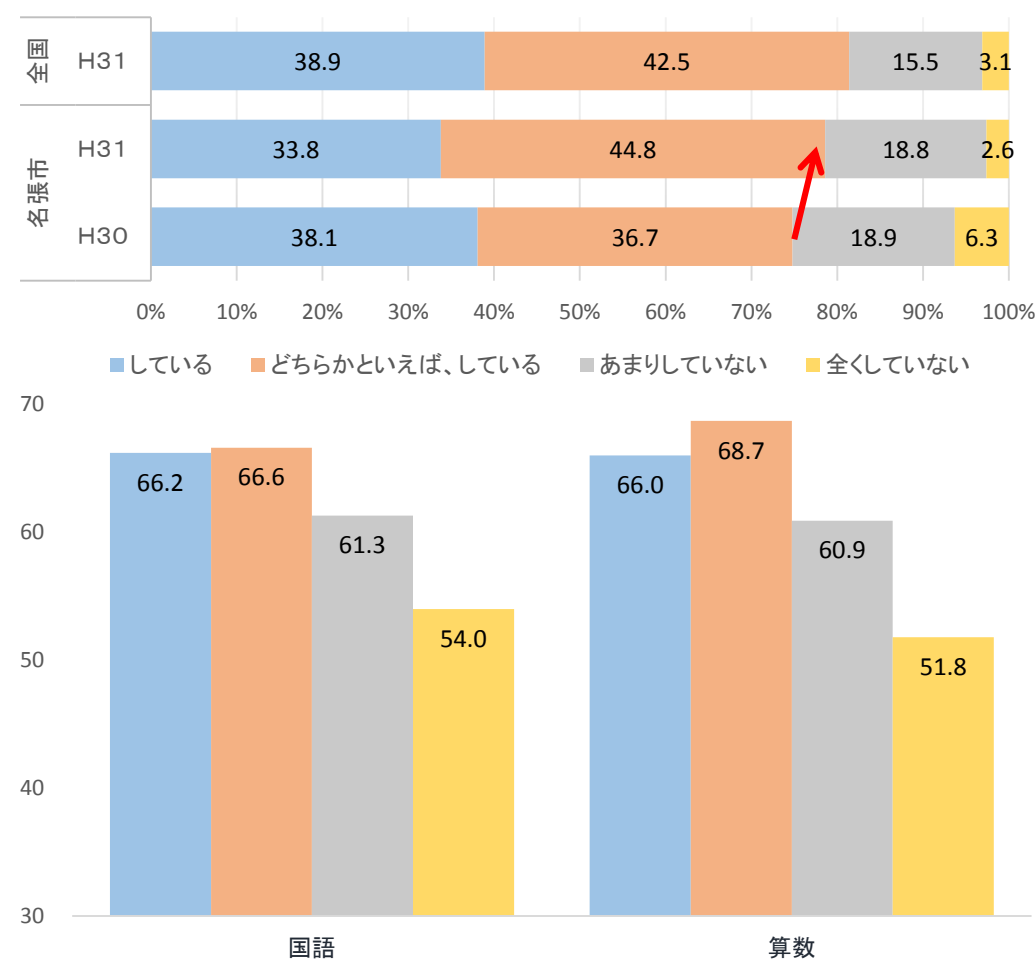
中学校



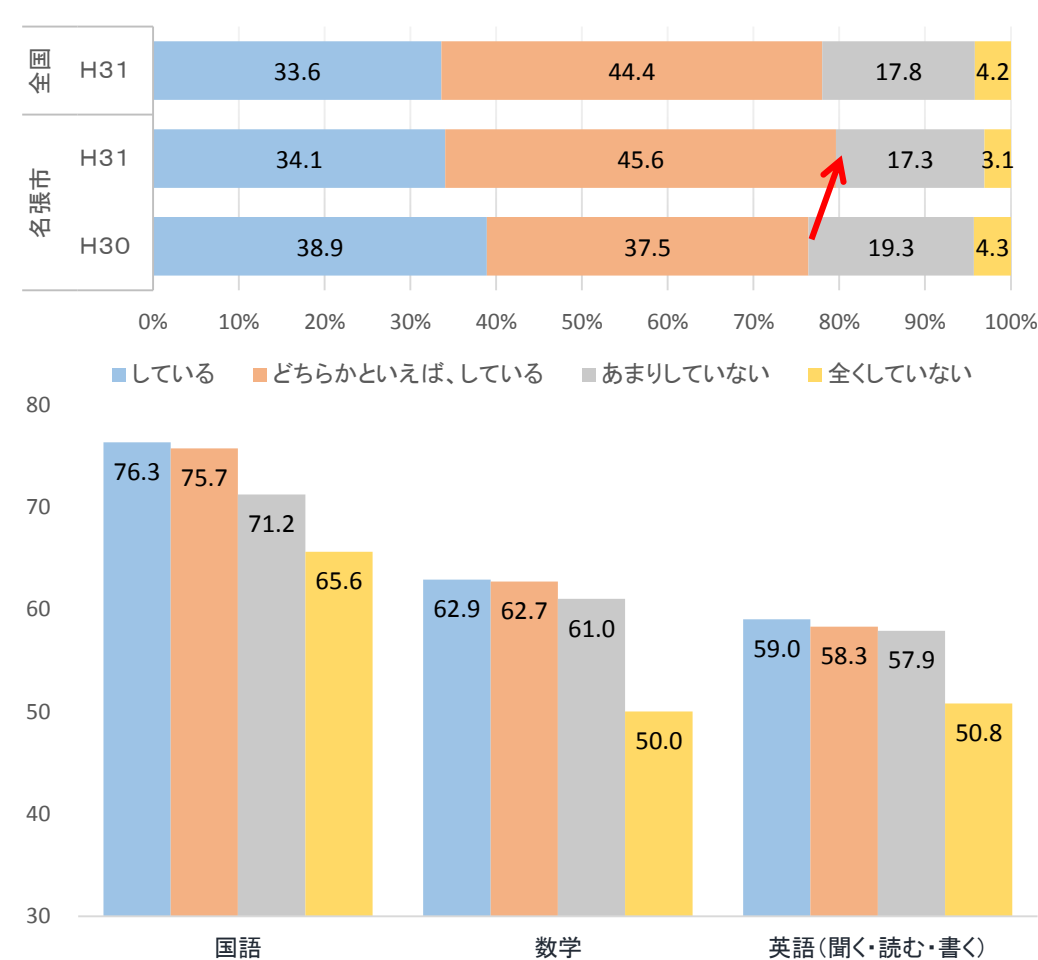
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度より増加しました。中学校では、全国よりやや高い結果となっています。

②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

小学校



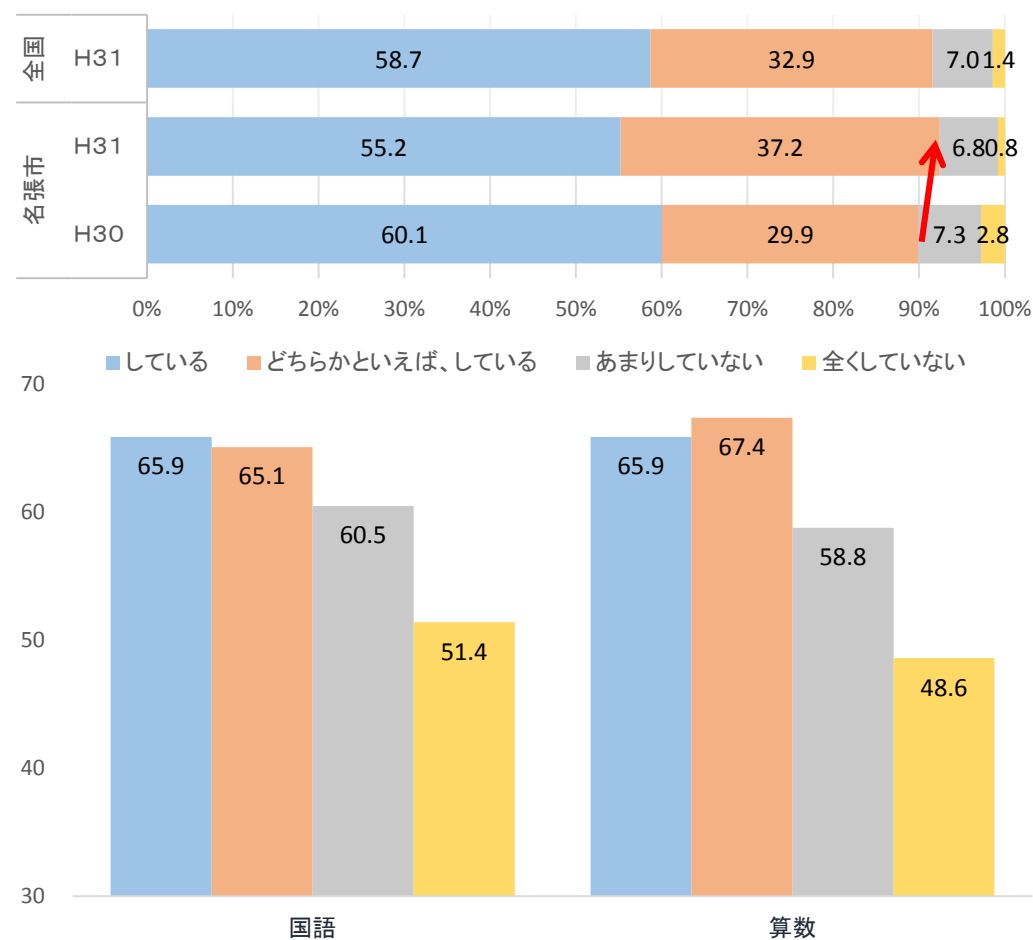
中学校



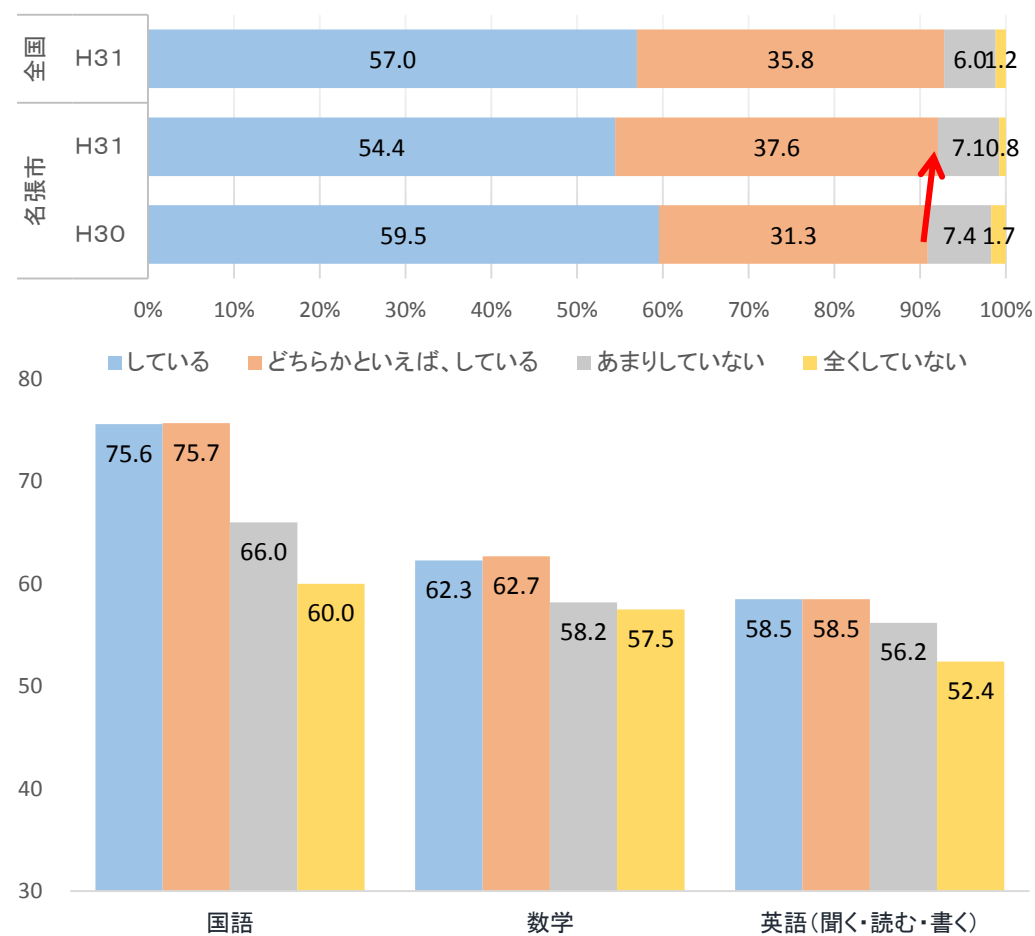
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度よりやや増加し、中学校では、全国よりやや高い結果となっています。

③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

小学校



中学校



☞ 肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度よりやや増加しました。小学校では、全国よりやや高い結果となっています。

【生活習慣で特徴的なこと】

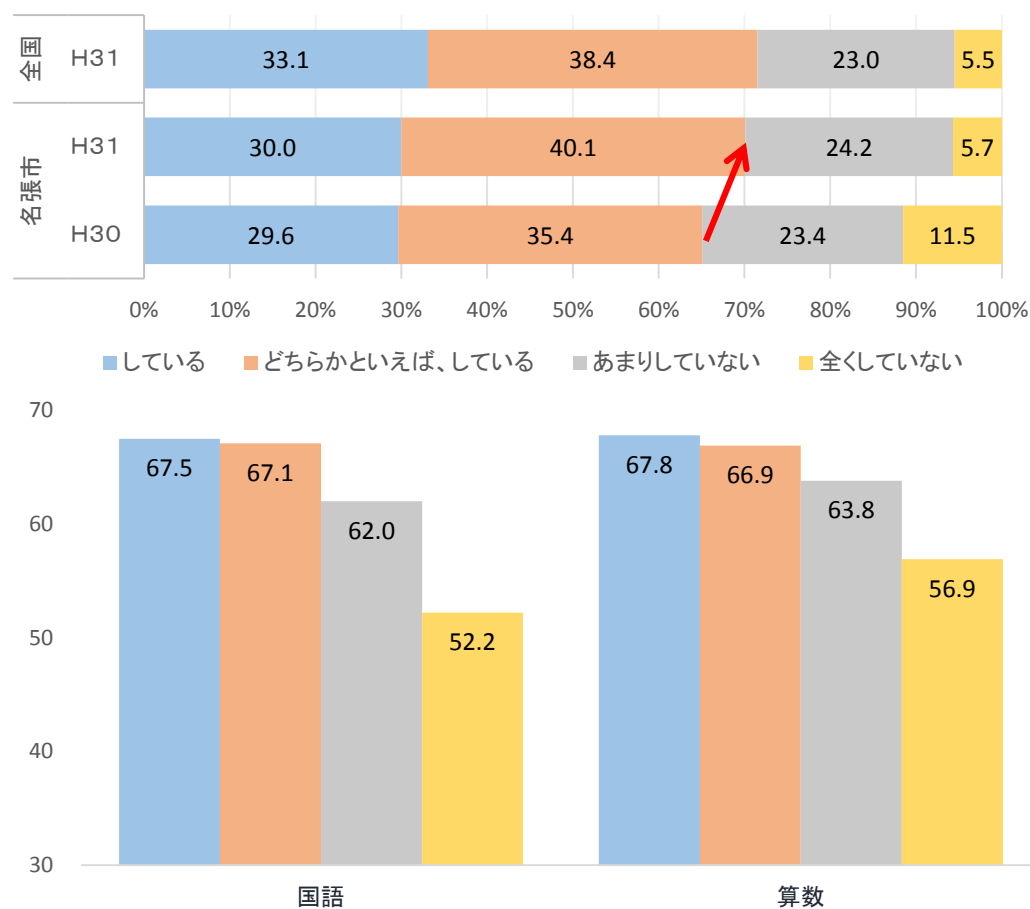
- ・「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して、「当てはまる」と回答した割合は、小学校で全国平均よりやや低く、中学校でやや高い。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日、同じくらの時刻に起きていますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小・中学校ともに、昨年度より増加した。

☞ 上記のクロス集計から分かりますが、家庭での生活習慣と、学力には強い相関関係があります。子どもたちの健やかな成長のためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。子どもがこうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところですが、本市の子どもたちは、必要不可欠な基本的な生活習慣が十分に身に付いているとは言えません。学校と家庭がこれまで以上に連携を強化し、生活習慣の確立や生活リズムの向上を学習意欲の向上につなげる必要があります。

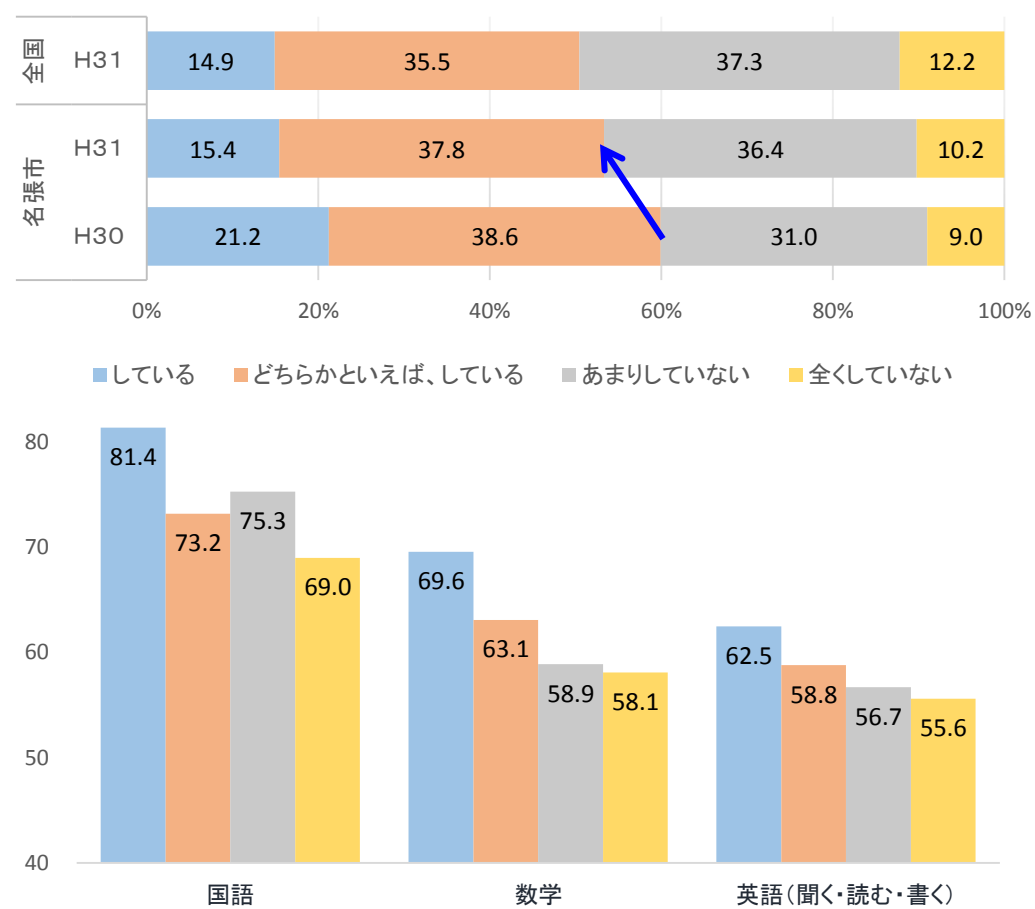
(3) 家庭学習に関すること

①家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

小学校



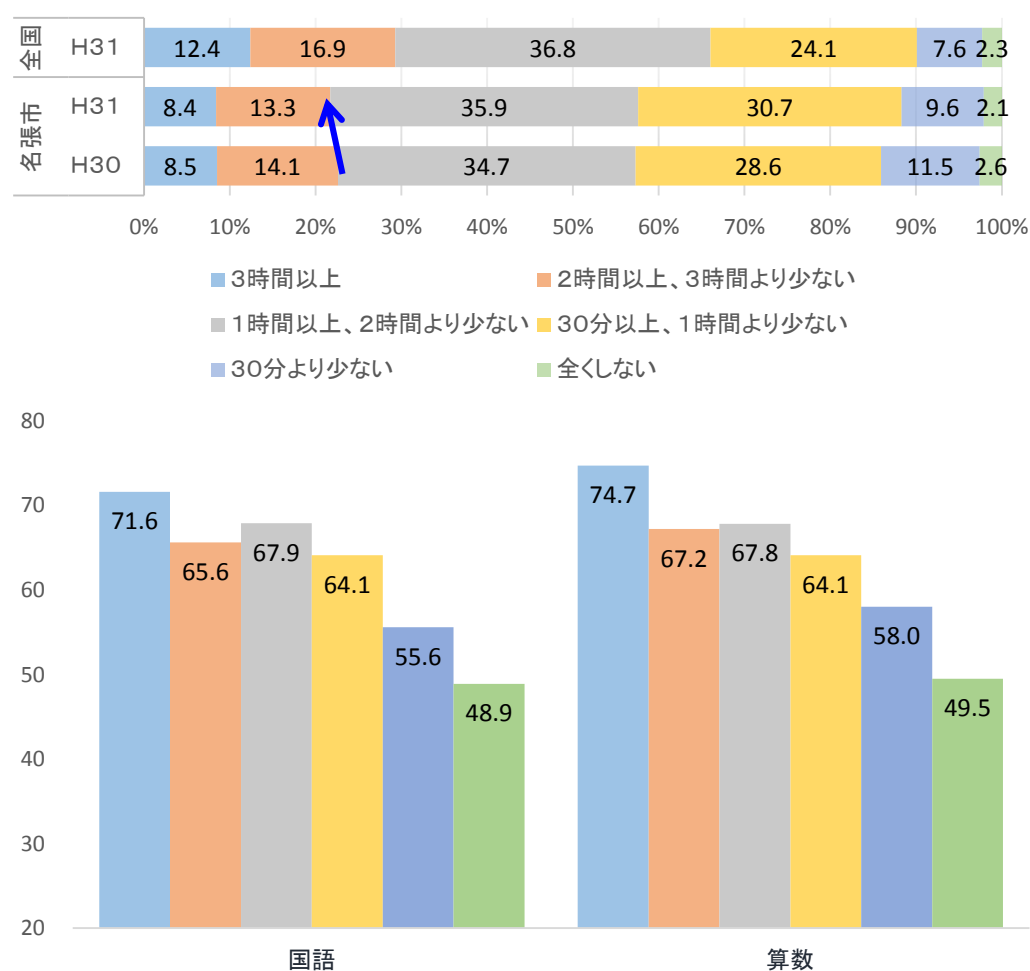
中学校



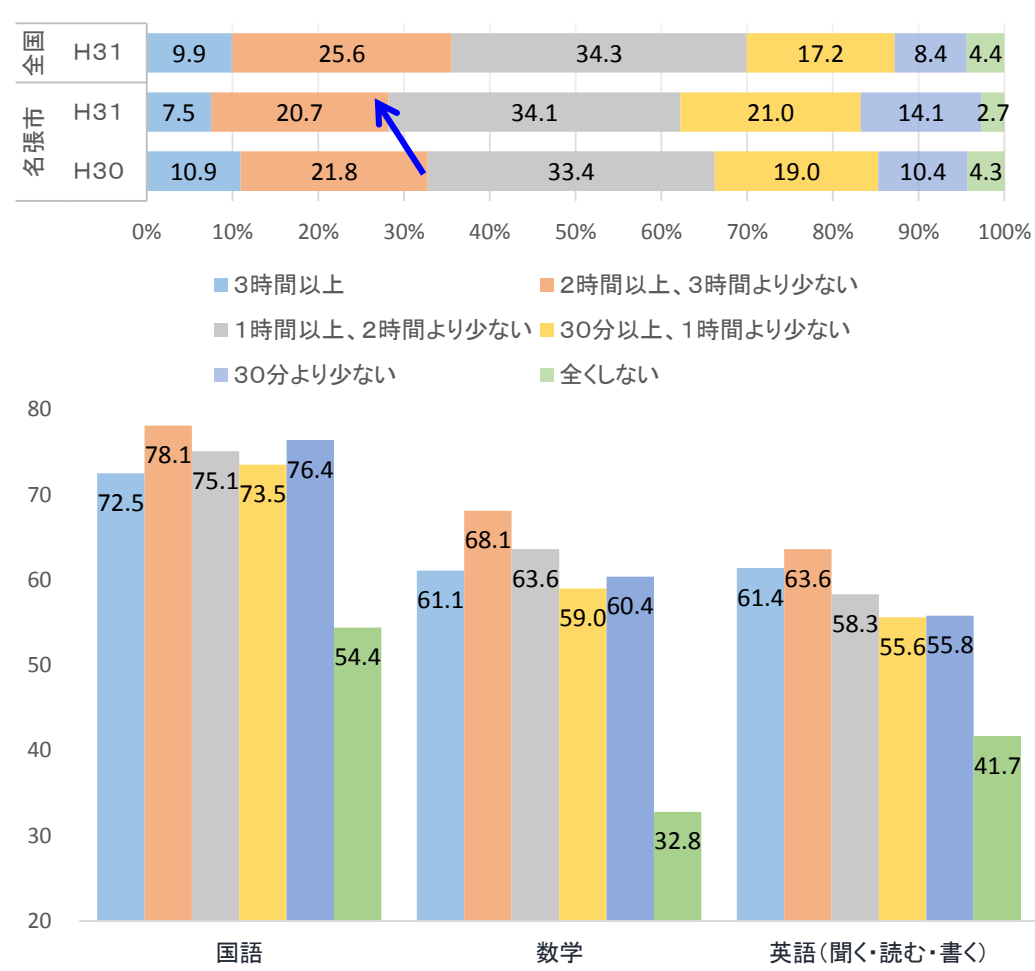
👉 肯定的回答が、小学校は昨年度より増加しましたが、全国より低い結果となっています。中学校は、昨年度より減少しましたが、全国より高い結果となっています。

②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学校

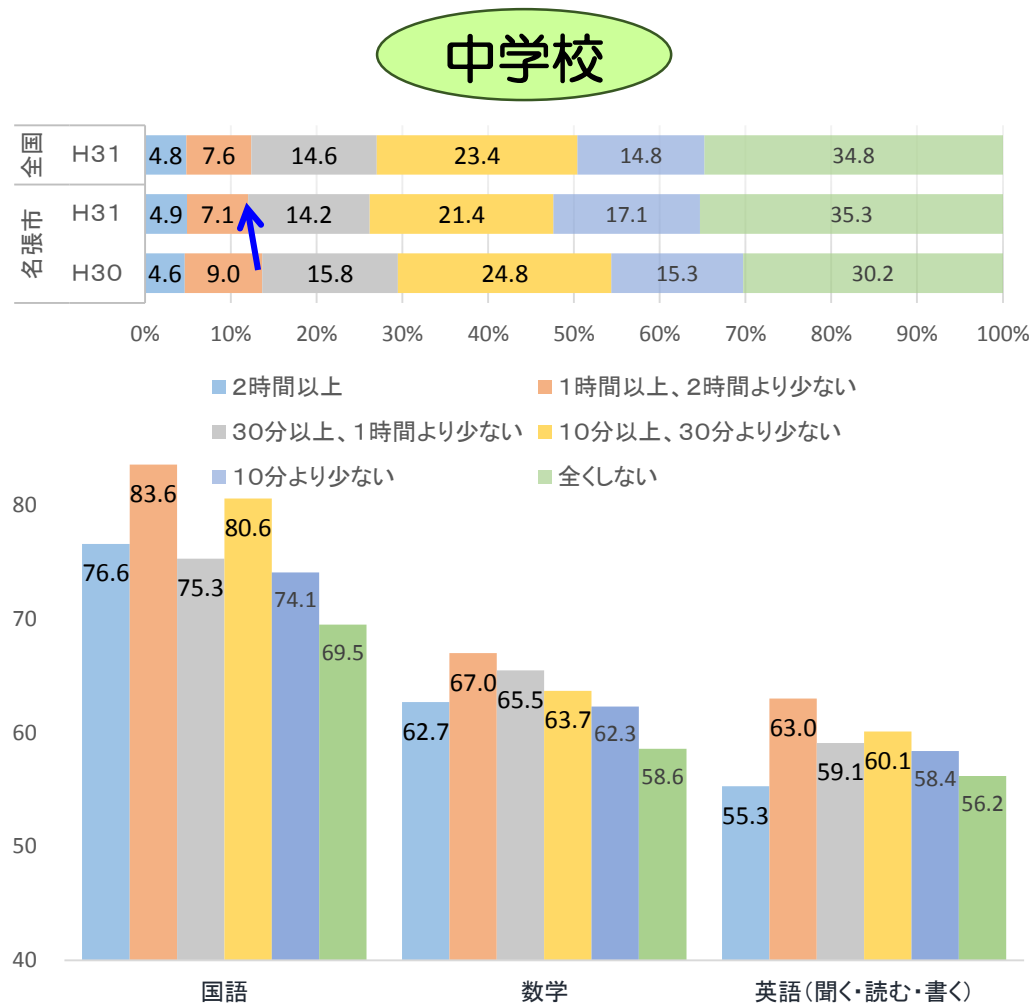
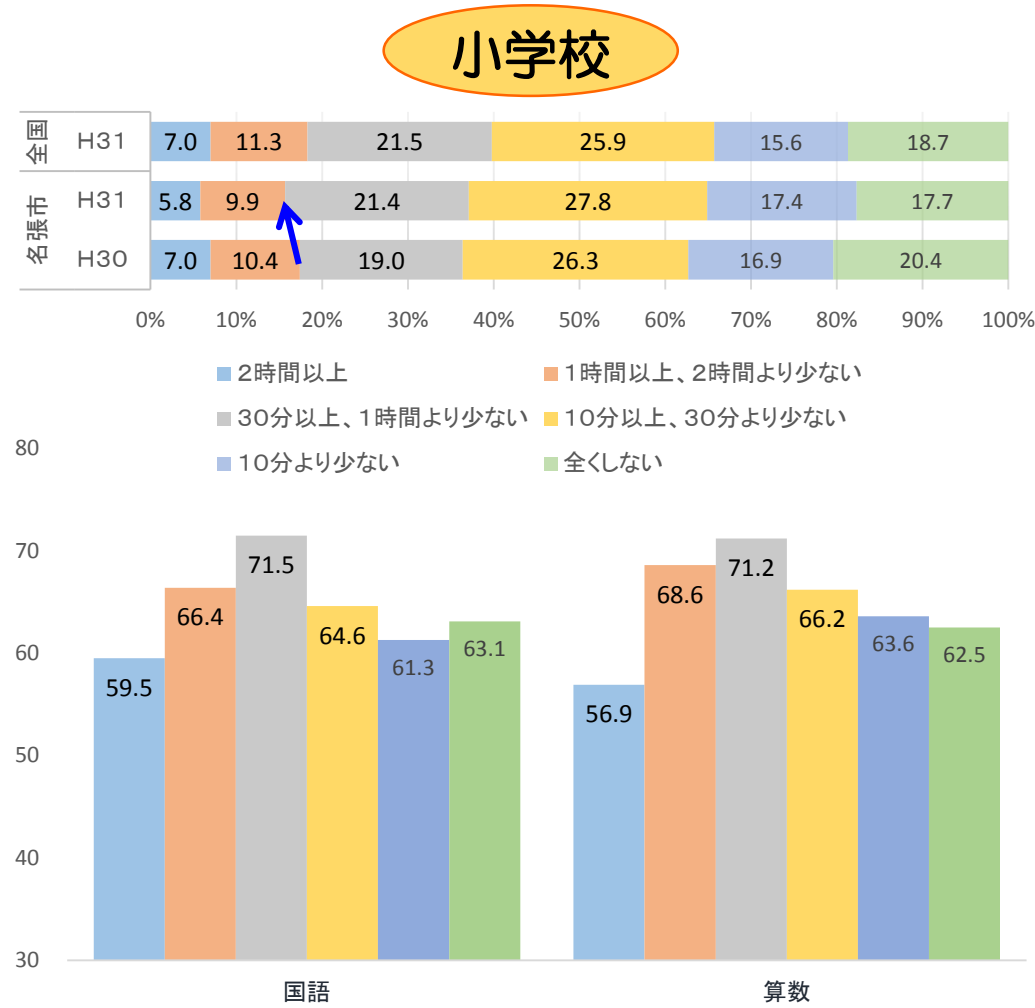


中学校



👉 学習時間が長い児童生徒（2時間以上と回答）の割合が、小・中学校とも昨年度より減少し、全国より低い傾向が続いています。

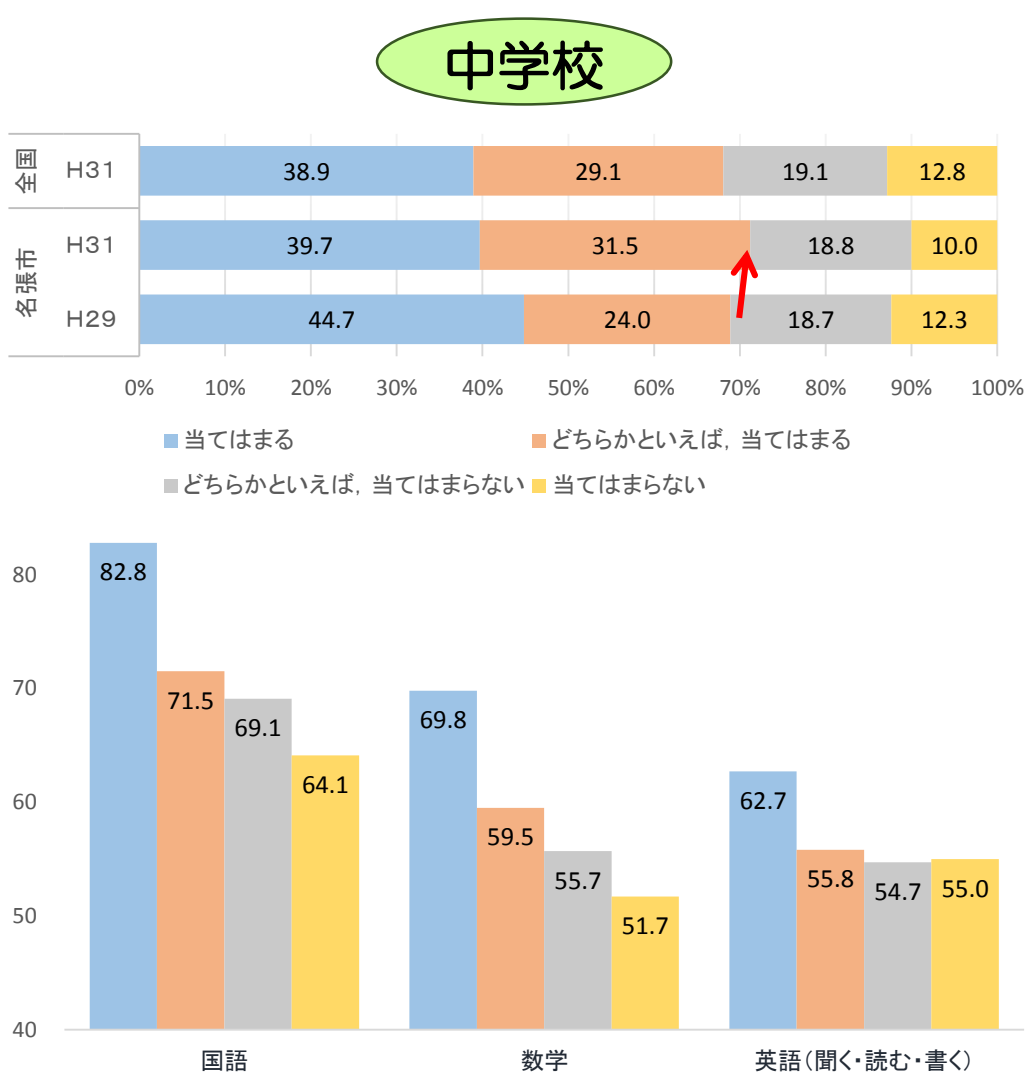
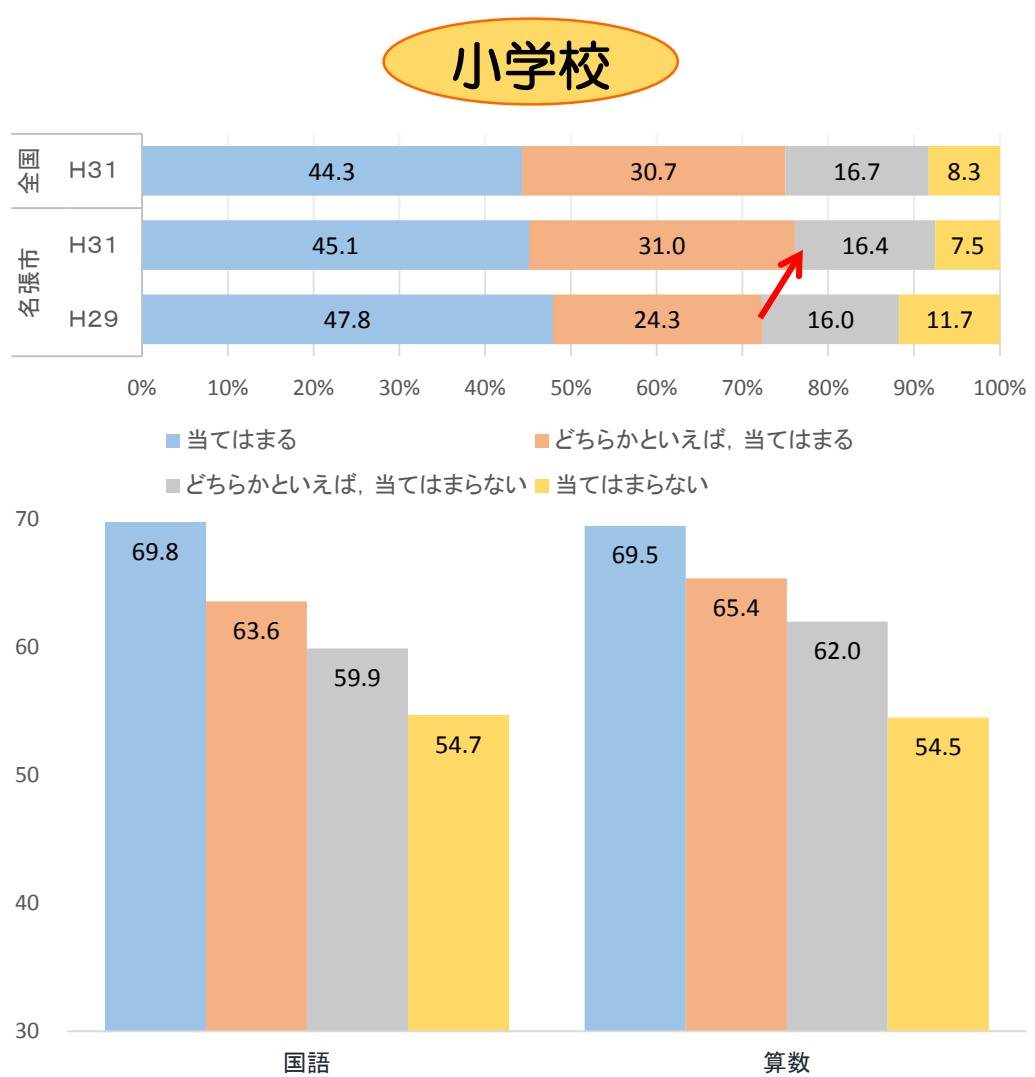
③学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



読書時間が長い児童生徒（1時間以上と回答）の割合が、小・中学校とも昨年度より減少しました。全国より低い傾向が続いています。

④読書は好きですか。

※この質問は平成30年度になかったため、平成29年度と比較しています。



肯定的割合が、小・中学校とも昨年度より増加し、全国よりやや高い結果となっています。

【家庭学習について特徴的なこと】

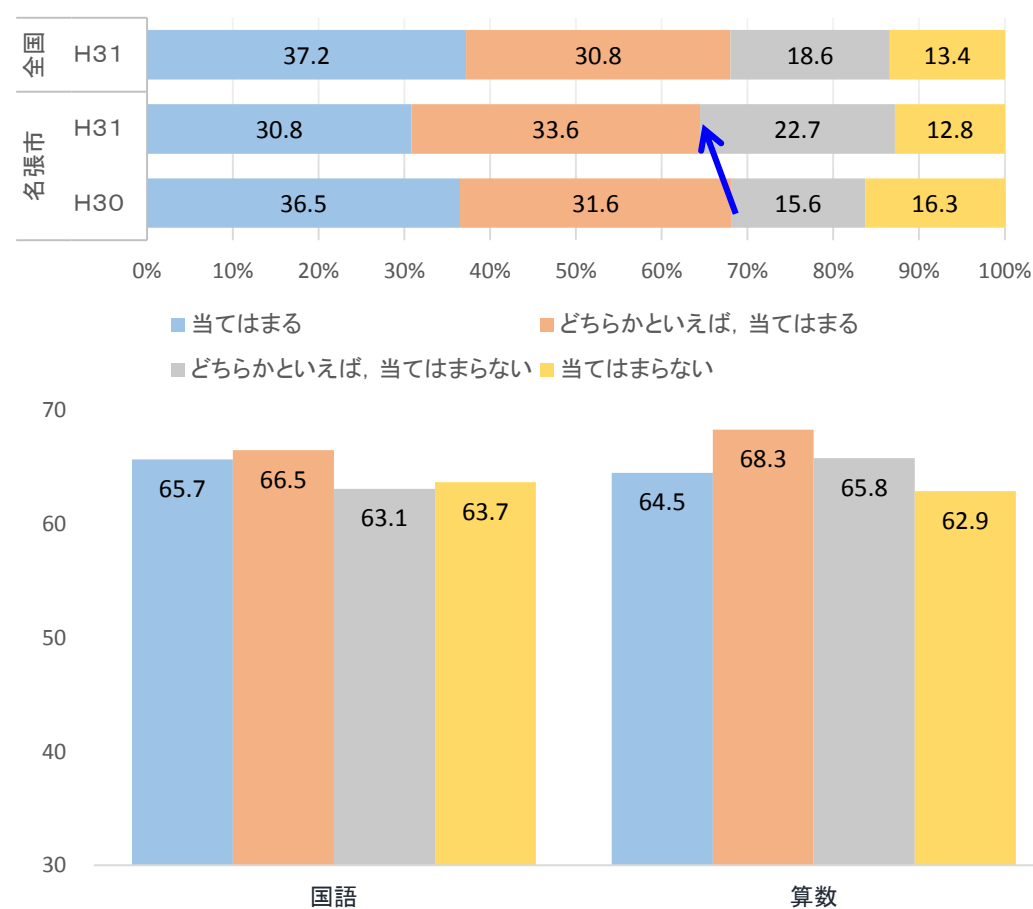
- ・「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問に対する肯定的な回答が、中学校では全国平均より高い。
- ・平日の家庭学習の時間について、小・中学校ともに、長時間（2時間以上）学習をする割合が昨年度より減少し、短時間（1時間以内）しかしない割合が全国より高い傾向が続いている。
- ・読書する時間について、小・中学校ともに、全国と比べると、長時間読書（1時間以上）をする割合が低く、短時間読書をする割合が高い。読書を全くしないと回答した児童生徒の割合は、小学校で全体の1／6、中学校で1／3程度である。
- ・「読書は好きですか。」という質問に対して、肯定的な回答割合が、小・中学校ともに昨年度より増加し、全国平均よりやや高い。

☞ 本市の子どもたちの、家庭における学習時間が、全国平均に比べてやや短い、という結果でした。調査結果には、学習塾での学習時間が含まれている為、正確な家庭における学習時間ではありませんが、トータルではやや短いということです。また、読書の時間も全国平均より総じて短いという結果です。既に取り組んでいる学校も多いのですが、今後、学校からの宿題等含め、家庭学習の時間や内容について見直し、家庭での学習習慣・読書習慣の定着に向けて、家庭と連携して取り組んでいく必要があります。

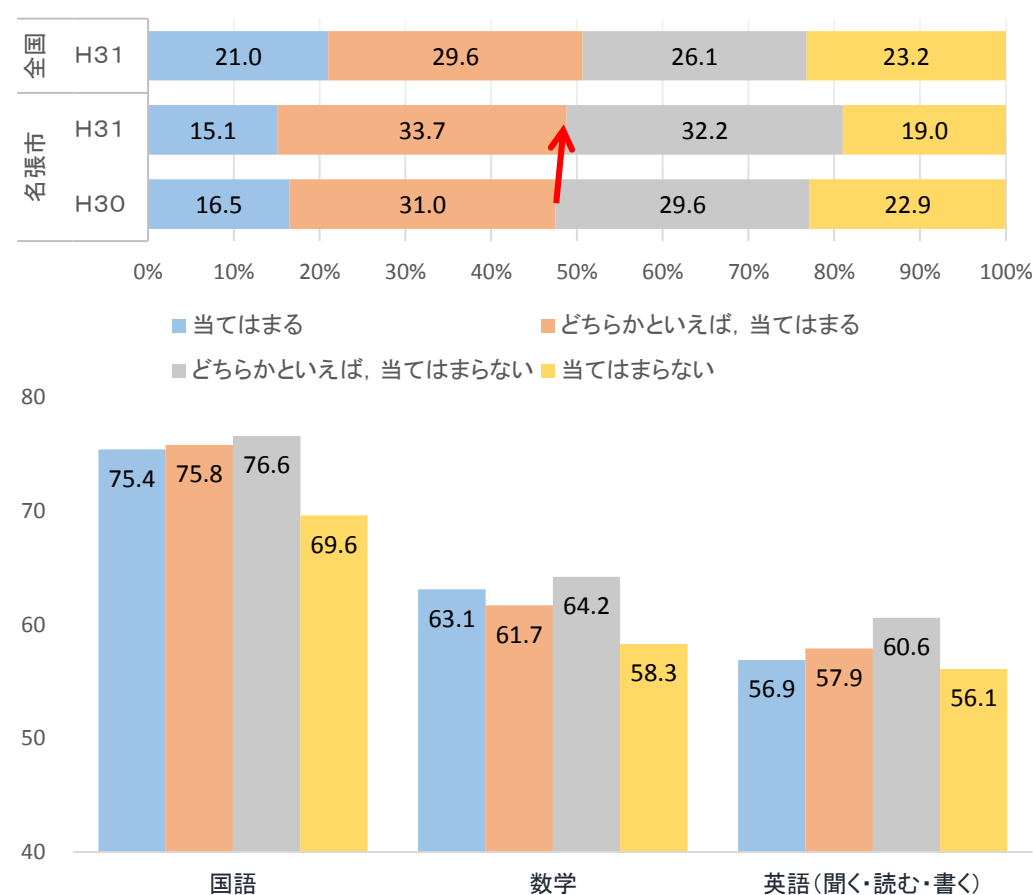
（４）地域貢献・社会貢献に関すること

①今住んでいる地域の行事に参加していますか。

小学校



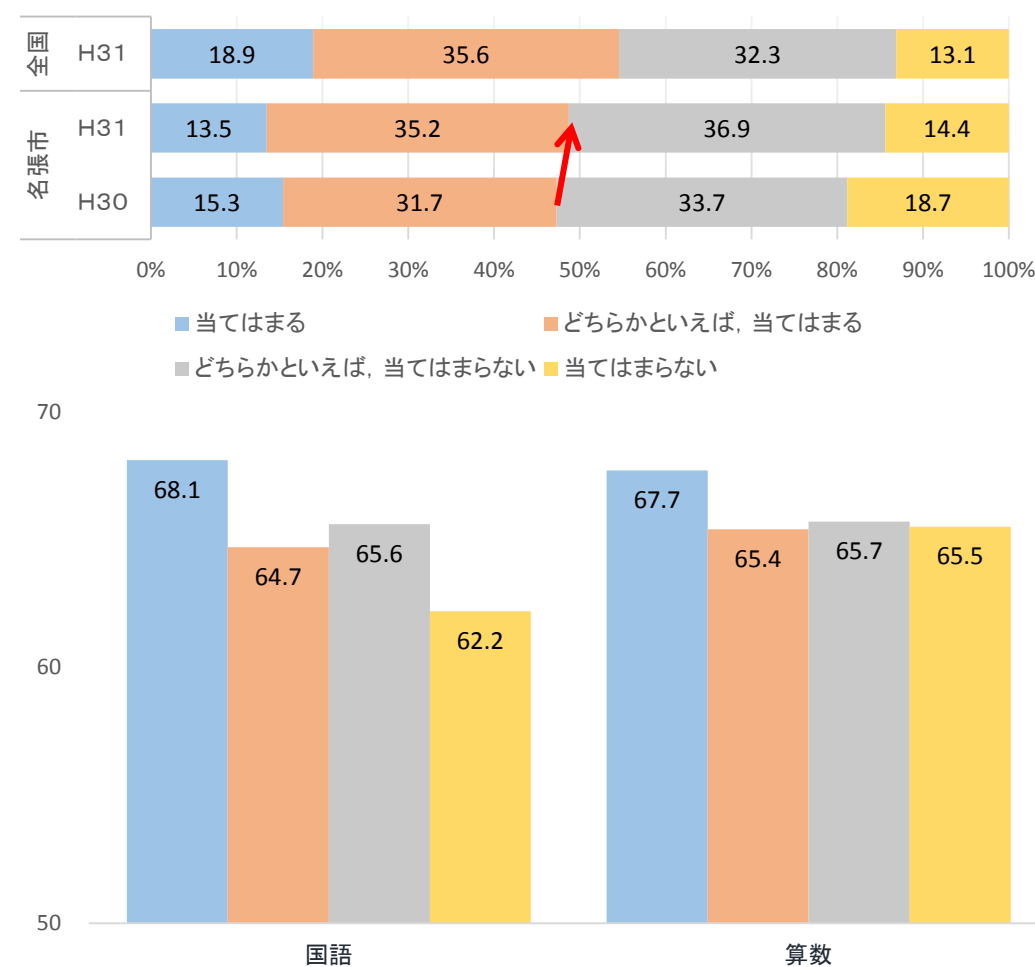
中学校



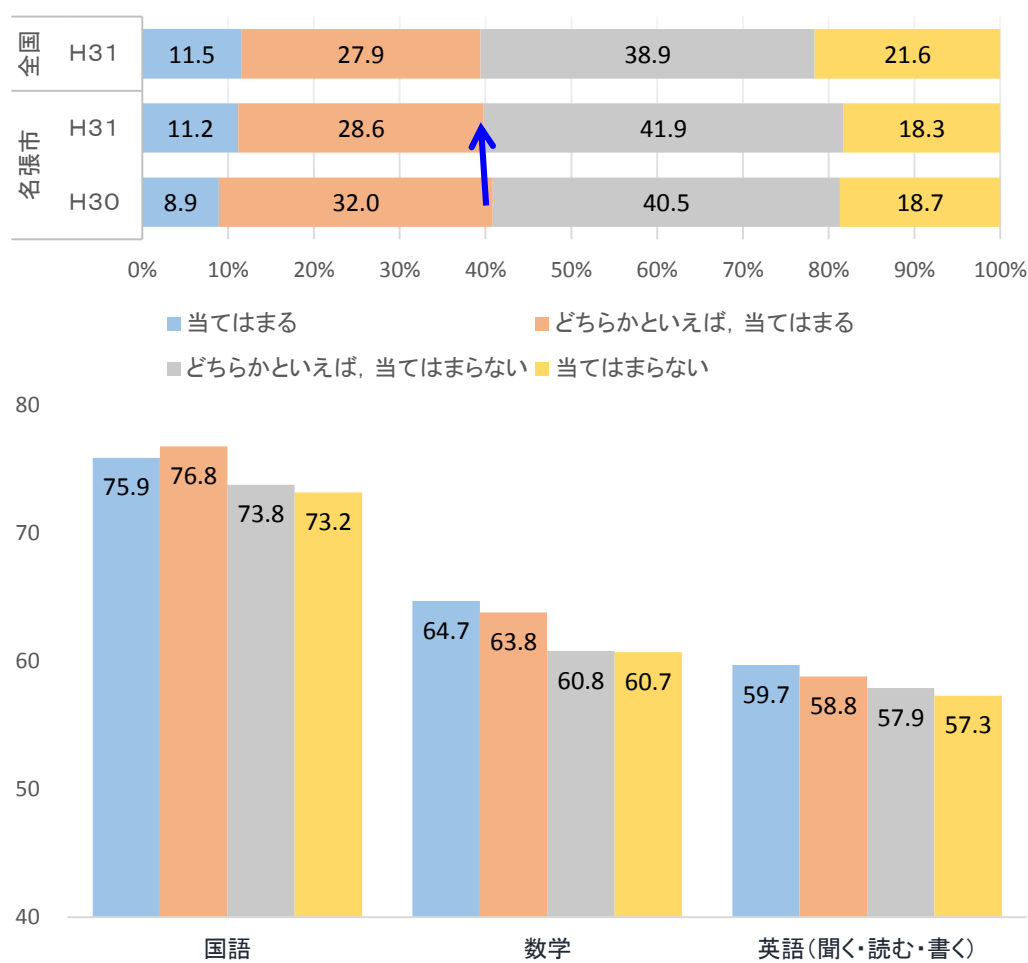
肯定的回答が、小・中学校ともに全国よりやや高い結果となりました。中学校では、昨年度よりやや増加しています。

②地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。

小学校



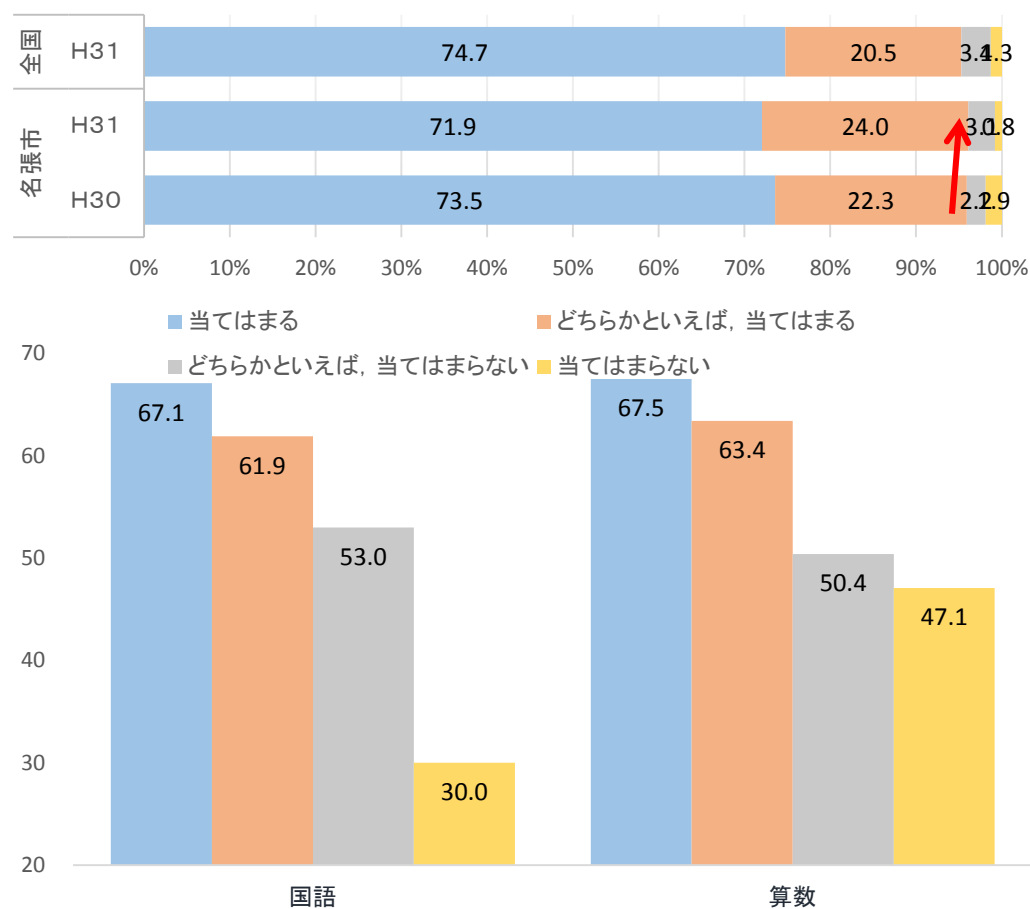
中学校



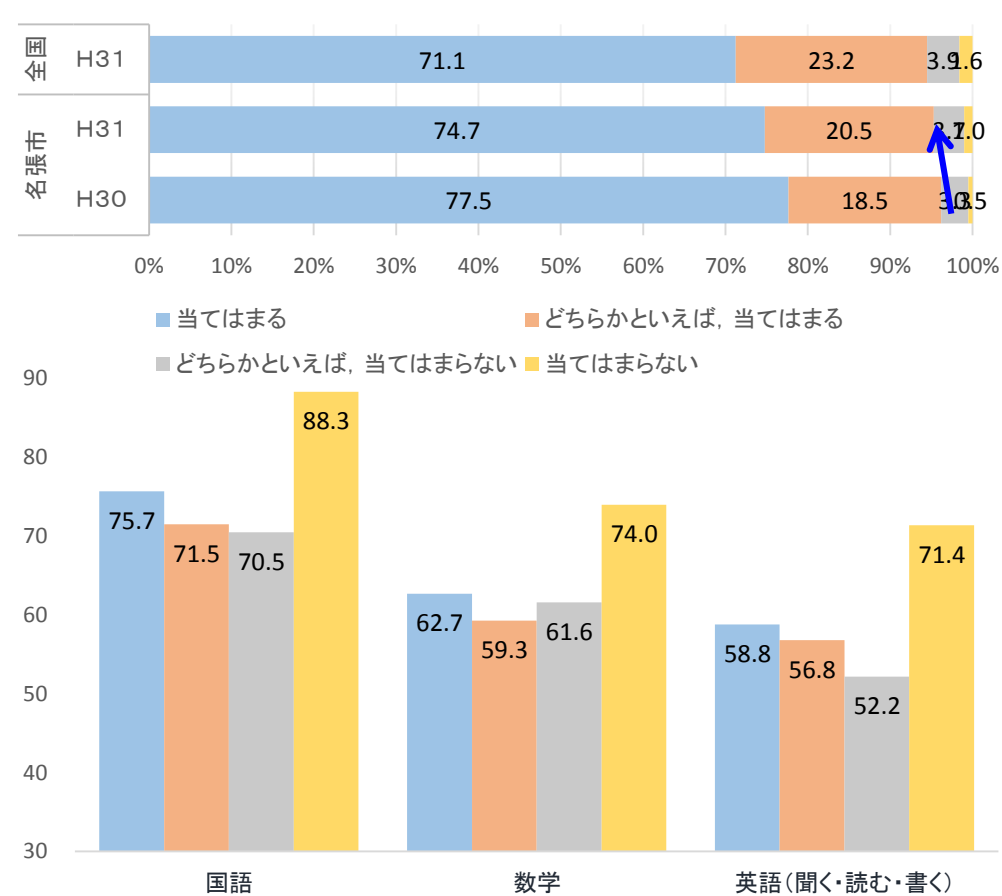
肯定的回答が、小学校は昨年度よりやや増加し、全国より高い結果となりました。中学校は、昨年度よりやや減少しましたが、全国よりやや高い結果です。

③人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

小学校



中学校



肯定的回答が、小学校で昨年度よりやや増加し、小中学校ともに全国よりやや高い結果となりました。

【地域貢献・社会貢献について特徴的なこと】

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、中学校で昨年度よりやや増加したが、小・中学校ともに全国平均を下回った。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えている児童生徒の割合が、全国と比べると、小学校で低く、中学校でやや高い。
- ・人の役に立つ人間になりたいと考えている児童生徒の割合が、小学校で昨年度よりやや増加し、小・中学校ともに全国平均より高く、貢献心が高い。

地域の行事への参加について、小・中学校ともに全国平均を下回る結果となりました。ふるさと学習等により、自分の住んでいるふるさとのことをより詳しく学ぶことで、ふるさとに愛着をもち、地域の一員として何ができるかを考える機会を増やすなど、地域貢献・社会貢献に対しての関心を高める必要があります。

また、本市の子どもたちの貢献心は、小・中学校ともに全国平均より高いという、よい傾向が続いています。

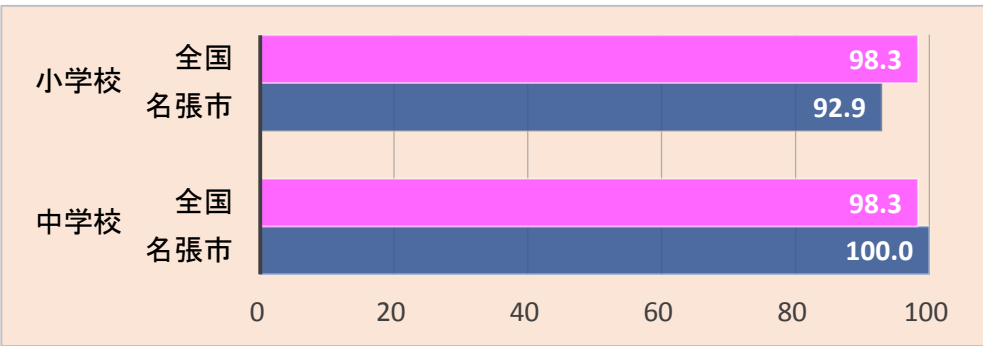
4 学校質問紙調査結果の特徴的な傾向と分析

「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。

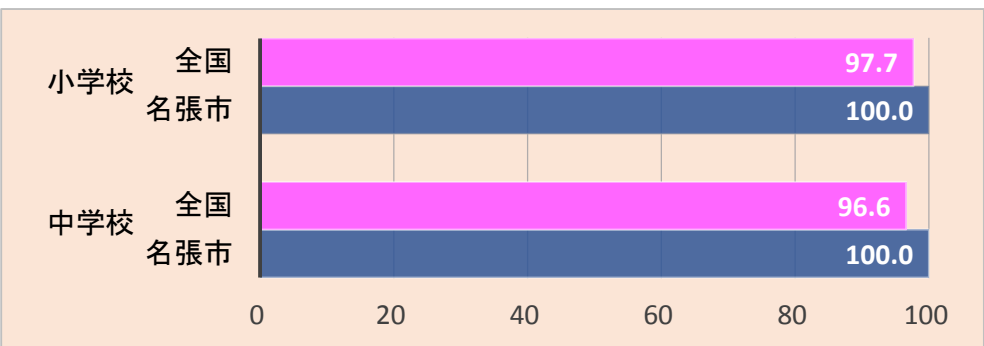
ここでは、「学校質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（%）

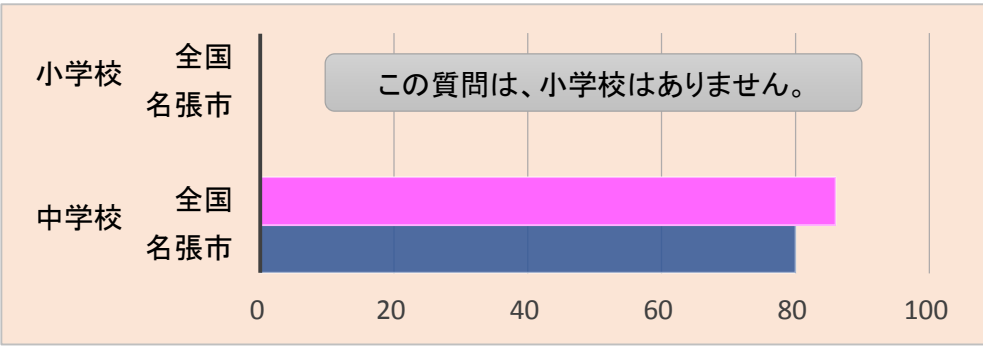
①調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。



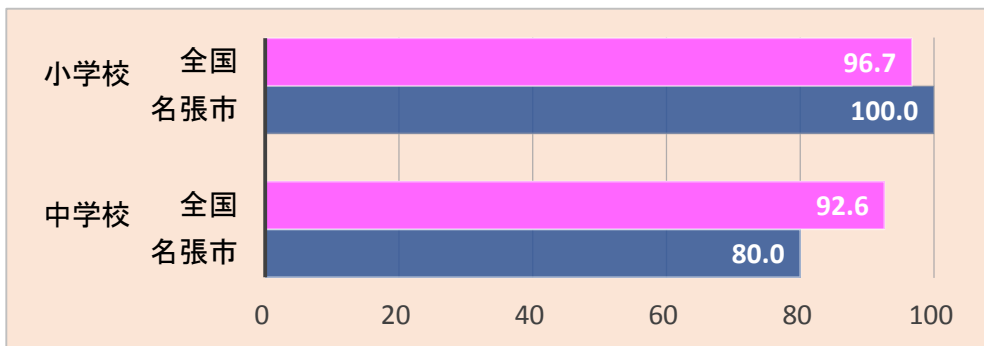
②調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。



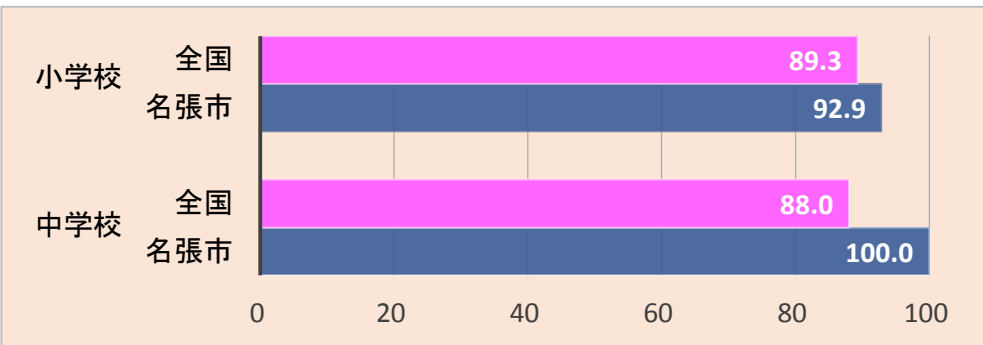
③調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、どの程度、授業を英語で行いましたか。



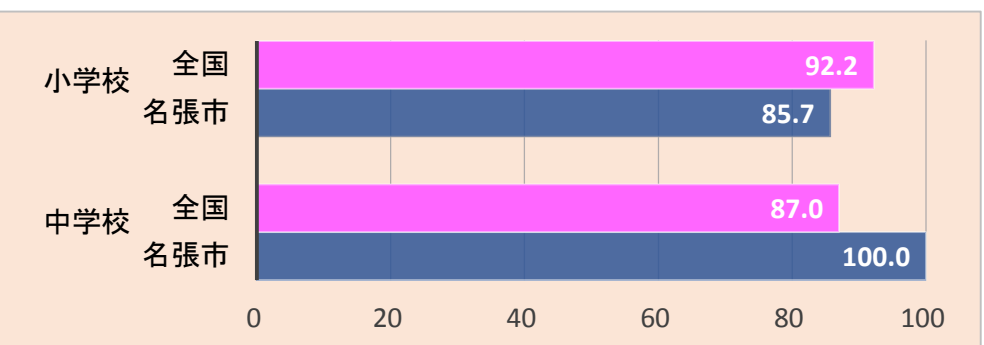
④調査対象学年の児童（生徒）に対して、特別の教科 道徳（道徳の時間）において、児童（生徒）自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか。



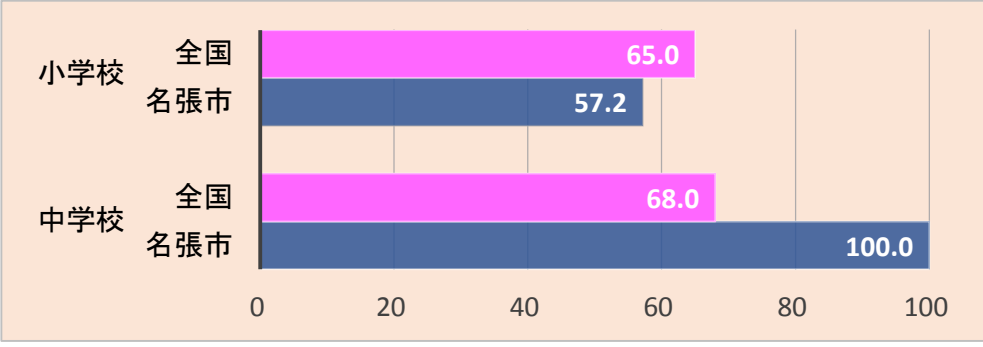
⑤調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。



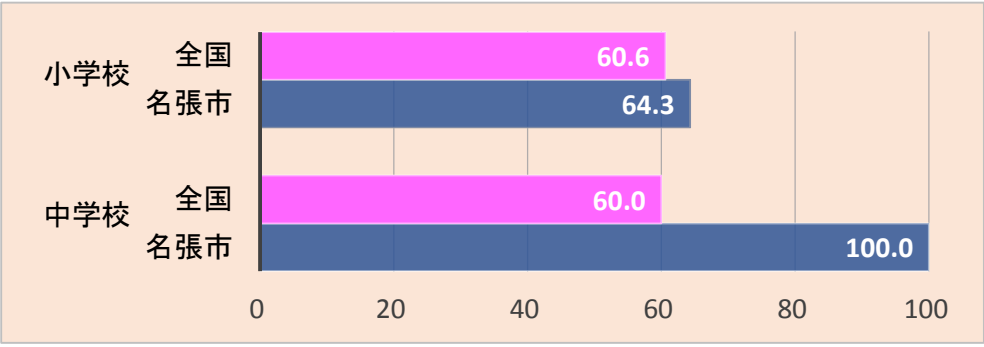
⑥調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。



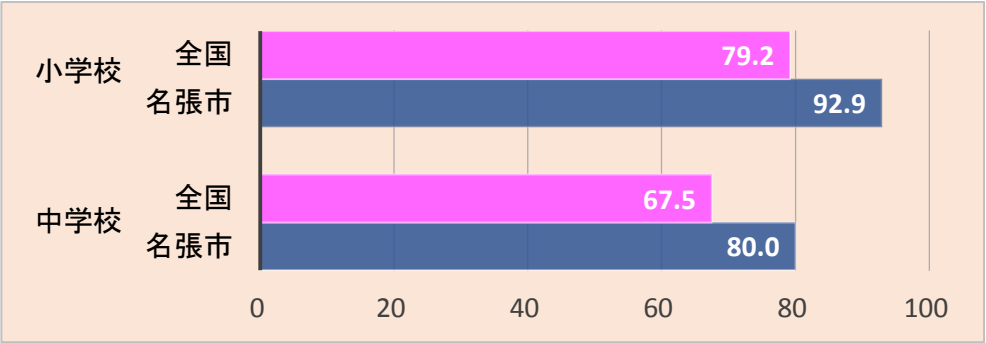
⑦前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。



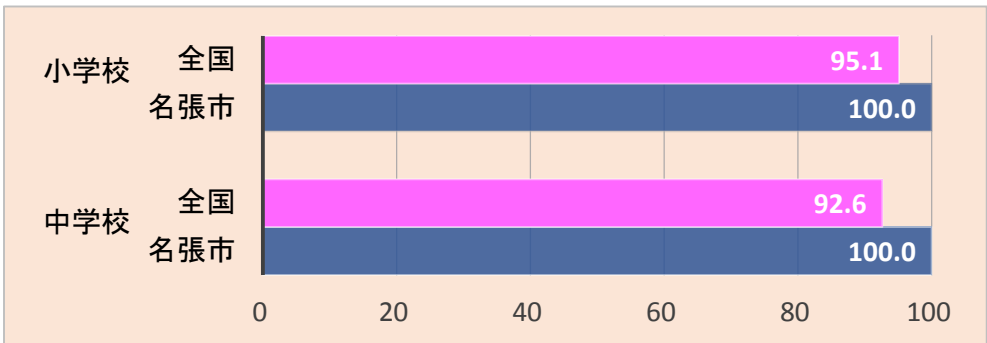
⑧平成30年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか。



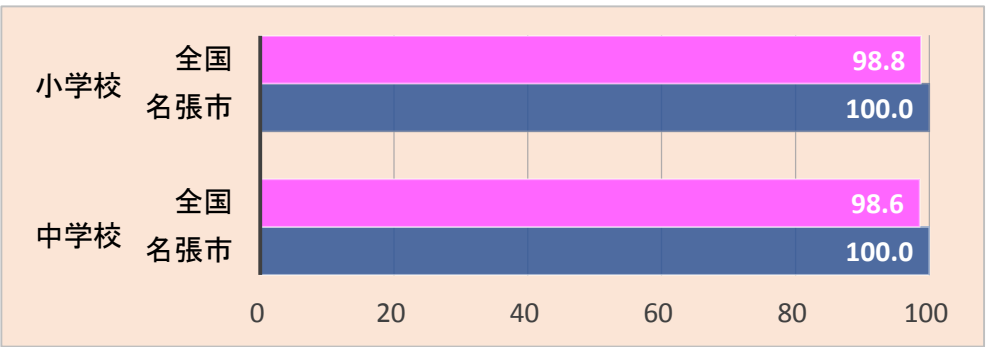
⑨地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動（学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など）を行いましたか。



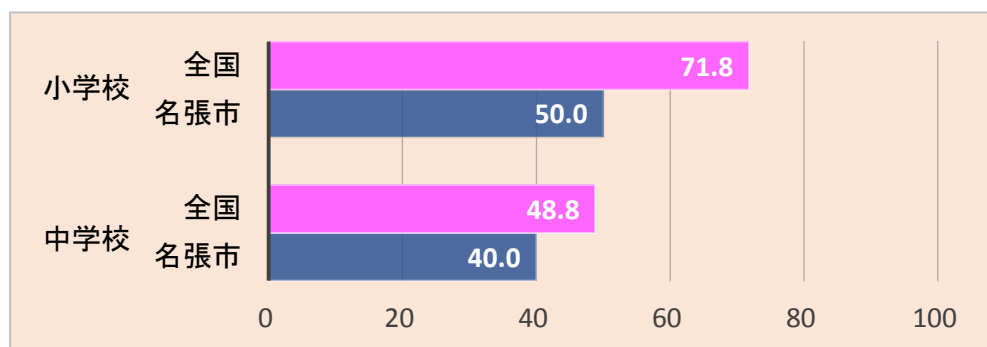
⑩学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童（生徒）に対する授業の中で、児童（生徒）の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか。



⑪調査対象学年の児童（生徒）対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。



⑫校長は校内の授業をどの程度見て回っていますか。（ほぼ毎日）



※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（％）

【学校質問紙調査について特徴的なこと】

・国語では、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業の実施について高い数値を示しているが、平均正答率が低い問題もある。単なる反復練習だけでなく、定着につながる指導の工夫が必要である。また、記述式の問題については、平均正答率が低い傾向が続いているため、問題文をしっかりと読み取り、条件を満たして書けるように指導していく必要がある。

・算数・数学では、計算問題などの反復練習をする授業の実施については小中学校ともに１００％で、全国平均を上回った。今後も、基礎的な知識・技能を確実に身に付けさせ、定着を図りながら、児童生徒の実態に応じ、発展的な内容の取扱いも増やし、活用力もつけていく必要がある。

・英語では、小学校での外国語活動を行ってきた児童が中学校に進学してくることをふまえ、聞く力や話す力をさらにつけるため、オールイングリッシュによる授業を心がけ、英語に接する機会や英語でのコミュニケーションの場を意図的に増やしていく必要がある。

・児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行っている割合は、小中学校ともに１００％となっており、ユニバーサルデザインの視点は、授業改善の中で意識されてきている。そのことが学ぶ意欲の向上や学習内容の理解・定着につながっているかを常に評価し、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善や工夫を行い、主体的・対話的で深い学びが各教科等で展開されるよう改善していく必要がある。

・各小中学校は、本調査の結果等を積極的に保護者や地域に発信しており、学校生活ボランティア等、保護者、地域の方々が様々な活動に参加し、充実した教育活動が展開されている。来年度、すべての学校にコミュニティ・スクールが設置されてことを踏まえ、さらなる充実が期待される。

・来年度、すべての中学校区において小中一貫教育が本格実施されることもあり、近隣の小学校（中学校）と教育目標を共有する取組や本調査の分析結果（成果や課題）の共有等については、全国より進んでいる。しかし、小学校と中学校の数値には大きな差があるため、このギャップを埋めていく取組が必要である。

・校長が校内の授業をほぼ毎日見回る割合は、小・中学校ともに全国より低い結果となっており、今後も校長のリーダーシップのもと、全校体制で授業改善に取り組んでいく必要がある。

5 成果、課題と今後の取組について

名張市教育委員会では、平成28年度から、第二次名張市子ども教育ビジョン（平成28年3月策定）に基づき、「夢をはぐくみ 心豊かで 元気な 『ばりっ子』」を目指す子ども像に、さまざまな取組を進めているところです。

子どもたちの確かな学力の向上をめざし、数年来取り組んできた『学力向上3本の矢』（①めあての提示と振り返りのある授業、②日常的な言語活動の充実、③充実した家庭学習）は、各学校・教職員にもかなり浸透し、一定の成果が見られます。

また、すべての中学校区で取り組んできた『魅力ある学校づくり』（わかる授業づくり、心の居場所づくり・絆づくり）の成果は、Q-U調査（学級満足度調査）の結果から、学年が上がるにつれて満足群に属する児童生徒の割合が増加する傾向が見られ、安心して学べる親和的な人間関係、学習環境づくりの取組が定着してきているといえます。

さらに、平成29年度からは、平成29年3月に告示された（本年度は移行期間の）新学習指導要領も見据え、『主体的・対話的で深い学び』の視点も新たに加え、学習過程の質的改善をすることによる授業改善に取り組んでいます。

このように、子どもたちにとってわかる授業づくりを進めることにより、子どもたちの学習意欲と学力の向上を目指すとともに、子どもたちの生きる力を育て、中学校卒業時には十分な学力をつけて卒業できるよう取り組んできました。

これまでの取組の結果、本年度の調査で以下のような成果が現われています。

○ 本年度の調査から国語、算数・数学のA・B区分がなくなり、知識・活用を一体的に問う問題構成となりました。小学校では、本年度、国語で全国平均を上回り、算数も全国平均をわずかに下回る結果となりました。中学校では、国語、数学ともに全国平均を上回りました。また、今回、初めて実施された英語（聞くこと・読むこと・書くこと）も全国平均を上回りました。

本年度の中学校3年生生徒が小学校6年生時の結果と比較してみると、国語、算数・数学ともに3年前の全国比より伸びが見られ、よい傾向がここ数年続いています。

○ 各教科の無解答率は、小学校は国語で、中学校はすべての教科で全国平均より低いよい結果となり、平均正答率との相関が見られました。最後まで諦めず粘り強く取り組むよう指導している成果と考えられます。

○ 児童生徒質問紙調査において、「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、中学校英語も含め、すべての教科で全国平均を上回りました。授業改善により児童生徒の学習意欲の向上が進んでいる成果といえます。

地域貢献・社会貢献に関しては、昨年度より減少した質問項目もありますが、小学校1年生から4年生において本年度から本格実施している（小学校5年生から中学校3年生は本年度から試行）ふるさと学習「なばり学」の実施により、さらなる向上が期待されます。

「人の役に立つ人間になりたい」等、貢献心において、本年度も全国平均を上回るよい傾向が見られます。

しかし、同時に以下のような課題もあります。

○ 国語では、小学校の学年別配当漢字表に示されている漢字を書く問題で、正答率の低い問題や無解答率の高い問題があり、引き続き定着に向けた工夫した指導が必要です。また、中学校では、封筒の書き方を理解して書く問題の正答率が低く、封書を書く経験の不足が浮き彫りになりました。記述式問題は、本市においても経年の課題となっていました。全国よりも正答率がやや高い結果となりました。

小学校算数では、除法の式の意味を問う問題、図形の面積の求め方を説明する記述式問題等に弱みが見られました。中学校数学では、2点のy座標の差が表すものを選ぶ問題や事象や資料から読み取れることを数学的に説明する記述式問題等に弱みが見られました。

中学校英語（聞くこと・読むこと・書くこと）では、音声メッセージを聞いてアドバイスを書く問題、資料を読んで自分の考えを書く問題、2つの案を比較して理由とともに意見を書く問題等、記述式問題に弱みが見られました。

- 無解答率については、全体的に見ると改善されてきていますが、10%を超える問題（最大33.7%）や全国平均より高い問題があることが課題です。学校で普段行っているテストとの形式の違いをふまえ、長い文章を短時間で読み解く力、問題に取り組むペース配分等がより一層必要になってきます。
- 家庭生活では、学習時間が短く、読書習慣も定着していない現状が本年度も見られます。自ら意欲的に家庭学習に取り組もうとする態度にまで高め、学力向上に結びつけるための工夫した手立て・支援が求められます。

このような課題克服のため、「第二次名張市子ども教育ビジョン」の方針に基づき、さらなる学力の向上に向けた以下の取組をすすめます。

＜教職員の指導力の向上とたゆまぬ授業改善＞

これまでに引き続き、学力向上に向けた効果的な指導方法を全教職員で共有し、『魅力ある学校づくり』をベースにして、『学力向上3本の矢』（めあてと振り返りのある授業、言語活動の充実、充実した家庭学習）や新学習指導要領本格実施も見据えた『主体的・対話的で深い学び』の視点、『ユニバーサルデザイン』の視点を意識するなど、わかる授業づくりのための授業改善を進めていきます。また、一人ひとりの定着の状況をふまえ、少人数指導（習熟度別指導）または個別指導を一層強化していきます。これらのことが、子どもたちにとっても、教職員にとっても、“やればできる”という実感、達成感や自信につながるよう、学校長のリーダーシップのもと、全校体制で学力向上に取り組んでいきます。

さらに、教育委員会の指導主事が積極的に学校を訪問し、学力向上のための各学校の今後の取組の聞き取りや授業参観等を実施し、具体的な指導・助言をするなど、直接的な学校支援を行います。また、教育センターの研修講座では、社会の情勢や学校の教育課題を考慮した満足度・活用度の高い研修を実施し、教職員の能力、指導力等を高めていきます。

＜PDCAサイクルの確立＞

全国学力・学習状況調査の結果提供が早期化されたことを受け、該当学年・教科担当者だけでなく、全校体制での自校採点、分析によって自校の強みと弱みの把握に努めるとともに、弱みを克服するための学習指導・学習支援を早い段階から積極的に行います。

すべての学校、学年、学級、教科の担当者が、すべての子どもたちにその学年で身につけるべき学力の確実な定着を図り、進級・進学させるために、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用して年度内に自校の取組を検証し、次なる授業改善に生かします。また、学習内容の理解と定着の確認を大切に、学校体制での系統的・継続的な取組、教職員の意欲的かつ主体的な取組を推進していきます。

＜小中一貫教育の推進＞

本市では、来年度からの小中一貫教育本格実施に向けて、①小中学校の教職員による「子どもの実態・情報」の共有、②中学校区の「めざす子ども像」及び「教育目標」の策定、③小中学校が一体となる「グランドデザイン」の作成等の取組を本年度中に進めます。さらに、小・中学校9年間を見据えたカリキュラムも順次作成し、すべての教員が9年間の学習について具体的なイメージをもち、当該学年における指導の充実や指導方法の改善を図っていきます。教職員が校内はもちろん、校種の枠を越えて、義務教育9年間の一貫した系統性・連続性のある指導・教育を行うことにより、子どもたちの学びと育ちを保障し、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力をはじめとする「確かな学力」を育てていきます。

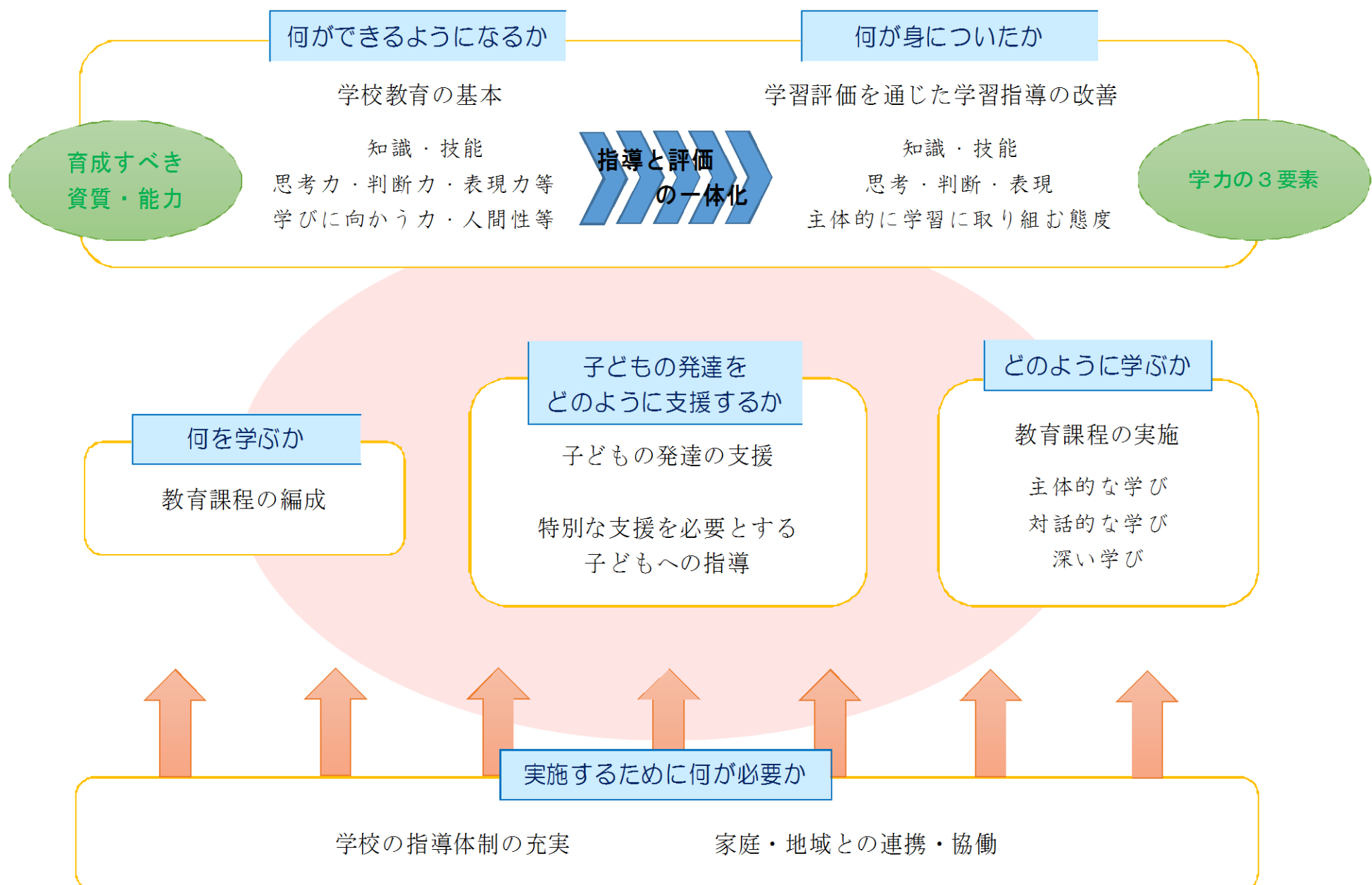
＜コミュニティ・スクールの推進＞

これまでの家庭学習定着の取組はもとより、ファミリー読書の推進、食生活の改善等、学校と家庭がより一層連携・協働を深め、取組を進めていく必要があります。

本市では、来年度にはすべての学校にコミュニティ・スクールを設置します。学校が地域コミュニティの絆や生きがいの核となり、学校、家庭、地域がともに知恵を出し合い、子どもの生活習慣改善や学力の向上等、豊かな成長を支えていくための大きな推進力となるよう、一体となって取組を進めていきます。



夢をはぐくみ 心豊かで 元気な「ばりっ子」育成のために



将来の担い手となる
子どもたちのために



学校、家庭、地域、
教育行政が一丸となって

夢を実現する力
社会を拓く力
を育む教育を推進します！！